

第千貳百九拾號

○判文(懲役人逃走ノ件) 明治十四年八月二十日上告
明治十四年十月十五日判決

秋田縣羽後國南秋田郡保戸野表鉄砲町平

民當時懲役人

兒玉卯三郎

三十七年

明治十四年八月十日弘前裁判所秋田支廳ニ於テ右卯三郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀嚮キニ懲役終身ノ處刑ヲ受ケ服役中ニアリナカラ明治十四年七月十九日ノ夜同囚
鈴木伊之助等ト謀リ脱監逃走スル科捕亡律懲役人逃條例ニ照ラシ棒鎖三日ノ上新懲役終
身申付ル

但獄衣ヲ投棄スル罪ハ輕シ論セスト雖モ其代價ハ賠償セシム

秋田縣十等警部長尾岩之助ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月二十日附ヲ以
テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

本犯兒玉卯三郎儀嚮キニ懲役八年ノ處刑ヲ受ケ服役中明治十年中外役先ヨリ逃走外ニ在
テ竊盜贓三百圓以上ノ科ニヨリ弘前裁判所秋田支廳ニ於テ棒鎖二日ノ上懲役終身ノ處刑
ヲ受ケ明治十三年監獄署出火ノ際逃走外ニ在リ盜贓七百九拾圓三拾八錢五厘ノ科ニ依リ
弘前裁判所秋田支廳ニ於テ棒鎖十二日ノ上懲役終身ニ處セラレ服役中尙改心セス明治十
四年七月十九日夜釘ヲ以テ病監格子ヲ切破リ逃走シ同月二十二日捕縛審問ノ末弘前裁判

所秋田支廳へ公訴ニ及ヒタル處同應ニ於テハ明治十四年八月十一日ヲ以テ左ノ宣告ヲ爲
シタリ

〔宣告文畧ス〕

前條ノ如ク宣告ヲ爲スト雖モ本犯ハ再三逃走シタルモノナレハ明治十年第二十五號公布
ニ依リ懲役終身ノ囚人再ヒ逃走スル者ハ棒鎖十日トアルニ依リ即チ棒鎖十日ノ上懲役終
身ニ處スヘキナリ然ルニ弘前裁判所秋田支廳ニ於テ再逃ノ罪論セス單ニ懲役終身ノ囚逃
走スル者捕亡律懲役人逃條例ニ照シ棒鎖三日ノ上懲役終身ニ處セシハ不當ノ裁判ナリト
認定ス依之一件書類相添此段及上告候也

辨明

明治十年三月第二十五號公布改正懲役人逃條例凡懲役終身ノ囚人再ヒ逃走スル者ハ絞改
テ棒鎖十日トアリテ則被告兒玉卯三郎ニ於テハ再ヒ逃走スル者ナルニ因リ棒鎖十日ヲ科
スヘシ而シテ懲役終身ハ畢生間附着シタル刑ニシテ從新拘役ノ限ニ在ラサルヲ以テ此場
合ニ於テ更ニ懲役終身ノ宣告ヲナスニ及ハサルモノトス然ルニ原裁判所カ棒鎖三日更ニ
懲役終身ト處斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年八月十日弘前裁判所秋田支廳ニ於テ兒玉卯三郎ニ言渡シタ
ル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

兒玉卯三郎

三八一

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ改正懲役人逃條例ニ照シ

棒鎖十日

第千貳百九拾壹號

○判文(賭博ノ件) 明治十四年九月廿五日上告
明治十四年十月十五日判決

滋賀縣近江國甲賀郡林口村士族

宮

本 誠 治

瀧

明治十四年九月
四十八年二月
玄 三 郎
明治十四年九月
五十二年九月

明治十四年九月十六日京都裁判所大津支廳ニ於テ右誠治玄三郎ハ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

宮 本 誠 治

瀧 玄 三 郎

其方共儀上杉徳次郎外壹名俱々錢賭ケノ博戯ヲ爲ス科難犯律賭博條ニ依リ杖八十ノ處士族ナルヲ以テ改定律例第十八條ニ照シ禁獄八十日宛申付ル

但シ中瀬菊松ヨリ受取置ク贏金拾五圓ノ證書並ニ骨牌ハ取上ル

宮本誠治瀧玄三郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二十五日附キ以テ本院ニ上告スル要旨左ノ如シ

宮本誠治上告ノ要旨

抑モ賭博犯ナルモノハ其犯所ノ捕獲ニ非サレハ其罪ヲ問擬スヘキモノニ非ス且骨牌ノ證左アルモ其現所ニ於テ得タルノ證左ニ非サルノミナラス其骨牌ハ該賭博ニ用ヒタルモノニ非ス是レカ証憑タルヤ骨牌ハ四十二枚ヲ以テ全備セシモノニシテ壹枚タリトモ闕ケ不全備ナルニ於テハ賭具ノ用ヲナサス然ルニ水口警察署ニ於テ御取上ケナリタル骨牌タルヤ三十六枚ナリ是レ六枚欠ケタルモノニシテ賭博ノ用ニ供シタルモノニ非サルヤ明瞭タリ且前陳スル所ノ十五圓貸金ハ賭博ヨリ成立シモノニ非スシテ正當貸與セシモノナルニ是等ノ要點ヲ審究セシテ該證ヲ取上ケラレタルハ不服ノ第一ナリ蓋シ伺指令ハ一規ノ法律ニアラサレハ素ヨリ確乎不抜ノモノト謂テ得サレトモ亦據ル處アルモノト謂ハサルヲ得ス貴院賭博犯伺ニ明治十一年一月廿八日司法省指令ニ曰ク(伺之趣糺治シテ其罪ニ服スルモ非現行ニ係レハ其罪ヲ不問ニ措ク儀ト心得ヘシ)依之觀之モ賭博犯罪ノ如キハ其賭博現所ニ於テノ捕獲ニアラサレハ其罪ヲ問ヘキモノニ非ストス然ルニ京都裁判所大津支廳ノ裁判然ニ出ス現行非現行ノ區別ヲ論セシ漫然賭博ノ罪アルモノトシ禁獄八十日ト判決ヲ降サレタルハ未タ審問ヲ明瞭ニセサル不備不法ノ裁判ト思量ス

瀧玄三郎上告ノ要旨

抑モ賭博犯ナルモノハ其犯所ニ於テノ捕獲ニアラサレハ其罪問ヘキモノニ非サルハ貴院御伺司法省ノ御指令ニヨルモ明瞭タリ且本罪ノ如キハ骨牌ノ證左アルモ其現所ニ得タルノ證左ニアラサルノミナラス亦タ賭具ニ供シタルモノニアラサルハ燦然タリ其理何トナレハ凡骨牌ナルモノハ全備シテ而シテ其用ヲ爲スモノニシテ一枚タリト不足スルニ於テ

ハ其用ヲ爲サス然リ然ラハ水口警察署ニ於テ御取上ナリタルノ骨牌ハ三拾六枚ナリ是不全備ノモノニシテ是カ賭博ノ證左トスルヲ得サルモノナラハ賭博ノ非現行コシテ其罪ヲ問ヘキモノニ非ス且ツ前陳スル如ク拾五圓ノ貸金ハ正當貸付セシモノナルニ是等ノ要點ヲ審究セス中瀬菊松ノ自首ヲ確實ノモノトシテ八十日ノ禁獄申付ラレタルハ不備不法ノ裁判ナリ

辨明

上告人宮本誠治瀧玄三郎ノ賭博犯タル非現犯ニシテ其犯者中瀬菊松ノ自首ヨリ發覺シタルモノタルコトハ原裁判所ノ簿冊ヲ檢審シテ明白ナリ抑モ賭博罪ハ現行ヲ罰スルニ止マルモノニシテ非現行ヲ罪スルヲ得サルモノトス而誠治外二名ノ口供中ニ博具ニ用ヒシ骨牌ハ誠治ノ所持ニ係レリトアルヲ以明治七年四月二十五日司法省第八號達賭博ヲ企テ未タ行ハサル者及ヒ博戯ノ爲ニ骰子骨牌ヲ持スル者ハ情ヲ量リ違式輕重ニ問ヒ並ニ贖ヲ聽ストアルニ依リ誠治ハ違式輕ニ問ヒ玄三郎ハ無罪ト爲ス相當ナリトス然ルニ原裁判玆ニ出テス例第十八條ニ照シ禁獄八十日ト斷了セシハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルニ依リ明治十四年九月十六日京都裁判所大津支廳ニ於テ宮本誠治瀧玄三郎ニ官渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

宮 本 誠 治

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ違式輕ニ問ヒ士族ナルヲ以テ閏刑ニ換ヘ禁獄十日聽贖

贖罪金七拾五錢

但骨牌ハ取上ル

瀧 玄 三 郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ

無罪

第千貳百九拾貳號

○判文(棄毀器物稼穡ノ件)明治十四年九月三日上告
明治十四年十月廿二日判決

大阪府大和國山部郡岸田村平民

野 口 鶴 松

明治十四年八月
四十年一ヶ月

明治十四年八月廿六日大阪裁判所ニ於テ右鶴松ニ左ノ裁判ヲ官渡タリ

其方儀他村ニ農番ノ設ケアルニ居村ニ限リ農番致サセ吳レサルヲ憤リ居村ノ者共ニ困却セシメント明治十四年七月十日夜居村冬木彦七外拾九名カ所有ノ耕地ニ植付ケアル西瓜等ヲ伐リ捨ツル贓金百八圓七拾四錢ノ科棄毀器物稼穡律ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役五年可申付處兇器ヲ持テ巡查ノ追捕ヲ拒ムヲ以テ捕亡律罪人拒捕條ニヨリ本罪ニ貳等ヲ加ヘ懲役十年申付ル

但巡查ヲ罵詈スルハ改定律例第二百三十七條ニ依リ懲役二十日輕シ不論ト雖モ賠償ノ爲メ資力限退徴ス

野口鶴松ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年九月三日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如

上告人者兇器ヲ持シ拒捕セシ事決シテ無之亦他人稼穡ノ西瓜ヲノ伐リ捨シ等ノ贓金百八圓七拾四錢ノ罪狀ナリト判決セラレシカ其事實ニ就テ頗ル差異アリ上告人ハ明治十四年七月十日同國十市郡北檜垣村平民川畑安吉外伊勢國産性不覺寅吉ナル者ト俱ニ酒興シ爲メニ精神錯亂シテ前後ヲ分別シ難キ程ノ体裁ナレハ何某ノ所有ナル哉ヲ知ル能ハサル儘右三人カ合意ヨリ或ル畑へ立入二三ノ西瓜ヲ得ンカ爲メ右根ツルヲ手荒ク取探リシヨリ凡七八拾本程ト覺シテ自カヲ根引セシ哉ヲ心附タル折柄多クノ人民騷キ來ルノ体看ルヨリ忽然前書三人カ内寅吉ナル者其場ヲ逃走セリ然シテ上告人ハ總代体ノ人ニ引致セラレ終ニハ同國田原本警察署へ回引セラレシ處酒勢モ散消神心改翻シ誠實悔悟スルト雖モ止ナン何分空服ニ堪ヘ兼サルヨリ壹碗ノ飲食セシ事ヲ乞ヒ以テ其渴ヲ補ヒ度旨希願セシニ反讒責ヲ蒙リ採用セラレサルカ故ニ少シク憤慢ノ色ヲ表シタル迄ニ決シテ罵詈等ヲ犯セシ覺無之然シテ右共犯者川畑安吉ハ不問ニ置カレ上告人ヲシテ單ニ無根ノ罪狀ヲ示サレシハ抑モ不當ノ裁決ナリト相考尤以其贓金ニ至ルハ如何ナル所以ヲ批付セラレシカ凡通常間ニ於テモ西瓜壹本ニ付「壹ツナリ」七拾錢程ノ價額ニ有之シテ壹百圓有餘ノ估計セラレシハ万々不法ノ判決ナリト上告人ハ服シ能ハサル所以ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ涉獵スルニ本犯野口鶴松カ冬木彦七外拾九人ノ耕地ニ於テ

瓜并西瓜等ノ蔓ヲ伐リ絶チ且就捕ノ際拒捕シタル情狀ハ本犯鶴松カ口供及ヒ當時捕吏四等巡查島居繁造外壹名ノ捕獲景況書其他告訴人ノ陳述ニ於テ明白ナリ又原裁判所カ評價人ヲシテ其毀損シタル瓜並西瓜等ノ價額ヲ估計セシノタルニ金百零八圓七拾四錢ト估計シタリ由テ兇器ヲ持シ拒捕シタル事ナシ又他人ノ西瓜ヲ伐リ捨テタル覺ナキトノ上告ハ總テ無證據ノ申立ニシテ申分相立ス左スレハ原裁判所カ評價人ヲシテ其毀損シタル瓜并西瓜等ノ價額ヲ估計セシメタル金百零八圓七拾四錢ヲ以テ贓ニ計ヘ棄毀器物稼穡律ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ仍ホ罪人拒捕律ニ依リ加等シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年八月廿六日大阪裁判所ニ於テ野口鶴松ニ言渡タル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スルモノナリ

第千貳百九拾三號

○判文(竊盜三犯ノ件) 明治十四年九月一日上告 明治十四年十月廿六日判決

廣島縣廣嶋區袋町平民

吉

田 音 松

明治十四年八月 二十二年五月

右音松ニ明治十四年八月二十三日廣嶋裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀明治十四年四月九日廣嶋裁判所ニ於テ竊盜ノ科ニ依リ處刑ヲ受クル際巽キニ高懸裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ再度處刑受ケタルヲ包藏シ三犯ヲ初犯ト詐ハリ既ニ懲役十

年ノ處刑ヲ受ケ今裁服役中自首スト雖モ既ニ斷決ヲ經タル前科ヲ首出セシハ犯罪自首ノ限ニ非サルヲ以テ右科改定律例第三百三十五條ニ照シ竊盜三犯贓金五拾圓以上ナルニ依リ懲役終身申付ル

吉田音松ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年九月一日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

竊盜三犯ノ處罰問ノ際之ヲ包藏シ初犯ト詐リ申立タルモ服役中前非ヲ悔悟シ自首ノ念慮ヲ生シ首出及ヒタルニ既ニ斷決ヲ經タル前科ヲ首出セシハ犯罪自首ノ限リニ非スト言渡サレタレトモ斷決ヲ經ルト經サルノ區別ナキモノト思考ス是上告破毀ヲ求ムル所ナリ

辨明

犯罪ノ自首ハ罪狀ノ未發ニ先ダ真心悔悟スルヲ以テ之ニ減免ヲ與フルモノニシテ其已ニ論決ヲ經タル前科ヲ申立ル如キハ自首減免ノ例ニ依ル可キ者ニ非ス故ニ原裁判所ニ於テ服役中自首スト雖モ自首ノ限ニ在ラスト言渡シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如シナルヲ以テ明治十四年八月二十三日廣島裁判所ニ於テ吉田音松ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ

第千貳百九拾四號

○判文(不應爲ノ件)明治十四年八月廿四日上告
明治十四年十月廿九日判決

千葉縣下總國匝瑳郡堀川村平民

椎名喜三郎

明治十四年八月

三十七年十一月

右喜三郎ニ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支應管内八日市場區裁判所ニ於テ左ノ裁

判ヲ言渡シタリ

其方儀椎名百太郎ハ豫テ性理學派中ノ者ニ有之ヲ變意セシトテ同人ヲシテ改心セシメン
ト種々申勸ムルモ不肯ノミナラス一時發狂手向ヒ致スニ付不得止同人ヲ縛シ強テ府馬村
修行場ヘ連レ行ント致シタルハ學派相互ノ深切心ヨリ爲セシ事由ナル旨申立ルト雖モ巡
査ノ證告其他ノ事跡ニ於テ百太郎カ一時發狂セシトノ痕跡ナク且ツ鳥居正則外二人ハ發
狂トハ不申立左スレハ百太郎ニ於テ性學ヲ厭ヒ派中ヲ脱セントスルヲ汝ヲ初メ土屋貞次
郎外九人ニテ學派誘導ノ爲メ百太郎ヲ強迫セシハ同人ノ申供並三等巡查牧野紋治外一人
ノ證告ニ於テ明哲ナリ依テ右科雜犯律不應爲重ニ問ヒ懲役七十日情法ヲ酌量シ二等ヲ減
シ懲役五十日申付ル

椎名喜三郎ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月二十四日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

椎名百太郎儀性理學同盟ナルノミナラス百太郎亡父九藏臨終ノ際懇々百太郎ノ將來ヲ遺
囑セラレタリ然ルニ百太郎發狂ノ癖アル故八石教會ヘ同行教誡ヲ乞ヒタルニ勉學ノ志ヲ
發シタルヲ以テ學課二十日修行相始メサセタレモ忽チ變心シ殊ニ發狂ノ跡ニテ火箸又ハ
鐵錘ヲ以テ手向ス依テ取鎖メノ爲メ持合ノ手拭ヲ以テ両手ヲ縛リ學場ヘ召連行ントスル
處途中ヨリ又々逃去ントシ高聲ヲ發シタル末遂ニ拘留相成タリ右ハ全ク九藏ノ遺言及ヒ
懇親上ヨリ前段ノ處業ニ及ヒタルモノニテ學派ヲ脱セントスルヲ強迫シタル旨趣ニアラ

然ルヲ今般不應爲ノ處斷相成タルハ不當ノ裁判ナルヲ以テ上告破毀ヲ求ムル處ナリ

辨明

上告ニ依リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スル椎名百太郎發狂シタルノ證據之ナキヲ以テ發狂者ナリト言ヲ得ス然レハ椎名喜三郎カ椎名百太郎ヲ細縛シタル等ノ所爲ハ設ヒ懇親ノ誠意ニ出ルモ條理上爲スヲ得ヘカヲサルヲ爲シタルモノトス故ニ原裁判所カ喜三郎ヲ雜犯律不應爲條ニ問擬シタルハ敢テ不法ノ裁判ト爲スヲ得ス

判決

右ノ如ナルヲ以テ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ椎名喜三郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ
第千貳百九拾五號

○判文(不應爲ノ件) 明治十四年八月廿四日上告
明治十四年十月廿九日判決

千葉縣下總國香取郡長部村寄留
東京府士族鳥居義見甥

鳥居正則

明治十四年八月
三十七年一ヶ月

右正則ニ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀椎名百太郎ハ豫テ性理學派中ノ者ニ有之ヲ變意セシトテ改心セシメント申勸ムル

モ不肯ヨリ喜三郎卒先シ強テ府馬村修行場ヘ連レ行ント欲スルハ學派相互ノ深切心ヨリ爲セシ事由ニテ敢テ不當トハ不存旨申立ルト雖モ苟モ學派誘導ノ爲メニハ別ニ所爲モ可有之ヲ汝外十人ニテ百太郎ヲ強迫スル科雜犯律不應爲重ニ問ヒ喜三郎ノ從ヲ以テ論シ一等ヲ減シ懲役六十日尙情法ヲ酌量シ三等ヲ減シ懲役三十日士族ニ付改定律例改正第十三條ニ依リ禁獄三十日申付ル

鳥居正則ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月二十四日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

學友椎名百太郎發狂シ火箸又ハ鋏ヲ以テ手向候ニ付同盟信義ノ一途ニ出且百太郎亡父ノ遺言喜三郎ノ誠意ニ對シ坐視傍觀ニ忍ヒサルヨリ手拭ヲ以テ百太郎ノ両手ヲ縛リ學場ヘ連行ントシタル所業ニテ敢テ強迫等ノ旨趣ニアラズ然ルヲ今般不應爲ノ處斷相成タルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ上告破毀ヲ求ムル所ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審按スルニ椎名百太郎カ發狂シタルノ證據ナキヲ以テ百太郎ヲ發狂者ナリト云フヲ得ス然ルニ上告人鳥居正則カ椎名喜三郎共々椎名百太郎ヲ細縛シ府馬村ヘ連行ントスル等ノ所爲ハ條理上爲スヲ得ヘカヲサルヲ爲スモノナリトス故ニ原裁判所カ之ヲ雜犯律不應爲條ニ問擬シタルハ敢テ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

判決

右ノ如ナルヲ以テ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ鳥居正則ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ

○判文(不應爲ノ件)明治十四年八月廿四日上告
明治十四年十月廿九日判決

千葉縣下總國香取郡府馬村平民
武兵衛長男

大野 峯次郎

明治十四年八月

右峯次郎ニ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀椎名百太郎ハ豫テ性理學派中ノ者ニ有之ヲ變意セントテ改心セシメント申勸ムルモ不肯ノミナラス一時發狂セシトテ椎名喜三郎卒先シ百太郎ヲ縛シ強テ府馬村修行場ヘ連レ行ントセシハ學派相互ノ深切心ヨリ爲セシ事由ナル旨申立ルト雖モ巡查ノ證書其他ノ事跡ニ於テ百太郎カ一時發狂セシトノ痕跡ナク且鳥居正則外二人ハ發狂トハ不申立左スレハ百太郎ニ於テ性理學ヲ厭ヒ派中ヲ脱セントスルヲ喜三郎始メ汝等一同ニテ學派誘導ノ爲メ百太郎ヲ強迫セシハ同人ノ申供並ニ等巡查牧野紋治外一人ノ證書ニ於テ明晰ナリ依テ右科雜犯律不應爲重ニ問ヒ喜三郎ノ從トナシ一等ヲ減シ懲役六十日可申付處情法ヲ酌量シ又二等ヲ減シ懲役四十日申付ル

大野峯次郎ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月二十四日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ
學友椎名百太郎儀發狂シ火箸又ハ鐵ヲ以テ手向候ニ付同盟信義ノ一途ニ出且百太郎亡父

ノ遺言書三郎ノ誠意ニ對シ坐視傍觀ニ忍ヒサルヨリ手拭ヲ以テ百太郎ノ両手ヲ縛リ學場ヘ連行ントシタル所業ニテ敢テ強迫等ノ旨趣ニアラス然ルヲ今般不應爲ノ處斷相成タルハ不法ノ裁決ナルヲ以テ上告破毀ヲ求ムル所ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審案スルニ椎名百太郎カ發狂シタルノ證據ナキヲ以テ百太郎ヲシテ發狂者ナリト云フヲ得ス然ルニ上告人大野峯次郎カ椎名喜三郎共々椎名百太郎ヲ細縛シ府馬村ヘ連行ントスル等ノ所爲ハ條理上爲スヲ得ヘカラサルヲ爲スモノナリトス故ニ原裁判所カ之ヲ雜犯律不應爲條ニ問擬シタルハ敢テ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ大野峯次郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ
第千貳百九拾七號

○判文(不應爲ノ件)明治十四年八月廿四日上告
明治十四年十月廿九日判決

千葉縣下總國香取郡古内村平民

北 見 竹 松

明治十四年八月

二十五年六月

右竹松ニ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀椎名百太郎ハ豫テ性理學派中ノ者ニ有之ヲ變意セシトテ改心セシメント申勸ルモ不肯ノミナラス一時發狂セシトテ椎名喜三郎卒先シ百太郎ヲ縛シ強テ府馬村修行場へ連レ行ントセシハ學派相互ノ深切心ヨリ爲セシ事由ナル旨申立ルト雖モ巡查ノ證告其他ノ事跡ニ於テ百太郎カ一時發狂セシトノ痕跡ナシ且鳥居正則外二人ハ發狂トハ不申立左スレハ百太郎ニ於テ性理學ヲ厭ヒ派中ヲ脱セントスルヲ喜三郎始メ汝等一同ニテ學派誘導ノ爲メ百太郎ヲ強迫セシハ同人ノ中供並三等巡查牧野紋治外一人ノ証告ニ於テ明哲ナリ依テ右科雜犯律不應爲重ニ問ヒ喜三郎ノ從トナシ一等ヲ減シ懲役六十日可申付處情法ヲ酌量シ又二等ヲ減シ懲役四十日申付ル

北見竹松ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月二十四日ニ本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ
學友椎名百太郎儀發狂シ火箸又ハ鐵ヲ以テ手向候ニ付同盟信義ノ一途ニ出且百太郎亡父ノ遺言喜三郎ノ誠意ニ對シ聖視傍觀ニ忍ヒサルヨリ手拭ヲ以テ百太郎ノ兩手ヲ縛リ學場へ連行ントシタル所業ニテ敢テ強迫等ノ旨趣ニアラス然ルチ今般不應爲ノ處斷相成タルハ不法ノ裁決ナルヲ以テ上告破毀ヲ求ムル所ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審按スルニ椎名百太郎カ發狂シタルノ證據ナキヲ以テ百太郎ヲシテ發狂者ナリト云フヲ得ス然ルニ上告人北見竹松カ椎名喜三郎共々椎名百太郎ヲ細縛シ府馬村へ連行ントスル等ノ所爲ハ條理上爲ヌヲ得ヘカラサルヲ爲スモノナリトス故ニ原裁判所カ之ヲ雜犯律不應爲條ニ問擬シタルハ敢テ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ北見竹松ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ
第千貳百九拾八號

○判文(不應爲ノ件) 明治十四年八月廿四日上告
明治十四年十月廿九日判決

千葉縣上總國武射郡橫芝村平民

土屋 貞次郎

明治十四年八月
二十三年八月

右貞次郎ニ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタル

其方儀椎名百太郎ハ豫テ性理學派中ノ者ニ有之ヲ變意セシトテ改心セシメント申勸ムルモ不肯ノミナラス一時發狂セシトテ椎名喜三郎卒先シ百太郎ヲ縛シ強テ府馬村修行場へ連レ行ントセシハ學派相互ノ深切心ヨリ爲セシ事由ナル旨申立ルト雖モ巡查ノ證告其他ノ事跡ニ於テ百太郎カ一時發狂セシトノ痕跡ナシ且鳥居正則外二人ハ發狂トハ不申立左スレハ百太郎ニ於テ性學ヲ厭ヒ派中ヲ脱セントスルヲ喜三郎始メ汝等一同ニテ學派誘導ノ爲メ百太郎ヲ強迫セシハ同人ノ中供並三等巡查牧野紋治外一人ノ證告ニ於テ明哲ナリ依テ右科雜犯律不應爲重ニ問ヒ喜三郎ノ從トナシ一等ヲ減シ懲役六十日可申付處情法ヲ酌量シ又二等ヲ減シ懲役四十日申付ル

土屋貞次郎ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月二十四日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ
學友椎名百太郎儀發狂シ火箸又ハ鐵ヲ以テ手向候ニ付同盟信義ノ一途ニ出且百太郎亡父
ノ遺言喜三郎ノ誠意ニ對シ坐視傍觀ニ忍ヒサルヨリ手拭ヲ以テ百太郎ノ兩手ヲ縛リ學場
ヘ連行ントシタル所業ニテ敢テ強迫等ノ旨趣ニアラス然ルヲ今般不應爲ノ處斷相成タル
ハ不法ノ裁決ナルヲ以テ上告破毀ヲ求ムル所ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審按スルニ椎名百太郎カ發狂シタルノ證據ナキヲ以テ百太
郎ヲシテ發狂者ナリト云フヲ得ス然ルニ上告人土屋貞次郎カ椎名喜三郎共々椎名百太郎
ヲ細縛シ府馬村ヘ連行ントスル等ノ所爲ハ條理上爲スヲ得ヘカラサルヲ爲スモノナリ
トス故ニ原裁判所カ之ヲ雜犯律不應爲條ニ問擬シタルハ敢テ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於
テ土屋貞次郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ
第千貳百九拾九號

○判文(不應爲ノ件)明治十四年八月廿四日上告
明治十四年十月廿九日判決

千葉縣下總國逆差郡堀川村平民

石井伊之助

明治十四年八月
二十三年十一月

右伊之助ニ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ左ノ裁
判ヲ言渡シタル

其方儀椎名百太郎ハ豫テ性學派中ノ者ニ有之ヲ變意セシトテ改心セシメント申勸ムルモ
不肯ヨリ喜三郎卒先シ強テ府馬村修行場ヘ連行ントスルハ學派相互ノ深切心ヨリ爲セ
シ儀ニテ敢テ不當トハ不存旨申立ルト雖モ學派誘導ノ爲ニハ別ニ所爲モ可有之ヲ汝外十
人ニテ百太郎ヲ強迫スル科雜犯律不應爲重ニ問ヒ喜三郎ノ從トナシ一等ヲ減シ尙情法ヲ
酌量シ三等ヲ減シ懲役三十日申付ル

石井伊之助ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月二十四日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ
學友椎名百太郎儀發狂シ火箸又ハ鐵ヲ以テ手向候ニ付同盟信義ノ一途ニ出且百太郎亡父
ノ遺言喜三郎ノ誠意ニ對シ坐視傍觀ニ忍ヒサルヨリ手拭ヲ以テ百太郎ノ兩手ヲ縛リ學場
ヘ連行ントシタル所業ニテ敢テ強迫等ノ旨趣ニアラス然ルヲ今般不應爲ノ處斷相成タル
ハ不法ノ裁決ナルヲ以テ上告破毀ヲ求ムル所ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審按スルニ椎名百太郎カ發狂シタルノ證據ナキヲ以テ百太
郎ヲシテ發狂者ナリト云フヲ得ス然ルニ上告人石井伊之助カ椎名喜三郎共々椎名百太郎
ヲ細縛シ府馬村ヘ連行ントスル等ノ所爲ハ條理上爲スヲ得ヘカラサルヲ爲スモノナリ
トス故ニ原裁判所カ之ヲ雜犯律不應爲條ニ問擬シタルハ敢テ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ石井伊之助ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ
第千三百號

○判文(不應爲ノ件) 明治十四年八月廿四日上告
明治十四年十月廿九日判決

千葉縣下總國香取郡府馬村平民

半右衛門養子

小川孝太郎

明治十四年八月

三十年一ヶ月

右孝太郎ニ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀推名百太郎ハ豫テ性理學派中ノ者ニ有之ヲ變意セシトテ改心セシメント申勸ムルモ不肯ヨリ喜三郎卒先シ強テ府馬村修行場ヘ連レ行ントスルハ學派相互ノ深切心ヨリ爲セシ儀ニテ敢テ不當トハ不存旨申立ルト雖モ學派ニ導ノ爲ニハ別ニ所爲モ可有之ヲ汝外十人ニテ百太郎ヲ強迫スル科雜犯律不應爲重ニ問ヒ喜三郎ノ從トナシ一等ヲ減シ尙情法ヲ酌量シ二等ヲ減シ懲役四十日申付ル

小川孝太郎ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月二十四日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ
學友推名百太郎儀發狂シ火箸又ハ鐵ヲ以テ手向候ニ付同盟信義ノ一途ニ出且百太郎亡父ノ遺言喜三郎ノ誠意ニ對シ坐視傍觀ニ忍サルヨリ手拭ヲ以テ百太郎ノ兩手ヲ縛リ學場ヘ

連行ントシタル所業ニテ敢テ強迫等ノ旨趣ニアラス然ルチ今般不應爲ノ處斷相成タルハ不法ノ裁決ナルヲ以テ上告破毀ヲ求ムル所ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審案スルニ推名百太郎カ發狂シタルノ證據ナキヲ以テ百太郎ヲシテ發狂者ナリト云フヲ得ス然ルニ上告人小川孝太郎カ推名喜三郎共々推名百太郎ヲ細縛シ府馬村ヘ連行ントスル等ノ所爲ハ條理上爲スヲ得ヘカヲサルヲ爲スモノナリトス故ニ原裁判所カ之ヲ雜犯律不應爲條ニ問擬シタルハ敢テ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ小川孝太郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ
第千三百號

○判文(不應爲ノ件) 明治十四年八月廿四日上告
明治十四年十月廿九日判決

千葉縣下總國香取郡舟戶村平民

渡

邊五郎

明治十四年八月

十九年九月

右五郎ニ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀推名百太郎ハ豫テ性理學派中ノ者ニ有之ヲ變意セシトテ改心セシメント申勸ムル

モ不肯ノミナラス一時發狂セシトテ椎名喜三郎卒先シ百太郎ヲ縛シ強テ府馬村修行場へ連レ行ントセシハ學派相互ノ深切心ヨリ爲セシ事由ナル旨申立ルト雖モ巡查ノ證告其他ノ事跡ニ於テ百太郎カ一時發狂セシトノ痕跡ナク且鳥居正則外二人ハ發狂トハ不申立左スレハ百太郎ニ於テ性理學ヲ厭ヒ派中ヲ脱セントスルヲ喜三郎始メ汝等一同ニテ學派誘導ノ爲メ百太郎ヲ強迫セシハ同人ノ申供並三等巡查牧野紋治外一人ノ證告ニ於テ明晰ナリ依テ右科雜犯律不應爲重ニ問ヒ喜三郎ノ從トナシ一等ヲ減シ懲役六十日可申付處情法ヲ酌量シ又二等ヲ減シ懲役四十日申付ル

渡邊五郎ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月二十四日日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

學友椎名百太郎儀發狂シ火箸又ハ鐵ヲ以テ手向候ニ付同盟信義ノ一途ニ出且百太郎亡父ノ遺言喜三郎ノ誠意ニ對シ坐視傍觀ニ忍ヒサルヨリ手拭ヲ以テ百太郎ノ兩手ヲ縛リ學場へ連行ントシタル所業ニテ敢テ強迫等ノ旨趣ニアラス然ルチ今般不應爲ノ處斷相成タルハ不法ノ裁決ナルヲ以テ上告破毀ヲ求ムル所ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審案スルニ椎名百太郎カ發狂シタルノ證據ナキヲ以テ百太郎ヲシテ發狂者ナリト云フヲ得ス然ルニ上告人渡邊五郎カ椎名喜三郎共々椎名百太郎ヲ細縛シ府馬村へ連行ントスル等ノ所爲ハ條理上爲スヲ得ヘカラサルヲ爲スモノナリトス故ニ原裁判所カ之ヲ雜犯律不應爲條ニ問擬シタルハ敢テ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ渡邊五郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ
第千三百貳號

○判文(不應爲ノ件)明治十四年八月廿四日上告
明治十四年十月廿九日判決

千葉縣下總國香取郡府馬村平民
平左衛門養子

菅 谷 太 吉

明治十四年八月
二十五年三月

右太吉ニ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタル

其方儀椎名百太郎ハ豫テ性理學派中ノ者ニ有之ヲ變意セシトテ改心セシメント申勸ムルモ不肯ノミナラス一時發狂セシトテ椎名喜三郎卒先シ百太郎ヲ縛シ強テ府馬村修行場へ連レ行ントセシハ學派相互ノ深切心ヨリ爲セシ事由ナル旨申立ルト雖モ巡查ノ證告其他ノ事跡ニ於テ百太郎カ一時發狂セシトノ痕跡ナク且鳥居正則外二人ハ發狂トハ不申立左スレハ百太郎ニ於テ性理學ヲ厭ヒ派中ヲ脱セントスルヲ喜三郎始メ汝等一同ニテ學派誘導ノ爲メ百太郎ヲ強迫セシハ同人ノ申供並三等巡查牧野紋治外一人ノ証告ニ於テ明哲ナリ依テ右科雜犯律不應爲重ニ問ヒ喜三郎ノ從トナシ一等ヲ減シ懲役六十日可申付處情法ヲ酌量シ又二等ヲ減シ懲役四十日申付ル

菅谷太吉ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月二十四日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ
學友椎名百太郎備後狂シ火箸又ハ鐵ヲ以テ手向候ニ付同盟信義ノ一途ニ出且百太郎亡父
ノ遺言喜三郎ノ誠意ニ對シ坐視傍觀ニ忍ヒサルヨリ手拭ヲ以テ百太郎ノ兩手ヲ縛リ學場
ヘ連行ントシタル所業ニテ敢テ強迫等ノ旨趣ニアラス然ルヲ今般不應爲ノ處斷相成タル
ハ不法ノ裁決ナルヲ以テ上告破毀ヲ求ムル所ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審按スルニ椎名百太郎カ發狂シタルノ證據ナキヲ以テ百太
郎ヲシテ發狂者ナリト云フヲ得ス然ルニ上告人菅谷太吉カ椎名喜三郎共々椎名百太郎ヲ
細縛シ府馬村ヘ連行ントスル等ノ所爲ハ條理上爲スヲ得ヘカラサルヲ爲スモノナリト
ス故ニ原裁判所カ之ヲ雜犯律不應爲條ニ問擬シタルハ敢テ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ於
テ菅谷太吉ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ

第一千三百三號

○判文(私文書詐僞ノ件)明治十四年七月十八日上告
明治十四年十月卅一日判決

石川縣越中國磯波郡中尾村平民

上元仁四郎

明治十四年六月
三十四年三ヶ月

明治十四年七月九日大阪裁判所ニ於テ右仁四郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀私文書詐僞ノ罪アル見込ヲ以テ檢事ヨリ公訴スル事件審問ヲ遂クル處檢事公訴ノ
要領被告仁四郎ハ明治十二年十月十四日大阪上等裁判所於テ控訴願下ケテ爲ス際其論地
ノ全部ヲ己レノ有ニ歸シシメント謀リ松井武助ト申合ヒ控訴被告人高野次郎兵衛カ與書
ヲ詐爲シ其名下ニ不真正ノ印影ヲ捺捺シタリ而シテ被告ハ之レニ服罪セスト雖モ本件ニ
關係アル高野次郎兵衛カ代人堀甚四郎供述書並ニ印刻師一柳政七外二名ノ鑒定書及ヒ告
訴人高野次郎兵衛ト被告カ父上元三右衛門トノ間ニ爲シタル契約等ニ依リ犯罪ノ所爲ヲ
證明スルニアリ被告人於テハ實父上元三右衛門ヨリ高野次郎兵衛ニ係ル買受地所故障解
除ノ控訴願下ケ書及ヒ其請書ハ三右衛門代人松井武助ヲシテ其取扱ヲナサシメタルモ高
野次郎兵衛代人堀甚四郎ノ承諾上調印シシモノニテ決シテ詐爲シシモノニ無之旨申立ツ

辨明

被告人於テ詐爲セサル旨辨護スト雖モ高野次郎兵衛代人堀甚四郎カ承諾上調印セシニ非
ルハ抑モ次郎兵衛ニ於テハ該事件ニ付既ニ金澤裁判所ノ始審裁判ニ全勝ヲ得タルノミナ
ラズ中島太郎助カ賣主米田六次郎ノ依頼ニ因リ雙方ノ中間ニ立チ之レカ和解ヲ取扱フニ
當リ次郎兵衛ハ己レカ權利ノ一部ヲ裂キ則チ高地拾石ノ内其三石三斗八升ヲ上元三右衛
門ヘ分與スヘキ事ヲ許諾シ三右衛門仁四郎ニ於テモ亦之レヲ甘受シ既ニ仁四郎ハ父三
右衛門ニ代リ又々甚四郎ハ高野家ノ本分ノ間柄ナル緣故ヲ以テ次郎兵衛ニ代リ雙方實地
ニ臨檢シ等者中川吉左衛門ヲ雇ヒ該地ノ分割ヲモ爲シ了リタルモノナレハ爾後次郎兵衛

ニ於テ何ソ俄カニ地券書換ヲ拒ミ爲メニ前約ヲ破棄スヘキ筈ナキハ勿論當時次郎兵衛ハ貧困ニシテ訴訟入費ヲ支ユベキ資力ニ乏シトスルモ常ニ堀甚四郎カ該件ヲ擔任シ其費用ヲモ辨償シ來リ聊カ差支ヘサルヲ以テ視レハ決シテ費用ノ爲メ枉ケテ己レノ權利ヲ拋棄シ該地ノ全部ヲ三右衛門ニ與フヘキ道理ナク若シ果シテ費用ノ爲メ全地ヲ拋棄シタルモノトセハ何ソ其後數十里ノ遠キチモ願ニス夥多ノ費用ヲ厭ハス之レカ告訴ヲ爲スチ用ヒンヤ況ンヤ該願下書及ヒ請書ノ高野次郎兵衛カ名下ニ押捺セル印影ト高野次郎兵衛カ提供スル印影トヲ鑒定人三名ニ命ジ審査セシムルニ彼是ノ印影相違スル旨申立テ三名ノ鑒定恰モ符節ヲ合スカ如キチヤ以上ノ形狀ニ依リ當時ノ事實ヲ推究スルニ被告上元仁四郎ハ松井武助ト申合セ該爭論地ヲ己レノ有ニ歸セシメント謀リ其願下ケニ際シ願書及ヒ請書ヲ詐爲シ鈔カニ高野次郎兵衛代人堀甚四郎カ調印シタル真正ノ願書ト引換ヘ大阪上等裁判所ヘ差出シ其聞届ヲ受ケタルモノト確認ス

判決

前條被告人カ願下書及ヒ請書ヲ詐爲セシ罪ハ改定律例第二百四十六條凡ソ私ノ文書ヲ詐爲スル者ハ情ヲ量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツトアルニ依リ不應爲重キニ擬シ懲役七十日申付ル

但シ詐爲セシ書類ハ取上ル

仁四郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年七月十八日本院ニ上告スル要領及ヒ明治十四年七月廿五日上告追申書左ノ如シ

上告ノ要領

第一條 (被告仁四郎ハ明治十二年十月十四日大阪上等裁判所於テ控訴願下ケテ爲ス際其論地ノ全部ヲ己ノ有ニ歸セシメント謀リ松井武助ト申合セ控訴被告人高野次郎兵衛カ與書ヲ詐爲シ其名下ニ不真正ノ印影ヲ押捺シタリ)云々大ニ嫌疑ヲ受クト雖モ國元ニ於テ高野次郎兵衛カ依願ニ因リ和濟ノ約定ヲ爲シ控訴願下ケ致シ吳レタル上ハ六次郎ヨリ買受ラレタル地所之儀ニ付以後故障申問敷旨次郎兵衛申聞ケルニ付願下ケノ事ヲ承諾致シ則チ次郎兵衛代人甚四郎カ次郎兵衛トナリ原被同道出阪シ該願下ケノ書面ハ原被目前ニ於テ調印シ直チニ大阪上等裁判所ヘ出願シ聞届ケノ指令ヲ受ケタルモノニシテ決シテ仁四郎武助等カ詐爲シシモノニ非サルヲ熟知セシ甚四郎カ曖昧タル答辨ヲ成シ實印ヲ齎シタル次郎兵衛カ告訴ヲ爲スハ實ニ姦策ノ甚シキニ大阪裁判官ハ一途ニ被告カ詐爲ノ一點ニ着眼セラレ原告カ姦謀ノ原因ヲ搜索ナキハ不當ノ裁判ト言ハサルヲ得ンヤ

第二條 (被告ハ之レニ服罪セスト雖モ本件ニ關係アル高野次郎兵衛カ代人堀甚四郎カ供述書並印刷師一柳政七外二名ノ鑒定書及ヒ告訴人高野次郎兵衛ノ被告カ父上元三右衛門トノ間ニ爲シタル契約等ニ依リ犯罪ノ所爲ヲ證明スルコアリ如斯認定セラレト雖モ案ヨリ堀甚四郎ノ供述書タル姦策中ノ一点ニ出テ、證スルニ足ラサルハ論ヲ竣タス且又一柳政七外二名ノ鑒定人カ印刷ノ彼是ヲ鑒視シテ相違アリトスルモ其鑒鑑トスヘキ實印ノ何レカ眞何レカ偽ナルヲ辨明セスシテ鑒定セラレシハ不正ノ鑒定ト言ハスシテ何ソヤ然チ大阪裁判官ハ之ヲ以テ犯罪ノ所爲ヲ證明セラレシトハ未ダ盡サ、ル處アリテ被告カ

了解セサル所ニテ則チ爰ニ控訴願下ケテ致シタル當時ノ印鑒ト照査ナキニ於テチヤ
 第三條 (高野次郎兵衛代人堀甚四郎カ承諾上調印セシニ非サルハ次郎兵衛ニ於テハ該
 事件ニ付既ニ金澤裁判所ノ始審裁判ニ全勝ヲ得タルノミナラス中島太郎助カ買主米田六
 次郎ノ依頼ニ因リ雙方ノ中間ニ立チ之レカ和解ヲ取扱フニ當リ次郎兵衛ハ己レカ權利ノ
 一部ヲ裂キ則チ高拾石ノ内其三石三斗八升ヲ上元三右衛門ニ分與スヘキ事ヲ許諾シ三右
 衛門仁四郎ニ於テモ亦タ之レヲ甘受シ云々辨明セラルト雖モ右次郎兵衛カ代人甚四
 郎ナル者現ニ仁四郎ト同行シテ大坂ニ出テ兩人共ニ松井武助カ宅ヘ到リ双方目前ニテ調
 印セシ願下ケノ書面ヲシテ承諾上ニ非ラサルトハ妄言ノ甚シキ次郎兵衛カ金澤裁判所ノ
 始審ニ全勝ヲ得タルモ不服ノ廢アルヲ以テ控訴ニ及ヒタル處次郎兵衛カ依頼ニ因テ願下
 之場合ニ立至リタルヲ何ソ仁四郎武助カ詐爲セソカタメニ次郎兵衛代人甚四郎ト同道ス
 ヘケンヤ甚四郎願下ニ出シカ證據タルヲ以テ今一層ノ糾問ヲ下タサレ眞偽兩端ノ區別ヲ
 辨明セラレサルハ何ソヤ是則チ被告ノ不服ナル所以ナリ

第四條 (既ニ仁四郎ハ父三右衛門ニ代リ又タ甚四郎ハ高野家ト本分ノ間柄ナル緣故ヲ
 以テ次郎兵衛ニ代リ雙方實地ニ臨檢シ算者中川吉左衛門ヲ雇ヒ該地ノ分割ヲモ爲シ了リ
 タルモノナレハ爾後次郎兵衛於テ何ソ俄ニ地券書換ヲ拒ミ爲メニ前約ヲ破棄スヘキ等ナ
 キハ勿論當時次郎兵衛ハ貧困ニシテ訴訟入費ヲ支ユヘキ資力ニ乏シトスルモ常ニ堀甚四
 郎カ該件ヲ擔任シ其費用ヲモ辨償シ來リ聊カ差支ヘサルヲ以テ視レハ決シテ費用ノ爲メ
 枉ケテ己レノ權利ヲ拋棄シ該地ノ全部ヲ三右衛門ニ與フヘキ道理ナク)云々辨明ヲ下タ

サルト雖モ右次郎兵衛於テハ言行一致ナラサルハ勿論常ニ堀甚四郎ト謀リ巧言ニシテ
 屢被告ノ心根ヲ迷惑セシメ終ニ此極ニ陥ラシメシハ謀計ノ甚シキナリ然ルニ裁判官ハ告
 訴者カ片言ニ因テ裁判セラレシハ不當ナラスヤ

第五條 (况ンヤ該願下書及ヒ請書ノ高野次郎兵衛カ名下ニ押捺セル印影ト高野次郎兵
 衛カ提供スル印影トヲ鑒定人三名ニ命シ審査セシムルニ彼是ノ印影相違スル旨申立三名
 ノ鑒定恰モ符節ヲ合スカ如キ)云々該願下ヲ爲スノ際堀甚四郎ハ高野次郎兵衛トナリ大
 坂上等裁判所ヘ出願セシナレハ之レカ眞正押捺ノ印影ト云フヲ俟タス然ルヲ高野次郎兵
 衛カ先般告訴セシ印影ト比シ鑒定セラレ而シテ相違ナルトハ不當ナラスヤ何トナレハ曩
 ニ國元警察署ニテ戸籍帳簿ヲ以テ取調ラレシニ毫モ相違ナケレハ却テ告訴人カ姦策ヨリ
 相違シタル印影ヲ捺印セシモノナルヤ如何ノ事實ハ國元役場ノ印鑑取寄鑒定セシメ是ヲ
 以テ確定セラルカ當然ナルニ其儀ナクシテ前顯ノ如ク裁決ヲ下サレシハ不服ノ大目ナ
 リ

第六條 (以上ノ形狀ニ依リ當時事實ヲ推究スルニ被告上元仁四郎ハ松井武助ト申合セ
 該爭論地ヲ己レノ有ニ歸セシメント謀リ其願下ケニ際シ願書及ヒ請書ヲ詐爲シ竊カニ高
 野次郎兵衛代人堀甚四郎カ調印シタル眞正ノ願書ト引換ヘ大坂上等裁判所ヘ差出シ其聞
 届ヲ受ケタルモノト)云々確認セラルト雖モ該願下ケ書タルヤ原被目前ニ於テ調印シ
 直チニ出願セシモノニシテ况ヤ請書等ニ於テハ廳中ニ於テ雙方調印セシモノナレハ何ソ
 之レヲ引換ユルノ間隙アルヲ得ンヤ依テ不當ニ辨明ナリトス

第七條 (前條被告人カ願下書及ヒ請書ヲ詐爲セシ罪ハ改定律例第二百四十六條凡ソ私
ノ文書ヲ詐爲スルモノハ情ヲ量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツトアルニ依リ不應爲重キニ擬
シ懲役七十日申付ル)ト判決セラレシモ前顯述ルカ如ク詐爲セシ事ハ聊カ無之假令律例
カ照ラサル、ニモセヨ印影鑿定方ノ不正ナルニ因リ斯ル罪科ヲ付與セラル、モ全ク裁判
官ノ調査方密ナラサルヲ知ル依テ此判決ヲ不適當ナリトス故ニ真正ノ調査ヲ待テ伏罪セ
ソトス

上告追申ノ要領

第一條

先般次郎兵衛ヨリ告訴ニ及ヒ御糺問中鑒定人三名ヲ以テ照査セラレ印判彼是ノ相違アル
ヲ以テ既ニ詐爲ノ罪科申渡サレタルモ曩ニ控訴願下ニ付高野次郎兵衛ノ名義ヲ僞稱シ堀
甚四郎ナル者大阪上等裁判所へ出頭ノ際次郎兵衛ノ實印ヲ持携スルニ付留守中不都合ノ
儀モ勘カラサルヲ以テ代リ印相製シ候旨同人分家高木次郎右衛門ナル者物語致シ候儀有
之果シテ然ラハ次郎兵衛ニ於テハ二個ノ實印ヲ所持スル者アリ后ニ調製セシ印影ヲ以テ
告訴狀へ押捺セシモノト確認ス是ニ由テ之レヲ視ルモ故造心ヨリ成リ立タルモノト思慮
ス依テ越中國今石動ノ警察署へ次郎兵衛ヨリ呈シタル書類ノ印影及ヒ戶籍帳簿ノ印影ト
御照合アレハ判然仕ルヘシ

第二條

上告本書ニ陳述セシ高野次郎兵衛ト地所分買ノ事ヲ止メ上告人へ悉皆買取故障ナキヲ承

諾セシ上該願下ケヲナセシ譯合ハ則右次郎兵衛ヨリ米田六次郎へ係リ地所買戻シノ訴訟
ニ及ヒタル際御審理ノ末該訴原告高野次郎兵衛ヨリ提出スル第一號證(六次郎ヨリ次郎
返リ證)ハ僞證ナルヲ判然タリ因テ該訴ハ次郎兵衛曲者ノ裁判申渡サレタリ然ル處該判
文不服ヲ唱へ次郎兵衛ヨリ六次郎へ係リ控訴ヲ爲スニ該僞證ヲ藏匿シ證據物紛失ノ体ニ
仕做シ六次郎ノ代人ヨリ呈シタル事故書而已ヲ以テ控訴ヲ仰キシト有之上告人ト次郎兵
衛ト直接ニ及候得ハ一言ノ口答モ致サス和濟ニ及ヒ控訴願下ケヲ致シタルニ官ハ其意ヲ
酌量ナク當ニ大道手續ノミヲ以テ裁決セラレタレトモ事實前顯ノ如クナルヲ以テ宜ク御參
照ヲ乞フ

第三條

告訴人高野次郎兵衛代人竹内保義カ万事教唆致シ今般ノ告訴等ニモ代人トナリ出阪シ辨
舌ヲ以テ事ヲ左右ニ枉ク故ニ本人突合ノ對決ヲ乞ヘモ官ニ於テ之レヲ受理ナク一度モ面
會相成ラス右ハ全ク本人カ直接スレハ國元於テ和濟ノ事實等申開成ラサルヲ以テ出阪セ
サルナリト思慮ス

第四條

本月十八日附テ以テ上告明細書ヲ奉呈セシ第一條ニ陳述セシ證ハ今般差出候證據物寫第
三號ニ同五條ノ證ハ第一號ニ同三條ノ證ハ第二號ニ記載シ奉呈仕候間御參照ヲ乞フ

辨明

凡ソ事實ヲ認定スルハ原裁判所ノ主權ナリ然レトモ其認定セシ事實ノ性質如何ヲ檢審ス

ルハ本院ノ權内ナリトス本案上告ノ如キハ事實ノ認定ニ係ルモノトシテ原裁判所カ事實ヲ認定セシ事由ヲ明揭宣告セシ如キニテ敢テ不當ト爲ス可キ廉ナシ其他上告退伸ニ大坂上等裁判所ニ出頭ノ際次郎兵衛ノ實印ヲ持携スルニ付留守中不都合ノ儀モ勘カラサルヲ以テ代リ印相製シ候旨同人分家高木次郎右衛門ナル者物語致シ候云々等ノ申立アリト雖モ口頭無證ノ申立ニシテ反證ト爲スニ足ラサルヲ以テ採用スルニ由ナキモノトス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年七月九日大坂裁判所ニ於テ上元仁四郎ニ言渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナキヲ以テ上告狀却下スルモノナリ

第千三百四號

○判文(私文書詐爲ノ件)明治十四年七月十七日上告
明治十四年十月卅一日判決

大坂府攝津國東區豐後町二十七番地平民

松井武助

明治十四年六月四十二年三月月

明治十四年七月九日大坂裁判所ニ於テ右武助ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀私文書詐爲ノ罪アル見込ヲ以テ檢事ヨリ公訴スル事件審問ヲ遂ル處檢事公訴ノ要領被告武助ハ明治十二年十月十四日石川縣越中國礪波郡中尾村平民上元三右衛門代人トナリ大坂上等裁判所ニ於テ控訴願下ケテ爲ス際其論地ノ全部ヲ上元三右衛門ノ有ニ歸セ

シメント謀リ三右衛門伴仁四郎ト申合ヒ控訴被告人高野次郎兵衛カ與書ヲ詐爲シ其名下ニ不眞正ノ印影ヲ捺捺シタリ而シテ被告ハ之ニ服罪セスト雖モ本件ニ關係アル高野次郎兵衛カ代人堀甚四郎ノ供述書並ニ印刷師一柳政七外二名ノ鑑定書及ヒ告訴人高野次郎兵衛ト上元三右衛門トノ間ニ爲シタル契約等ニ依リ犯罪ノ所爲ヲ證明スルニアリ

被告人於テハ上元三右衛門ヨリ高野次郎兵衛ニ係ル買受地所故障解除ノ控訴願下ケ書及ヒ其請書ハ三右衛門伴仁四郎ヨリ依頼ヲ受ケ三右衛門ノ代人トナリ其取扱ヲ爲シタレト高野次郎兵衛代人堀甚四郎ノ承諾上調印セシモノニテ決シテ詐爲セシモノニ無之旨申立ツ

辨明

被告人於テ詐爲セサル旨辯護スト雖モ高野次郎兵衛代人堀甚四郎カ承諾上調印セシニ非サルハ抑モ次郎兵衛ニ於テハ該事件ニ付既ニ金澤裁判所ノ始審裁判ニ全勝ヲ得タルノミナラス中嶋太郎助カ賣主米田六次郎ノ依頼ヲ受ケ雙方ノ中間ニ立チ入り之レカ和解ヲ取扱フニ當リ次郎兵衛ハ已レカ權利ノ一部ヲ裂キ則チ高地拾石ノ内其三石三斗八升ヲ上元三右衛門ニ分與スヘキヲ許諾シ三右衛門仁四郎ニ於テモ亦之ヲ甘受シ既ニ甚四郎ハ父三右衛門ニ代リ又堀甚四郎ハ高野家ト本分ノ間柄ナル緣故ヲ以テ次郎兵衛ニ代リ雙方實地ニ臨檢シ算者中川吉左衛門ヲ雇ヒ該地ノ分割ヲ爲シ了リタルモノナレハ爾後次郎兵衛ニ於テ何ソ俄カニ地券書換ヲ拒ミ爲メニ前約ヲ破毀スヘキ管ナキハ勿論當時次郎兵衛ハ貧困ニシテ訴訟入費ヲ支ユヘキ資力ニ乏シトスルモ常ニ堀甚四郎カ該件ヲ擔任シ其費用ヲモ辨償シ來リ聊カ差支ヘサルヲ以テ視レハ決シテ費用ノ爲メ枉ケテ己レノ權利ヲ

拋棄シ該地ノ全部ヲ三右衛門ニ與フヘキ道理ナク若シ果シテ費用ノ爲メニ全地ヲ拋棄シ
 タリトセハ何ソ其後數十里ノ遠キヲ願ニス夥多ノ費用ヲ厭ハス之レカ告訴ヲ爲スヲ用
 センヤ是ニ因テ之ヲ推シ且ツ堀甚四郎カ調印セシ願書ノ文詞ニハ分地ノ明文アリシ旨甚
 四郎カ供述スル處ニ依レハ被告ハ全ク仁四郎ヨリ右等ノ事實ヲ承知セサルノ理アラシヤ
 況ヤ該願下書及ヒ請書ノ高野次郎兵衛カ名下ニ押捺セル印影ト高野次郎兵衛カ提供スル
 印影トヲ鑑定人三名ニ命シ審査セシムルニ彼此ノ印影相違スル旨申立テ三名ノ鑑定恰カ
 モ符節ヲ合スカ如キヤ以上ノ形狀ニ依リ當時ノ事實ヲ推究スルニ被告松井武助上元仁
 四郎ト申合セ該爭論地ヲ己レノ有ニ歸セシメント謀リ其願下ケニ際シ願書及ヒ請書ヲ詐
 爲シ竊カニ高野次郎兵衛代人堀甚四郎カ調印シタル真正ノ願書ト引換ヘ大阪上等裁判所
 へ差出シ其間届ヲ受ケタルモノト確認ス

判決

前條被告人カ願下ケ書及ヒ請書ヲ詐爲セシ罪ハ改定律例第二百四十六條凡ソ私ノ文書ヲ
 詐爲スルモノハ情ヲ量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツトアルニ依リ不應爲重キニ擬シ懲役七
 十日上元仁四郎ノ從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役六十日申付ル

但シ詐爲セシ書類ハ取揚ル

武助ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年七月十七日日本院ニ上告スル要旨左ノ如シ

第壹條

抑本件ノ起由ハ明治十二年八月十七日當府下末區北久太郎町壹丁目砥石商石原彌助ナル

者ハ平素自分ト懇意ノ因ミ之アリ候處同人ノ紹介ニ依リ石川縣越中國礪波郡中尾村農上
 元三右衛門ナル者同道ニテ自分宅へ罷越シ伸語スルハ今回上元三右衛門ヨリ高野次郎兵
 衛ナル者へ相係ル買受地所拒障解除ノ詞訟件大阪上等裁判所ニ控訴爲シ度モ控訴手續不
 案内ニ付該控訴狀相認メ吳ヨトノ依頼ニ應シ則一件書類ヲ預リ置而シ本人上元三右衛門
 ハ府下東區鹽町壹丁目砥石商井畑半次郎ナル者親類ノ間柄ヲ以同人方ニ滯留致居其内上
 告人ハ控訴狀ヲ認メ遣シタリ然ルニ三右衛門ハ上告人ニ對シ該件ノ代理トシ出願致吳ヨ
 ト依頼候得共遠隔ノ地方ニテ急速代人届ノ手續運ハス其儀相斷リ茲ヲ以テ上元三右衛門
 ハ明治十二年八月二十二日自分名義ニテ直ニ控訴出願シ前同月廿四五日頃大阪上等裁判
 所ニ伺出許可ヲ得テ歸縣セリ而ル后明治十二年十月十二三日頃右三右衛門伴仁四郎ナル
 者被告高野次郎兵衛ト同伴出阪爲シタリトテ上告人ノ宅ニ右兩人罷越シ仁四郎云ク先般
 實父三右衛門ヨリ手數相掛候控訴一件國元ニテ和解ノ示談行届キシヲ以上等裁判所へ願
 下致度就而ハ原告代人トシ被告高野次郎兵衛ト同道出頭ノ上願下致吳ヨトノ願意ニ應シ
 尙入念同席ニ坐シタル高野次郎兵衛へ對シ其事實尋問及ヒ候處被告於モ仁四郎申立ル通
 相違無之將々願下ケノ主旨ハ該爭論ノ地所悉皆上元三右衛門ニ買受ル文意ニ認メ吳ヨト
 指揮ニ任セ則其旨ノ願下書ヲ代書シ被告次郎兵衛ト上告人連印ヲ以テ明治十二年十月十
 四日原被同道出頭シ該願下書へ聽届ノ指令ヲ請ケ即日原告伴仁四郎へ願下書而
 第壹號)ヲ相渡シ上告人ハ僅ニ右願下ノ當日一ト度上等裁判所へ出頭セシ而已ナレハ原
 被告ノ兩造間本國ニテ示談相整タル實況如何ハ曾テ識得セサル所ナリ將々願下ノ際其代

人届及ヒ委任狀寫願下書ノ外上告人ノ名義ニテ上等裁判所ニ捧呈セシ書類一切無之最モ該代人届及ヒ委任狀ハ先キニ相當用紙ニ相認メ遣シ置タル處願下ノ砌仁四郎ナル者親三右衛門及ヒ戸長ノ奥書調印ヲ要シ持參テ受ケ上告人之レニ自分ノ氏名年月日ヲ記入調印シ同廳ニ捧呈セリ然ルニ明治十三年一月三十一日高野治郎兵衛ヨリ係ル吟味願ニ付大坂裁判所檢事局ノ召喚ヲ受ケ上告人ハ同局ニ出頭シ高野治郎兵衛ト突合相成タル所寫圖ノヤ先キニ願下ノ際上等裁判所ニ出頭セシ人跡年齡等太ク相異ルヲ驚キ其旨上中及ヒ別紙證據物寫第貳號手續書ト人相書ヲ呈セシニ今般出頭セシハ本人高野治郎兵衛ニ紛レナキ旨係官ヨリ達セラレ先キニ高野治郎兵衛ト自唱シ出頭セシハ完全其名義ヲ詐稱爲シタル者ト玆ニ初テ承知セシ顛末ナリ(別紙證據物第三號)而ル后檢事局及ヒ糾問掛刑事課於テ數回ノ審問ヲ蒙ルモ前陳ノ手續キヲ具伸スル事始終同一ニテ毫髮モ變言ニ涉ラヌ竟ニ日供甘結ノ末明治十四年七月九日ニ至リ後顯掲載ノ如キ宣告ヲ受ケタリ然レモ上告人ハ其裁判ヲ不適法ノ裁判ナリト固慮シ之レニ服従スル能ハサレハ今其理由ヲ逐一次條ニ上陳ス

第貳條

該裁判言渡書辨明中(堀甚四郎カ調印セシ願下書ノ文詞ニハ分地ノ明文アリシ旨甚四郎カ供述スル處ニ依レハ被告ハ全ク甚四郎ヨリ右等ノ事實ヲ承知セサルノ理アラシヤ况ンヤ該願下書及ヒ請書ノ高野次郎兵衛カ名下ニ押捺セル印影ト高野治郎兵衛カ提供スル印影トヲ鑒定三名ニ命シ審査セシムルニ彼此ノ印影相違スル旨申立テ三名ノ鑒定恰モ符節

ヲ合スル如キヤ以上ノ形狀ニ依リ當時ノ事實ヲ推究スルニ被告松井武助ハ上元仁四郎ト申合セ該爭論地ヲ己ノ有ニ歸セシメント謀リ其願下ニ際シ願書及ヒ請書ヲ詐爲シ尙カニ高野治郎兵衛代人甚四郎カ調印シタル真正ノ願書ト引換ヘ大坂上等裁判所ニ差出シ其願下受ケタルモノト確認ス)ト斷定セラレタレモ前條ニ陳述スル手續ノ如ク上告人ハ控訴件ニ付原被告カ本國ニテノ談判仲裁云々ノ事狀如何ハ曾テ知ラサル所ナリ而シテ(堀甚四郎カ調印セシ願書ニハ分地ノ明文アリシ)ト之ハ是レ甚四郎於テ事實ヲ枉ケタル無憑ノ片言ニ過キス所以如何トナラハ該訴願下ケノ當時上元仁四郎堀甚四郎(其際高野ナリト詐稱セリ)ノ兩名ヨリ上告人ハ願下ケノ旨趣親シク聞取り目前之レヲ代書セシメ甚四郎

(治郎兵衛ト自稱ス)ハ高野治郎兵衛名下ニ調印シ上告人ハ上元三右衛門カ代人タル肩書ヲ記シ上

告人名下ニ調印シ正副貳通ヲ携ヘ甚四郎ノ治郎兵衛ト同道ニテ大坂上等裁判所ニ出頭シ各自出頭名刺貳枚ト出門入門届各壹枚トニ係官名及ヒ番号ヲ明記シ願下ケ書ト一纏之レヲ捧呈セリ前シテ係官ハ原被告ヲシテ訟庭ニ喚入願下ノ事由ヲ親問セラレ其副本ニ聞届ノ指令ヲ朱書シ御下附相成タル事柄ハ該日ノ出頭届名刺等取調アラハ其實蹟ハ著明ナルヘシ况ンヤ甚四郎ハ自ラ治郎兵衛ト稱シ返納スヘキ控訴狀ト印形ヲ携帶シ願下者并ニ請書等ニ押捺セシハ獨リ甚四郎カ所爲ニシテ上告人ハ當時其情ヲ知ラサルコト明カナリ殊ニ告訴人高野治郎兵衛カ口供甘結中願下ノ際甚四郎ニ控訴狀及ヒ印章ヲ委託セシ云々申供セリ是等ノ事實ニ據テ視ルモ該願下書及ヒ受書ニ押捺シタル印影ハ真正ノ物ナルコト論テ跋ヲス然ルチ大坂裁判所於テハ治郎兵衛カ告訴狀ニ押用シタル印影ト先キニ大坂上等裁

判所へ捧呈シタル願下書並ニ受書へ押用シタル印影トテ比較鑒定セラレタル而已ヲ以テ其願下書請書等ニ押捺シタルモノハ不真正ノ印ト確認セラレシハ是如何ナル理由ナルヤ曾テ上告人ハ解シ能ハス其所以ハ先ニ告訴人治郎兵衛ヨリ本國警察署へ該件吟味出願ノ際願下書(大阪上裁判所於テ)治郎兵衛名下ニ押捺アル印影ト戸長役場ニ備ヘアル戸籍帳簿へ押捺シタル印影トヲ照訂セラレタリシニ其字體形容毫毛モ相違ナキヲ聞及ヘリ玆ヲ以テ告訴人カ其願狀ニ押捺セシ印影ハ却テ告訴人カ奸策ヨリ異ナル印判ヲ押用シタルモノ歟ト甚々疑ヒテ容ル、所ナレハ審理中上告人ハ本國ノ印鑒取寄セラレ飽マテ之レカ真否如何ノ點御糺アラソコヲ屢々上願爲スモ當ニ告訴人治郎兵衛及ヒ甚四郎等カ口實ノ片言ヲ偏ニ信用セラレ上告人カ實據ノ上申ヲ不問ニ措キ裁斷セラレシハ未ダ事實ノ審理ヲ盡カ、ル不適法ノ裁斷ト思惟スル第一ナリ

第三條

御辨明ノ末項ニ「高野治郎兵衛代人甚四郎カ調印シタル真正ノ願書ト引換ヘ云々」之レ何等ノ證據アツテ斷論セラレシヤ更ニ上告人カ不審ニ耐ヘサル所ナリ事理如何トナラハ既ニ前條中辨明スル如ク明治十二年十月十四日高野治郎兵衛(其實堀甚)ト上告人ト同道大阪上裁判所ニ出頭願下書面正副二通捧呈ノ當時即日其副本ニ聞届ケ指令ヲ要シ御下附ナリタルモノニテ上告人カ一己ノ取計ヒニ成リタルモノニ非ラス堀甚四郎ト俱ニ出頭シ寸陰間斷ナキ場合ナルニ奚ソ之レヲ引換ヘル暇アル可キ道理ナシ若シ果シテ之レヲ引換タルモノトモハ其然ル所以ノ證左ヲ明示セラル可キハ當然ナルニ曾テ其事ナキヲ以テ

視ルモ想像推信ニ出テタル不法裁判ト思惟スル第二ナリ

前各條上申スル如キ理由ニ付上告人ハ詐爲私文書ノ罪科ヲ犯シタル廉神明ニ誓ヒ覺ヘ無之候條冀クハ御細審之上大阪裁判所ノ裁判ヲ取消シ更ニ至公ノ奉仰御裁判候也

辨明

凡ソ事實ヲ認定スルハ原裁判所ノ主權ナリ然レトモ其認定セシ事實ノ性質如何ヲ檢審スルハ本院ノ權内ナリトス本案上告ノ如キハ事實ノ認定ニ係ルモノニシテ原裁判所カ事實ヲ認定セシ事由ヲ明掲宣告セシ如クニシテ敢テ不當ト爲ス可キ廉ナシ

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年七月九日大阪裁判所ニ於テ松井武助ニ言渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナキヲ以テ上告狀却下スル者也

第一千三百五號

○判文(違式ノ件) 明治十四年九月二十日上告 明治十四年十月三十一日判決

愛媛縣伊豫國温泉郡一万町平民

不 二 幸 太 郎

右幸太郎カ所爲ニ對シ明治十四年九月十六日松山裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十年四月二十九日長男信衛ノ出生シタル届出テテ忘ル科戸籍法第五則ニ出生云々ハ必其時々戸長ニ届ク云々トアル明文ニ違フニ依リ改定律例第二百八十八條違式輕

二問ヒ懲役十日ノ贖罪金七拾五錢申付ル

松山裁判所詰檢事補森田忠雄ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二十日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

不二幸太郎

右幸太郎ハ明治十年四月二十九日長男ヲ出生シナカラ在母歲月ヲ經過シ明治十四年八月三十日初メテ加籍ノ手續ヲ其郡長ニナシタリ仍テ愛媛縣明治十年甲第百九號ノ布達ニ違反スルモノト見込公訴候處裁判官ニ於テ戶籍法第五則ニ違フモノトシ改定律例第二百八十八條違式ニ問擬シ懲役十日ノ贖罪金七拾五錢ヲ申渡シタリ抑モ明治四年四月四日制定ノ戶籍法ナルモノハ一般人民ニ布令セラレシモノニ非スシテ其主務ノ官吏ニ達セラレシモノナリ然レハ則チ人民於テ此ノ規則ニ違反スルモ罪ノ成立セサルモノニ付幸太郎ノ如キ則チ縣達違反者ナリ仍テ明治十年第十三號公布ニ照シ處分スヘキナ松山裁判所ノ裁判爰ニ出テサルハ不當ノ裁判ト思量シ控訴上告手續第二十九條ニヨリ一件書類相添及上告候也

辨明

被告孝太郎カ長男出生ノ届ヲ怠リシハ明治十年甲第百九號愛媛縣布達ニ違反スル者ニシテ明治四年四月四日制定戶籍法ニ對スル違犯者トハ云フヘカラス奈トナレハ該戶籍法ナルモノハ各主務官吏ニ示達セシモノニシテ一般人民ヘノ布告ニアラサレハナリ然リ而シテ幸太郎カ其怠慢ヲ悔ヒ郡役所ニ自首シタルコトハ同人手續書及ヒ郡長肝付兼弘カ告發書

等ニ明瞭タレハ又宜シ名例律犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ免スヘキ允當ナルニ原裁判玆ニ出ス戶籍法第五則ニ違フ者トナシ違式ノ輕キ懲役十日ノ贖罪金七拾五錢ヲ言渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年九月十六日松山裁判所ニ於テ不二幸太郎ニ云渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

不二幸太郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ縣ノ布達ニ違フ者明治十年第十三號布告ニ依リ罰金五拾錢ノ處自首スルヲ以テ名例律犯罪自首條ニ照シ

死罪

第千三百六號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十四年六月十七日上告
明治十四年十一月二日判決

兵庫縣攝津國神戸區兵庫多聞通

六丁目平民

大江覺太郎

明治十四年六月
二十七年十一月

右同人妻

大江タツ

右ノ者共ハ明治十四年六月十一日神戸裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

明治十四年六月
三十一年七月

當裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ兵庫縣攝津國神戸區兵庫多聞通六丁目六十五番地平民大江覺太郎及其妻「タツ」カ被告タル詐欺取財事件ノ公訴ヲ受理シ檢事及ヒ各證人參考人ノ陳述被告ノ答辨ヲ聽キ證據物件豫審調書ヲ熟閱シ判決スルコト左ノ如シ
證人タル被害者ハ覺太郎妻「タツ」ヨリ其娘「ヨチ」ヲ大阪方ヘ縁付爲致ルニ付衣類新調致度ト云フヲ以テ黒縞子片側女帶外拾品買受ケ談判ヲ受ケタル旨陳述シ之ヲ覺太郎カ明治十四年五月三日當裁判所糾問掛ニ於テ爲シタル供述「タツ」カ明治十四年五月五日右同掛ニ於テ爲シタル供述ニ照スニ相符合セリ而シテ被告ハ於テ其大阪方ヘ縁付ルト云ヒタルハ相田與三郎ヘ縁付ルコトヲ指シテ申聞タル如ク答辨スト雖モ證人ニ於テ「ヨチ」ヲ與三郎ノ妻又ハ妾ニ賞受ケタル譯ニ無之「ヨチ」ヲ與三郎ヘ縁付爲致候杯覺太郎夫婦申立候儀ハ全ク持事ニ有之旨陳述スルニ依レハ被告ハ其女「ヨチ」ヲ大阪方ヘ縁付ニ付衣類入用ナルニ因リ吳服物ヲ買入ルヘシト云フヲ以テ被害者姫田元次郎ヲ欺キタルコト明白ナリトス又被害者ニ於テ「タツ」ヨリ其母大坂表ニ於テ糠問屋商業盛大ニ致候間早速其方ヘ申遣ハシ山金爲致可申旨申聞ラレ又母大坂ヨリ罷下候ニ付代金ハ後刻持參ノ旨申聞ラレタル旨陳述シ之ヲ參考人ノ陳述ニ照スニ其言ノ眞實ナルヲ徵スヘク而シテ覺太郎カ「タツ」母ト申者ハ大阪表ニ罷在ラスト供述シタルニ依レハ被告ハ「タツ」ノ母ヨリ金子取寄セ即時拂方ヲ爲スヘキ旨ノ詐言ヲ以テ元次郎方ノ吳服物ヲ取込タルコト亦明白ナリトス

被告人カ元次郎ヨリ吳服物ヲ受取リタルハ明治十四年三月十二日明治十四年三月十三日ナリ而シテ覺太郎カ駒ケ林村法修庵ニ移轉シタルハ其翌日即明治十四年三月十四日ニシテ其家山ヲ爲スニ當リ行先ヲ家主及ヒ元次郎ニ告ケサリシコト自供及ヒ證人ノ供述ニ依リ明白ナル而已ナラス法修庵ニ趣キタル後他ヨリ尋子來ル者アルモ覺太郎ハ居ラサル旨ヲ申吳レヘキ旨同庵ニ住居セル下田定三ニ依頼シタルコトモ證人ノ陳述ニ依リ明瞭ナリ又「タツ」ハ明治十四年三月十七日頃住宅ノ戸締ヲ爲シ所持ノ蒲團ヲ携ヘ妻鹿「ツ子」方ヘ移轉セシコト元次郎ヨリ受取ル所ノ吳服物ノ内黒縞子女帶等ハ有馬八兵衛ノ使ト爲リ明治十四年三月十四日明治十四年三月二十七日ニ桃不重兵衛ニ買入シタルコト其自供及ヒ證人ノ陳述ニ依リ亦明瞭ナリ此等ノ事跡ニ依レハ被告ハ吳服代金ヲ拂ハサル所存ヨリ其住居ヲ移轉シ其贓品ヲ隱匿セシヤ亦疑フヘキ無シトス
本件ノ事柄ハ被告ハ覺太郎「タツ」相謀リタル所業ナルコト覺太郎カ「ヨチ」ヲ大阪方ヘ縁付爲致候ニ付衣類入用ノ旨妻「タツ」ヨリ元次郎ニ申聞タルハ自分ト協議ニ有之旨ノ供述及ヒ前文ノ事跡等ニ依リ之ヲ參考人ノ陳述ニ照シテ明白ナリ而シテ「タツ」ハ覺太郎ノ妻ニシテ諸事覺太郎ノ指揮ヲ受ケ取計ヒタル實況アルニ由リ同人ハ造意者ニシテ「タツ」ハ隨從者ナリトス
前文ノ如クナルニ由リ覺太郎ノ造意ニ「タツ」之ニ隨從シ其女ヲ大阪表ヘ縁付ルニ付吳服物入用ナルニ因リ買取ルヘシ其代金ハ「タツ」母ヨリ取寄セ即時償却スヘキ旨ノ詐言ヲ用ヒ姫田元次郎ヲ欺キ明治十四年三月十三日三月十三日同人ヨリ黒縞子女帶外拾品ヲ取

込タルモノト判定ス但其物品ノ估計金高ハ評價人ノ申立書ニ依ルニ貳拾五圓七拾四錢ナリトス

四二三

依テ新律綱領賊盜律詐欺取財條竊盜條改正七贓例圖名例律共犯罪分首從條ニ照スニ

凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス

凡竊盜云々財ヲ得ル者ハ贓ヲ分タスト雖モ贓ヲ併セテ罪ヲ科ス從タル者ハ一等ヲ減ス

竊盜貳拾圓懲役八十日

一家人共ニ罪ヲ犯セハ止テ尊長ヲ坐ス云々其盜罪及ヒ枉法不枉法若クハ闘毆殺傷等父子同ク犯スハ並ニ凡人首從ノ法ニ依ル

右條目ニ依リ大江覺太郎ハ懲役八十日ニ處シ「タツ」ハ一等ヲ減シ懲役七十日ニ處スヘキ

處情狀ヲ酌量シテ二等ヲ減シ覺太郎ハ懲役六十日ニ處シ「タツ」ハ懲役五十日ニ處ス

被告人カ欺取セシ呉服物ノ内川口「コウ」ニ預ケタル上州八丹女帶其外ハ「コウ」ヨリ追徴

シ桃木重兵衛ニ質入シタル黒縞子女帶其外ハ重兵衛ヨリ追徴シ並ニ姫田元次郎ニ還付ス

重兵衛方質代金拾二圓ヲ賠償スル爲メ覺太郎ノ資力限ヲ追シ重兵衛ニ下付スルモノナリ

大江覺太郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月十七日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

自分儀兼テ買掛ノ物品ヲ取込杯ト反對シテ告訴ニ及ヒ則チ告訴人姫田元次郎ナル者

誤解トス因テ該事實ノ曰ク「元」元來度々ノ取引タルナレハ明治十四年三月十二日三

月十三日同人ヨリ買ヒ取黒縞子女帶外拾品代金三拾五圓二十四錢トシテ此代金熟談ノ趣

意ハ全ク三ヶ度ニ渡方可仕約定則チ明治十四年三月三十一日ヲ初メトシテ同日金拾圓渡

シ殘金貳拾五圓貳拾四錢ヲ二ツ割トシテ同四月五月兩度ニ皆金拂方トス則チ此儀ハ告訴

人ノ自ラ承服ニ因テ熟談行届キ該物品受取渡シ濟タルヲ反對スト雖モ確證據タルヤ右告

訴ノ際池邊嘉助ト申者仲解ノ糊リ全ク前書云々代金渡方トシテ約定證書取替シタルハ則

チ同人ヨリ上伸ス已ニ口供ニ在ル之レ則チ告訴人前以テ取引ノ際如斯約定ナルヲ後日ニ

至リ反對スト雖モ右池邊嘉助ナル者ト定約スルニ因テ拙者上伸已ニ口供ノ如ク判然タリ

然ルニ因テ該物品買掛リタルハ明瞭ナルヲ神戸裁判宣告チ一見スレハ池邊嘉助ヨリノ云

々除キ在ルハ不當ナリ仍テ不服ノ第一ナリ

第二條

相田與三郎方ハ自分共兼テ貰受ケ候娘「ヨチ」ナル者縁付ノ云々此儀ハ尙ホ確タル證據物

ヲ以テ再上伸書迄御中止ヲ願置ク此一件思外兩名ヨリ反對スル上伸驚入ル因テ此儀尙ホ

證據タルヲ求メ上伸スレハ速ニ明瞭判然ス右兩人ノ者同心スルハ論ヲ俟ス曾テコ、ヲ以

テ神戸裁判不服ノ第一ナリ

第三條

神戸裁判宣告中ニ於テ自分家出ナスニ當ルトノ云々此義論ヲ俟ス則チ前條第一條ニ云々

已ニ買取物品代金ノ内拾圓ヲ三月三十一日ニ右元次郎方ニ可相渡約定ノ處金調不行届キ

ニ付同月二十七日頃ニ及ヒ右池邊嘉助ナル者ヲ以テ元次郎方ニ同三日中ノ延期ヲ頼斷ス

四二三

出大則元次郎ノ曰ク決テ告訴等ニ及ヒシ義無之該依頼ノ儀行届如此元次郎自分口供ニ於テ判然ト自分ニ於テ固ヨリ家出杯ノ心跡ヲレハ家内共ノ相談ニ上自分所有ノ物ハ不
 及申ニ已ニ取引等凡クハ片付今二度ト歸リ見テ仕舞等可仕等ノ處其意ヲ不得已ニ目下
 拙者ノ職業ヲ得ヘシ心口積リニ任シ爲念家主ヘ咄スル迄ノ者ナリ又其後家内「タツ」ノ仕
 方ニ於テ先キニ自分上伸ノ如ク次第拙宅戸締等ナシ出ルト雖モ所有物ヲ隠ス等ナシ
 已ニ隣家ヘ届ケ出入スル且今度拙宅内ヲ取調ヲ爲スニ已ニ火鉢ノ引出シニ入レタル銅
 錢四拾錢ノ金員有之右比較スレハ家出杯ヲ見ルハ無論タル者トス如斯判然タルヲ神戶裁
 判不當ニ付不服ノ第一ナリ

第四條

明治十四年三月十三日ナリ駒ケ林村寶珠庵ニ住居セル下田貞三答ヘルニ覺太郎ハ居ラサ
 邪旨ヲ申吳レヘクト依頼シタルトアルハ此義ハ全ク同人間問違イニ有之該證據タルヤ已
 ニ同村近邊ニ於テハ知ル人数名有之ニ因テ同庵ニ居ラサル杯依頼スル等無之目下當日而
 已留主タル旨ヲ斷吳レ度ト依頼シ置キ出勤罷在候ナリ右ハ全ク口供相違タル者ト思考候
 ナリ如斯御比較被成下候得ハ無論タルヘキ者ナリ然ルニ仍テ該裁判不服ノ第一ナリ

第五條

前條如斯趣意タルヲ元次郎不圖反對シテ告訴ヲ望ムト雖モ後日ニ至リ驚入り事實立戻リ
 候則チ証據タルハ自ラ該告訴取消シテ願出ス之レ則チ判然タル證據ナリ如斯タルハ已ニ
 神戶裁判ニ於テ見レハ前寫ノ如ク御處分已ニ拙者ニ於テ其意ヲ不得因テ不服ニ付上告ス

然ルニ因テ懲役六十日ニ當ルハ不當タルニ付不服ノ第一ナリ

第六條

前條ノ第一條ヨリ第六條ニ終ル則チ神戶裁判所宣告書ノ末ニ在ル云々吳服物ノ内川口
 「コウ」ニ預ケタル上州八丹女帶其外ハ「コウ」ヨリ追徴シ桃木重兵衛ニ質入シタル黒縞子
 女帶其外ハ重兵衛ヨリ追徴シ並ニ姫田元次郎ニ還付ス重兵衛方質代金拾貳圓ヲ賠償スル
 爲メ自分資力限リ追徴スルト雖モ前二條ヨリ六條ニ至ル事實證據タルヲ以テ上伸ノ如
 ク因テ如此追徴云々ニ不及該物品代金ヲ以テ則チ告訴人ヘ池邊嘉介ナル者證人トシテ已
 ニ約定ノ如ク拂方スレハ無論タル者ト思決候ニ付上告ス仍テ何卒深ク御推酌アラセラレ
 神戶裁判所判決破毀スルヲ慎テ奉告候ナリ

大江「タツ」ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月十七日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ
 如シ

第一條

去ル明治十三年十月比ヨリ相田與三郎ト申者私方ヘ止宿罷在其節兵庫縣四等巡查武田倉
 藏ナル者ヲ以テ女「ヨ子」ヲ嫁亦ハ妾ニ吳間敷哉ト示談者之候ニ付直チニ夫覺太郎ヘ其由
 申聞候因テ今殿右倉藏ヲ證人タラシムルハ當然ノ處既ニ同人ヘ與三郎ヨリ此事件ニ付テ
 ハ證人タラサル様申聞有之旨聞及ヒ候ニ付突合ノ上反テ反對タル上伸等被致テ思ミテ突
 合不相願候得共與三郎ナル者女「ヨ子」ヲ吳レト申タル確證此因テ姫田元次郎ヲ欺キタル
 儀ハ決テ無之然レ共尙確證相求再ヒ上伸奉願上度何分夫迄ノ處御中止被成下置度ナリ

第二條

四二六

私儀大坂表ニ母有之旨申立候處夫覺太郎ニ於テ在ラサル旨申答候ニ付則テ詐言トノ事ニ候得共母ト申タルハ全ク先夫亡福井太三郎ノ母「タキ」ナル者ニシテ「タキ」始メ私シ事ヲ未ダ娘ト相呼候コ付私シモ等シク母々ト相呼ヒ居候亦女「ヨ子」ハ婆々々々ト呼ナシ居候事ハ同人口供面ニ於テ詳カナリ而シテ「タキ」ナル者糠問屋商業盛大ニ致シ居ルト詐言サナシタル旨ニ候得共同人盛大ニ糠問屋業致シタルハ數年前ノ事ニテ當時ニ在テハ同商業某ノ内ニ水使奉公ノ身分上ニ有之亦證人元次郎へ申ニ母へ申遣シ候ハ、早速出金致候候レ候杯申タル譯ニ決テ無亦母大坂ヨリ罷下リ候杯モ不申右ハ全ク同人ノ間間違且ツ反對ナル言語ヲ巧ミタルモノト想像罷在決テ詐言ヲ以テ元次郎方ノ吳服物ヲ取返タル儀ニハアラヌ其證據タルヤ神戶裁判々決ノ末池邊嘉介ニ同人申ニ大江夫婦意外ノ處分被申付斯ク迄不相成内ト存シ屢々出願取消シノ旨ニ付心痛スル甲斐ナク實ニ氣ノ毒千萬ノ至リニ候間右賣渡シタル當時贓品ナル吳服物ハ上ニヨリ御下々相成次第覺太郎へ相戻シ吳レ度御右嘉介ニ咄シ有之シト同人私へ傳言有之ニ於テ之レ欺キタルニ在スシテ買掛リタル之レ證據ノ證據タル所以ニシテ懲役五十日ニ當ルハ神戶裁判判決不服ノ第一ナリ

第三條

茲ニ明治十四年三月十七日比私居宅戸締ヲナシ所持ノ蒲團ヲ携へ妻鹿「ツ子」方へ移轉セシト疑言傳受テ候得共此全ク該蒲團ハ元來兵庫東出町平民川口「コウ」方ヨリ借受ケタル蒲團ナルニ亦覺太郎モ不在ノ折柄折節ヲ以テ可返ト心得持回リタルコトニシテ贓品ヲ隱匿

セル杯意外ノ否責此證據タルヤ右「コウ」ニシテ其編柄紺白ノ縦編依テ神戶裁判所判決不服ノ第一ナリ

第四條

姫田元次郎ヨリ買取タル吳服物ノ内黒縞子女帶等ハ有馬八兵衛ノ使ト偽リ明治十四年三月十四日全三月二十七日ニ桃木重兵衛ニ買入シタル旨否責ヲ請ルト雖モ決テ偽リタルコトアラヌ固ヨリ同人妻「ミ子」ハ從弟合ノコトニシテ亦桃木方へ入質致スル場合ニ於テハ是迄モ屢アレヒ決テ其都度無斷ニ打過キ申サス斷リ置キ右八兵衛ノ使ト申シ參リタルハ餘ノ義ニアラス同人ハ固ヨリ兵庫表ニモ永住罷在者ナルカ何タルカ其妻「ミ子」カ亦ハ自分ニ於テハ八兵衛ノ使ト云ヒナセハ同シ物品ヲ入質スルニ凡ソ金壹圓高ニ付金貳拾錢位ノ多員ヲ貸シ與へ候故有馬八兵衛ノ使ト申參リタル儀ニテ決テ相謀等ノ所業ニ出ルモノニナリ此證據タルヤ自分「ミ子」ト從弟ノ間柄ヲ以テス依テ神戶裁判判決不服ノ第一ナリ

第五條

私シ事故有之兼テ入檻被仰付居候處去ル五月十二日比豈圖テサリキ同檻罷在候楠原「ヌイ」ナル者殆ト益死仕候ヲ見出シ忽チ救助ノ手續キナシ途ニ蘇生ナシタル段其際手續キ書ヲ以テ上伸仕置キ候ニ今般神戶裁判判決ノ砌リ減等ナキハ之レ不服ノ第一ニ有之候依テ上告仕候間何卒深ク御推考アラセラレ神戶裁判判決破毀スルヲ慎テ奉上告候ナリ

明治十四年九月二十七日上告補正書ヲ差出シタリ其旨趣前文ト同一ナルヲ以テ茲ニ掲ケス

辨明

上告ノ旨趣ハ何レモ事實ノ異違ヲ云フモノナリ故ニ今原裁判所ノ簿冊ニ就キ之ヲ審理スルニ原裁判所ノ前ノ判文ニ明記セリ事實ノ理由ノ性質上不法ト認ムヘキ点アルコトナシ且ツ上告狀第五條ノコトノ如キハ自カラ主管ノ廳ノ關係ニシテ原裁判所カ汝シカ斷供ニ對シ爲メニ本罪ヲ輕減スヘキモノニアラスト

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月十一日神戸裁判所ニ於テ大江覺太郎外壹名ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノ也
第千三百七號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年八月十九日上告
明治十四年十一月二日判決

大阪府攝津國能勢郡切畑村平民

阪谷榮治

明治十四年八月
三十三年五月

明治十四年八月十日大阪裁判所ニ於テ右榮治ヘ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀檢事ノ公訴シタル詐欺取財事件審問ヲ遂ル處
檢事請求ノ要領被告ハ金融ノ爲メ明治十四年三月中高嶋定七ヨリ練粕ヲ買入ル、際證人ヲ要シ之ヲ姉婿田中彌三兵衛ヘ謀ルモ承諾ヲ得サルヲ以テ故ヲ買入約定書彌三兵衛ノ名下ヘ自己ノ實印ヲ捺捺シ定七ヲ欺瞞シ彌三兵衛ヲ買主ノ体ニ仕做シ定七ヲシテ充分ノ信用ヲ得セシメ練粕二十六本ヲ詐取セリ其證憑ハ被告任意ノ供述田中彌三兵衛及ヒ其妻

「ナツ」ノ陳述被害者ノ告訴石崎權兵衛ノ申述其他練粕買取人共ノ手續書ヲ以テ之ヲ證明スルニ足レリ依テ賊盜律詐欺取財條ニ照シ處斷アラント求ムト謂フニ在リ其方ニ於テハ高嶋定七ヨリ練粕買受ル際田中彌三兵衛ヲ證人ト爲サント欲シ同人妻即チ自分ノ姉「ナツ」ヘ相頼ミシ處保證致シ難キ旨ニ付其段定七ヘ申通シタリシニ定七ニ於テ然ラハ定七ノ名下ヘ自分ノ印影ヲ捺捺シ定七買主ノ体ニ仕做ス可シトノ事ニ付其意ニ隨ヒ定七ノ名下ヘ自分實印ヲ捺捺シ且代價ノ内金六拾壹圓五拾錢モ自分ヨリ兩度ニ相渡シ居ルモノナレハ決シテ詐欺シタル練粕ニ非ス田中彌三兵衛ハ賣主高嶋定七ノ指圖ニ任セ反リノ名前主ニシテ全ク自己ニ買受ケシ練粕ナリ而シテ糾問判事ノ面前ニ於テモ其情實ヲ具陳シタレモ更ニ採用セラレス却テ呵責セラレタルニ因リ止ヲ得ス事實相違ノ口供ニ摺印シタリト辨護セリ

右ニ據ルニ被告阪谷榮治ハ明治十四年二月十七日田中彌三兵衛ヲ買主ノ体ニ仕做シ高嶋定七ヲ欺キ練粕二十六本ヲ詐取シ贓金ノ内六拾壹圓五拾錢ヲ渡シ殘額百四拾五圓六錢ヲ費用シタルモノト確認スルヲ以テ詐欺取財律ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役十年情法ヲ酌量シ二等ヲ降減シ懲役五年ノ處明治十四年七月二日口供ヲ甘結シ三十日經過スルヲ以テ其日數十日ヲ扣除シ懲役四年ト三百五十五日申付ル

但贓金ハ資力限追徴ス

阪谷榮治ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年八月十九日日本院ヘ上告ノ要領左ノ如シ

右告人阪谷榮治上仰自分儀ハ從來農業相營ミシモノニ之レアリ候處本年則明治十四年二月ノ頃聊金圓入用ノ件有之タルニ付豫テ自分所有ノ不動産即チ田地一丁五反有之ヲ以テ之レヲ抵當トナシ金圓借入レ金融ヲ爲サント存シ大阪表へ立越シ曾テ入魂ナル堤小太郎ナルモノへ之レヲ謀リタル處小太郎曰當時金圓借入ル、事ハ容易ナラサレモ玆ニ鯨粕ノ商品若干有之其代價ハ追テ仕拂へハ當時交付シ置候テ宜シキ分有之ニ付之レヲ買得シ金融ヲナシテハ如何ヤト之レヲ申シ答へタルニヨリ然ラハ宜シク周旋致シ呉レヨト及頼談タル處其節初テ知ル片山清助及ヒ石崎權兵衛ノ兩人へ引合セ呉タルニ付前顯田地ヲ抵當ニシテ鯨粕賣買ノ談合シタル處清助ニ於テハ實地檢査シタル後ニ非サレハ賣買取組ム譯ニ至ラスト之レヲ申スニヨリ明治十四年二月十日頃右抵當トナサント欲スル處ノ田地實地檢査ノ爲メ清助權兵衛ノ兩人ヲ自分居村へ誘ヒ販リ而シテ掛リ戸長役場ニ同伴シ田地ノ在ルケ所ヲ示シ聞ケタル處大坂ヨリハ數里ヲ懸隔シタル場所ニテ便利惡シキ云々ヲ以テ賣買取組出來セス故ニ一ト先大坂表へ各立販リ其後明治十四年二月十三日頃清助申スニハ前顯賣買一件抵當品ナクモ相當ノ請人アレハ却テ田地ノ引當テヨリモ大丈夫ニ付其請人ヲ立ツル譯ニハ運ハサルヤト之レヲ申シ聞ケタルニヨリ自分姉婿ニ田中彌三兵衛ナル者アリ同人ニテハ如何ヤト相談シタル處夫レニテ十分ナリト申シ答へ候ニ付夫レヨリ清助權兵衛同伴ニテ彌三兵衛方へ立越シタル處生憎ヤ同人ハ當時流行病ニ罹リ打臥シ居リタルニ付自分實姉即チ彌三兵衛ノ妻「ツナ」へ清助權兵衛ノ面前ニテ自分儀今回鯨粕若干買取スル等ニ付追テ其代價皆濟迄彌三兵衛ニ於テ請人ニ立吳レ候事ハ叶ハサル

ヤト彌三兵衛へ相談シ呉レヨト頼談シタル處彌三兵衛ニ於テハ何分承諾出來サル旨之レヲ申答ヘタリ就テ之レヲ清助へ謀リタル處然ラハ如此ニシテ證書ヲ認メヨト下書當時紛失シタリ紛失ヲ示シタルニ付之レヲ閱スルニ賣主ハ高嶋定七買主ハ田中彌三兵衛ト有之ニ付賣主ニ姑「ツナ」ノ申ス如ク彌三兵衛ニ於テハ承諾出來サル旨申答へ居ルニ付同人彌三兵衛ヲ買主ニ致スハ不都合ニハ之ナキヤト申入レタル處夫レハ誰レノ名前ニ致シ置クトモ御互自分清助ニ面前ニテ結約シタレハ後日ニ至リ決シテ不都合ノアル謂レナク免モ角如此ニシテ認メ置ケヨト之レヲ申シタルニ付何氣ナク其下書ノ通り之レヲ認メ清助へ交付シ賣買約定取結ヒ明治十四年二月十五日ニ取引致ス約定ニテ出阪シ片山清助方へ到リ約定ノ通り鯨粕二十六本受取リタリ然シテ其代價ノ内金六拾壹圓余ヲ自分ヨリ仕拂ヒ受取書ヲ領收シノレハ純良ノ賣買ニテ毫モ詐取ノ念慮ヲ懷キタルモノニ非ス最モ買主ヲ田中彌三兵衛名前ニ致シタルハ聊不都合アルニ似タレモ個ハ清助ニ於テ承諾ノ上之レヲ認書シタルモノアレハ人民相互ノ契約上ヨリ成立シモノニシテ此約定タル無効タルト雖モ詐欺上ヨリ成立シモノニ非ラス抑詐欺取財ノ所爲タル千緒万般之レアリ舉テ言ハサレモ一言ニシテ之レヲ竭ス時ハ物ヲ詐欺シテ返濟ノ意ナク及ヒ代價ヲ支償スルノ意ナキモノ或ハ財産等ヲ漏脱スルモノ之レヲ名ケテ詐欺取財トシ法理ニ違背スルヲ以テ處刑アルモノナレハ假令事理ニ於テ爲スヲ得ヘカテサルノ契約ヲナスモ返還支償スルノ意アルモノハ決シテ詐欺取財ト言ヘカテサルナリ夫レ上告人ニ於テ爲スヘカテサル契約ヲナシタルハ聊不長ニ似タルヲ以テ其責メニ於テハ免ル、能ハサレモ之レカ違約スルトモ民事ノ

法庭ニテ權利ヲ爭フニ止マルモノニシテ法術ニ在テ審理ヲ受クルハ其道ヲ異ニシタルモノ、如シ而シテ本件名義田中彌三兵衛ト之レアルト雖モ契約上成立シモノナルコト證スルハ該代價ノ内金自分ヨリ之レヲ仕拂ヒ自分ノ名義ニシテ之レヲ受取書ヲ授受シタルハ所謂相方契約上ヨリ他人ノ名義ヲ假リタルハ瞭々ト加ノ自分ニ於テハ其代價延滞セシマテニテ毫モ詐取ノ念慮ナケレハ民事ノ裁判ヲ仰クモノトス依之大阪裁判所ノ判決ヲ破毀シ更ニ公明ナル御裁決アラントテ奉切願候也

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ上告人阪谷榮治カ明治十四年六月廿三日糺問掛ニ對シ爲シタル口供ニ彌三兵衛ニ保證人ニ相立吳候様頼入レ候處「ツナ」ハ承諾不致ニ付云々右事實權兵衛清助ニ申明シ候ハ、忽破談相成候ハ必然ト存候ヨリ彌三兵衛モ承諾セシ体ニ仕做シ清助ニ賣買ノ儀談判ニ及ヒ先ツ貳拾貳代金百拾八圓四拾錢ニテ買取ノ定約行届キ今般片山清助ヨリ提供致シ候明治十四年二月十三日付ノ約定書ヲ片山清助カ下書致シ其證書ハ自分名前無之田中彌三兵衛ヲ買主ニ爲シアリ其儀ハ不當ナリト存タレヒ之レヲ改メサセテハ却テ清助カ疑ヲ生ス可シト存候等不申聞彌三兵衛名下ニハ自分買印ヲ押捺致清助ニ相渡立別云々トアルヲ見レハ片山清助ハ彌三兵衛カ保證人トナルヲ信スルニ因リ故ヲラニ彌三兵衛ヲ買主ト爲シ其名下ノ印ハ彌三兵衛ノ實印ナリト信認シ賣買定約ヲ爲シタル者ナリ然ハ則榮治ハ彌三兵衛ヲ保證人ト詐稱シ其名下ニ偽印ヲ押シテ練粕ヲ買受ケ直ニ之ヲ他人ニ賣却シ其代金ヲ費用シタル者ニシテ其清助ト協議ノ上彌三

兵衛名下ニ自己ノ印ヲ押捺セリトノ申立ハ信認スヘキ證憑アルコトナシ故ニ原裁判所ニ於テ詐欺取財律ニ依リ處斷シタルハ不當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十日大阪裁判所ニ於テ阪谷榮治ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第千三百八號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十四年八月一日上告
明治十四年十一月四日判決

東京府小石川區下富阪町拾一番

地平民

遠

宮 誠 一

明治十四年七月
三十九年九ヶ月

明治十四年七月廿三日東京裁判所ニ於テ右誠一ニ左ノ裁判ヲ言渡タリ

其方儀詐欺取財ノ科ニ依リ度々處刑受ル身分猶又今般首犯關義信及ヒ連級人山本新三母子ノ供狀被害者江川庄吉其他ノ者ノ陳述ニ依リ其事實ヲ推測スレハ即チ關義信ノ造意ニ隨ヒ或ハ一己ニテ拂下ケ地讓渡ヲ名トシ江川庄吉若松真八等ヲ欺キ合金百十四圓余ヲ詐取シタル者ト認定ス因テ右科詐欺取財條ニ依リ首從ノ罪并發スルヲ以テ一等ヲ減シ懲役五年申付ル

遠宮誠一ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年八月一日大審院ニ上告狀ヲ差出シ尙

又上告補正書ヲ差出タリ其旨趣左ノ如シ

明治十三年十二月月中旬自分儀像ヲ知ル者關義信事申聞ルニハ從弟靜岡縣士族木村義永事明母木村「ヒデ」ヨリ委任ヲ受同年十月中東京府へ義信ヨリ出願致シ置キタルニ付右官地御拂下ケノ上ハ讓受ル者周旋致吳ル様右木村「ヒデ」委任狀ヲ表シ義信ヨリ自分へ依頼シタル際義キニ小林平治ナル者ヨリ自分へ申聞ニハ拂下ケ地讓受望ノ者有之由申スニ付該事ヲ平治へ相示シ尙同人示指ヲ以白石鐘太郎ナル者へ自分ヨリ面語致ス砌義信事ハ從來ノ知己ニモナク特ニ木村「ヒデ」ナル者ハ素ヨリ知ラサル者ニ付情實確跡タルハ自分證明シガタキ旨申述ル處鐘太郎申聞ニハ先年巡查奉職中木村義永及ヒ關義信ハ同署ニ奉職加之義永戰死ノ事故ハ承得ノ由ヲ以テ鐘太郎儀該事ヲ保証スル添書ヲ自分へ相附シ同人傳演ヲ以テ近藤右橋ナル者へ自分ヨリ義信依頼ノ事件相談スル際ニ千葉縣下江川庄吉ナル者ヨリ拂下ケ地讓受ルノ件ハ右橋儀擔當ノ趣ニ申聞該談ヲ幸ヒノ機會トシ同人儀庄吉俱ニ義信へ及直談故サテニ二名ノ者東京府へ出頭義信ヨリ官地拂下ケ願ノ有無ヲ伺ヒ百般義信等ト協議ノ上地所讓受ノ結約致スニ付自分儀周旋ノ端ヲ以立合吳ル様前三名ノ者ヨリ依順ニ因テ同年十二月廿日契約ノ席へ立合既ニ約定證取替スル際同人共依頼ニ應シ自分立合ノ證印ヲ捺シ尙約定トシ金五十圓庄吉ヨリ義信受取内金五圓ハ義信ヨリ謝儀トシ右橋へ相與ヒ同拾貳圓ハ尙義信ヨリ謝儀トシテ自分儀受其後本年一月上旬義信儀必要金ニ差岡庄吉へ金融依頼致シ度ト雖モ足痛ニテ出行成シガタクニ付自分儀代理ニテ該談致シ

吳ル様同人ヨリ懇請ニ因テ則同人委任狀並庄吉へ宛ル書簡ヲ以自分儀千葉縣下へ到リ右橋ヲ尋訪同人取扱ヲ以義信要スル金拾圓庄吉ヨリ調達ヲ受内金壹圓ハ豫テ同人申聞ニ付右橋へ謝儀トシテ遣シ殘金九圓ノ内壹圓七拾錢餘ハ尙同人申スニ任セ往還旅費ニ仕拂同月九日殘金七圓余ヲ持歸同人へ相渡内金三圓ハ日當料トシテ自分儀受領シ猶又同月下旬前同斷ナル事由ニテ義信依頼ニ因リ同人證ヲ以テ金五圓庄吉ヨリ受取タル次第ニテ百般共義信ノ所爲實際ニ涉ル事ト相心得候處本年四月廿六日東京裁判所糾問御係太田殿ヨリ右義信ニ關係スル事情御尋問之際ニ至リ同人儀木村「ヒデ」名義ヲ以テ官地拂下ケ願ヲ表シ庄吉ヲ詐欺シタル事ハ自分儀初テ承知仕ル次第ニテ渠詐欺ノ造意ハ不及申協意等ノ所意ハ自分儀決テ無之譯ハ現ニ義信事十三年十二月上旬原因地所讓受ル者ヲ自分へ依頼致スノ際木村「ヒデ」ノ委任狀其他右ニ關スル要事ニ右「ヒデ」ヨリ送致シタル郵便ノ書等ヲ以テ自分へ相示シタルニ付其眞實ニ「ヒデ」事ハ義信親戚ニシテ既ニ官地拂下ケヲ委任セシ事ト想像シ自分儀義信ノ虛妄ヲ信用仕ル次第ニテ自分ニ於テ詐欺ノ情ハ決テ存セサル旨申供仕既ニ糾問御係ニ於テ口供摺印濟タル後裁判官於テモ口供ノ際糾問御係へ申供スル通相違ナキ口供摺印被命候次第然ルニ宣告書ヲ拜スルニ關義信ノ造意ニ隨ヒ江川庄吉ヨリ金圓詐欺シタル旨御認定ノ御處分相成ルハ乍恐事實至當ナラサル御裁判ト相心得承服難仕ニ付何卒公明ノ御審判只管奉仰候

山本新三並母「ナ」儀關係シタル被害入若松眞八外壹名へ係ル事件ハ東京裁判所糾問御係香川殿御尋問ノ際自分儀詳細申立ル通本年一月初旬右新三實兄山本精事明治十年中戰

死シタル由零ホ承ルニ付自分儀新三方へ相訪ヒ同人母「ナミ」へ長男精ノ戰死ノ情態搜問
 致シ新三母子ヲ誘惑シ既ニ戰死シタル精存生中官地拂下ケ願濟タルヲ承知有リナガラ該
 意ヲ存セサル体ニテ自分儀若松眞八其他一名ヲ欺キ官地拂下ケテ一己ノ名トシ金圓詐欺
 シタルハ素ヨリ自分ノ遺意ニ生シタルニ相違ナキ事ニテ詐欺取財之科ハ最モ免カレサル
 事ト雖モ右賍金ノ員數相違有之了解難仕該事情ハ本年一月廿五日若松眞八及ヒ浦生誠四
 郎等新三母「ナミ」ヲ立合ヒ前條ノ地所拂下ケ願ヲ契約ノ際約定トシテ金三拾圓證書引替
 ニ眞八ヨリ該金額自分受取同月廿七日該件ニ周旋成シタル中山吉道ナル者ヨリ金八圓受
 取自分ヨリ既ニ八圓金ノ受取證ハ相渡シ合金三拾八圓ハ受取タルニ確正ニテ其他若干ノ
 金圓眞八ヨリ吉道へ渡スト雖モ渠レ兩人ノ間ニ談合候事ニシテ前書ノ金三拾八圓ノ外自
 分儀眞八並誠四郎ヨリ直ニ受取ル金圓會テ無之然ルニ宣告書ニ御著シ有之金額ハ前書ノ
 關義信へ關係スル金圓トモ合金百拾四圓ナルハ金額相違致スニ付此段上申仕候間何卒御
 裁斷ノ程奉懇願候

補正 明治十四年
 八月五日

自分儀山本新三並眞八「ナミ」等ヲ誘惑シ地所讓渡チ名トシテ若松眞八浦生誠四郎ヨリ詐取
 シタル金圓之員數右ハ宣告書ニ御記載ノ金額ト差異ナル譯ハ豫テ上申仕置通本年一月廿
 五日約定ノ際金三拾圓眞八ヨリ受取其外同月廿七日浦生誠四郎立合タル席ニテ謝儀トシ
 テ中山吉道ヨリ自分儀金八圓受取候事ニテ尤其初吉道申聞ルニハ周旋料トシテ四名ノ者
 へ金貳拾圓誠四郎ヨリ渡シタルニ付該金二拾圓ノ受取證自分ヨリ差山六様申スニ任セ該

證相認メ候上熟考候處右周旋料トシテ出ル金貳拾圓ハ自分ヨリ眞八誠四郎等へ請求シ
 タルニ無之吉道ヨリ右二名ノ者へ示談上ニテ渠等ノ間ニ取極ムル金圓ノ分該受取證自分
 ニ於テ差出ス理由無之ニ付右金貳拾圓ノ受取證ニ自分ノ調印相斷リ現ニ受取タル金八圓
 ノ受取證吉道へ相渡シ既ニ上申仕通合金三拾八圓ノ外自分儀眞八誠四郎ヨリ受掌シタル
 金圓會テ無之然ルニ糾問御係ニ於テ事件御尋問ノ際眞八外一名ヨリ前條ノ金貳拾圓吉道
 へ渡シタル分ハ自分ノ受取證有之趣ニ申立タル哉ト心得候得共自分於テハ金貳拾圓ノ受
 取證へ調印シタルト決テ無之候得共裁判御係官ニ於テ口供摺印ノ際粗漏ニ涉リ右眞八等
 ヨリ自分ヲ始トシテ吉道並周旋人共迄へ差出タル惣金ノ員數金四拾九圓余ト心得偶然口
 供ニ摺印シタル次第ニテ事實詐取シタルハ金三拾八圓ノ外受取タル金圓ハ會テ無之特ニ
 金貳拾圓ノ受取證差出シタル事ハ無之ニ付該證驗並中山吉道等ヲ御取札相成ル上ハ明解
 仕ル儀ニ御座候然ル上ハ前條申立ル通り眞八誠四郎ヨリ吉道へ示談ノ上渡タル金圓迄自
 分儀負擔致ス條理無之事ニテ全ク金拾壹圓ノ員數相違相成ニ付何卒明瞭タル御裁斷之程
 伏テ奉仰候

關義信ニ關係シタル事情ハ明細書ニ豫テ具仕ル通り同人儀ハ木村「ヒデ」親戚之間ヨリ
 事實官地拂下ケテ擔當セシ事ト相心得自分儀畢竟周旋致シ剩へ金圓受取タル際ニ立合調
 印致シ謝金等賞受タル事ニシテ詐欺ノ遺意ニ同意シタル心構ハ決テ無之該證跡ナルハ義
 信ヨリ豫テ取置タル證據ナル確驗有之右ハ先般糾問御係官太田殿へ申立置候次第ニ御座
 候其余ノ頗末ハ趣意明細書ニ言上仕ル通り御座候間何卒當ノ御裁斷ノ程是亦奉願上候

同明治十四年八月卅日

豫テ奉呈之上告趣意明細書同補正書ニ陳上仕ル通關義信事江川庄吉ヨリ金圓詐取シタル事件自分義關係ト雖同人詐欺ノ情ニ供出無之顛末及ヒ該證有之旨既ニ建白仕尙ヲ熟考候處追々支證有之ニ付右ノ譯特ニ若松眞八等ヨリ相係タル自分儲金圓詐取シタル員數相違ノ證查トモ左ニ奉申供候

御言渡ノ趣旨ハ義信ノ遺意ニ隨ヒ詐取シタル旨御認定ノ御處分ナレモ自分儀糺問庭ニ於テ申立ル通義信事木村「ヒデ」親戚ニ因リ地所拂下ルヲ委任受タル事ハ眞實ト思想スル已ミナラス現ニ右「ヒデ」ヨリ出シタル證據ノ由ニテ義信ヨリ自分へ渡シタル各ノ捺印シタル證書加之江川庄吉代理近藤右禰ヨリ自分へ義信事ニ付遞送シタル郵信狀等ヲ以テ證查ニ揚ルトキハ自分儀義信詐欺ノ情ニ協意スルノ有無證明仕ル事ニ付爰キニ該事由糺問御係官へ申供候處公判御係官ニ於テ證據密細ノ御調モ無之シテ右定ノ御處分相成ルハ何ニモ不當ノ御裁判ト相心得候問何卒前條ノ支證御調査被成下度此段奉申上候
山本新三ノ名義ニ因リ地所讓渡スチ名トシテ若松眞八等ヨリ自分儀詐取シタル金圓ハ先キニ上申仕ル通合金三拾八圓受取タルハ事實ニテ其受取タル金圓曾テ無之因テ全額金拾壹圓余相違ニ付此事由モ明瞭相成ル様何卒御調査被成下度此段モ奉申上候
同明治十四年九月五日

第一條ノ證ハ爰キニ趣意明細書ニ詳ニ申供仕ル通關義信事ハ自分從來之知己ニ非ラサルニ因リ事實搜索ノ上地所讓受クノ約ヲ爲スヘキ旨云々自分ヨリ白石鐘太郎へ注意致スニ

依リ同人ヨリ江川庄吉代理近藤右禰へ該趣報告ナシタルヨリ右禰ヨリ自分方へ回報スル郵信ノ證如此

第一條證據ノ寫

東京 關氏ノ儀ニ付御注意之趣云々白石鐘
郵 小石川區下富坂町 太郎ヨリ委曲承知仕猶御面語ニ讓候
十一番地 千葉縣下千葉町
便 道場町ニテ 右申上度如此候也
遠宮成一宛 近藤右禰
狀 要信 十三年十二月 日

第二條証ハ當一月中義信事江川庄吉へ金融談判ヲ自分へ依頼ノ際金調ノ爲メ親戚木村「ヒデ」ヨリ差送リタル由ニシテ同人捺印ノ界紙ニ保証等各ノ連署ヲシタル印紙ヲ確證ニナシ金融代理ヲ自分へ義信ヨリ頼タルニ付右「ヒデ」ノ證查ト想ヒタル證據如此

第二條ノ證據寫證券界紙
印々
一金

年 月 日 保 證 伊 佐 貞 太 郎 印
木 村 ヒ デ 印
關 義 信 印

第三條山本新三事件ニ付若松眞八外一名ヨリ周旋料トシテ出シタル由ニテ中山吉道ヨリ金八圓自分へ渡シタル際自分ヨリ受取ヲ爲ス該證如此

受取ノ證

印

一金八圓也

右ハ山本新三名儀ヲ以地所讓受ケ事件ニ付周旋料トシテ若松眞八股浦生誠四郎股ヨリ前書ノ金員相與ラレ候分貴股ヨリ御渡被成正ニ受掌候也

十四年一月廿八日

遠宮成一印

中山吉道殿

前書ノ如證跡相違無之ニ付何卒御調査被成下度只管奉請仰候

辨明

第一條

上告人ニ於テ關義信カ詐欺取財ノ造意ニ同意シ共ニ罪ヲ犯シタル覺ナキ旨申立ルト雖モ關義信カ明治十四年七月十八日東京裁判所ニ於テ爲シタル口供ヲ閱スルニ左ノ如シ

一自分僥造意ニテ遠宮誠一伊佐貞太郎ト申合木村「ヒデ」ヲ自己ノ叔母ト詐稱シ同人名義ニテ官有地拂下ケ相願其讓渡シテ名トシ江川庄吉ヨリ金圓欺取リタル手續ハ曾テ御糺彈ノ節ニ申立タル通り相違無之候尤該金五十圓ハ自分直チニ庄吉ヨリ受取リ拾圓ハ誠一ヲ千葉町ニ差遣シ借受ケサセ候得共五圓ハ誠一儀一己ニ受取リ候趣追テ庄吉ヨリ承リ候得共右五圓ハ壹錢モ自分ハ受取リ不申候尤モ前文拾圓借受ケ候際拾五圓程モ可

用立ナレトモ當時都合ニ依リ拾圓用立候得共五圓ハ追テ可相渡旨庄吉ヨリ相答ヘタル由誠一ヨリ承リ候儀ニ有之候事

一江川庄吉方ニ相渡シタル證書ハ誠一自筆ニテ素ヨリ木村「ヒデ」ヲ自分叔母ト詐稱スル儀ハ誠一同謀ニ有之候事

右供狀ハ告訴人其他關係人ノ陳述ニ吻合シ上告人遠宮誠一カ關義信ト共ニ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルト斷定スル充分ノ證據ナリトス故ニ東京裁判所カ關義信ノ造意ニ隨ヒ共ニ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルトノ裁判ハ不適當ニ非ストス

第二條

又詐欺取財ノ賍金百拾四圓余ナリトノ判定ハ金拾壹圓余超過ニテ全ク計算ヲ誤ル裁判ナル旨申立ルト雖モ上告人遠宮誠一カ明治十四年七月十九日東京裁判所ニ於テ爲シタル口供ヲ摘錄スルニ左ノ如シ

一江川庄吉ヨリ關義信ノ借受ケタル金五拾圓ハ自分證人ニ立證用(原ノ)差入拾圓ハ自分代理トナリ千葉町ニ至リ義信名義ノ證書差入借受ケ五圓ハ再度自分儀同所ニ至リ借受ケタル儀ニテ都合六拾五圓ニ有之候若松眞八外壹人ヨリ受取リタル金ハ再度ニ五拾圓ナレトモ内六拾貳錢ハ同人共酒食代ニ差引候間四拾九圓三拾八錢ニ有之候事

右供狀ハ上告人遠宮誠一カ自ラ賍金ノ計算ヲ詳細申立タルモノニシテ且告訴人ニ於テ各其陳述スル處ノ金額ニ符合スルヲ觀レハ上告人カ賍金拾壹圓余超過シタル裁判ナリトノ申分ハ相立サルモノトス故ニ東京裁判所カ賍金百拾四圓余ト判定シ詐欺取財律ニ依リ處

斷シタルハ不當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年七月廿五日東京裁判所ニ於テ遠宮誠一ニ言渡シタル裁判ヲ被毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スル者也
第一千三百九號

○判文(賭博再犯ノ件) 明治十四年九月廿一日上告
明治十四年十一月四日判決

埼玉縣武藏國南埼玉郡船渡村平
民善兵衛長男

石渡 佐平 次

明治十四年九月
二十八年二月

右佐平次ニ對シ明治十四年九月十五日熊谷裁判所浦和支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀儀キニ賭博ノ科ニ由リ處刑受ケル身分明治十四年八月三日居村無量院境内ニ於テ吉岡喜惣次外數名ト金錢ヲ賭ケ博戯ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依懲役八十日再犯ニ係ルヲ以名例律再犯加等罪例條ニ照ラシ本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役九十日可申付處捕獲之際現場ヲ逃走スルモ追悔自首スルヲ以テ改定律例第五十九條ニ照ラシ聞捕自首ト同ク論シ一等ヲ減シ懲役八十日申付ル

埼玉縣六等警部加治良ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二十一日附キ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

該犯タルヤ明治十二年九月中一旦賭博ノ罪ヲ犯シ手配ノ際逃走後悔悟自首セシヲ以テ聞捕自首ト同シク論シ一等ヲ減シ懲役七十日ニ處セラレタルヲアリ然リ名例律犯罪自首條例第六十六條ニ凡ソ罪ヲ首シ減免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯ス者ハ減免スルヲ聽サス下之レニ因テ觀ルモ本犯ノ如キ則チ同罪ヲ再首スル者ナレハ再犯ノ一等ヲ加ヘ減等ヲ與ヘスシテ懲役九十日ニ處スルヲ以テ法理ニ適スル裁判トコソ言フ可ケレ右ノ理由ナルヲ以テ該裁判ノ被毀ヲ求ム

辨明

石渡佐平次ハ嚮ニ賭博ノ罪ヲ犯シ捕獲ノ際現場ヲ逃走シ追悔自首シタルヲ以テ聞捕自首ト同ク論シ本罪懲役八十日ヨリ一等ヲ減シ懲役七十日ノ處斷ヲ受ケル者ニ係ルヲ以テ再ヒ聞捕自首スト雖モ改定律例第六十六條凡罪ヲ首シ減免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯ス者ハ減免スルヲ聽サストアルニ照シ減等ヲ與フヘキモノニ非ス依テ雜犯律賭博條ニ依リ再犯ナルヲ以テ本罪ニ一等ヲ加ヘ處斷スヘキモノトス然ルチ原裁判所ノ裁判茲ニ出テサリシハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年九月十五日熊谷裁判所浦和支廳ニ於テ石渡佐平次ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

石渡 佐平 次

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ雜犯律賭博條及名例律再犯加等罪例ニ照シ一等ヲ加ヘ

懲役九十日
第三百拾號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年六月八日上告
明治十四年十一月五日判決

山梨縣甲斐國南都留郡谷村平民
山本太兵衛四男

山本梅吉

同縣同國同郡同村平民小林清助
長男

長男

小林清右衛門

明治十四年五月
滿三十年

同縣同國同郡同村平民

花田平兵衛

明治十四年五月
滿三十三年

右梅吉外二名ニ明治十四年五月三十日靜岡裁判所管内谷村區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡
シタリ

其方儀父太兵衛ノ實印ヲ偽造シ同人ヨリ高部周藏宛名金百圓ノ借用證書ヲ詐爲シ小林清

右衛門花田平兵衛ノ同人ニハ父ノ實印ヲ盜捺セシ趣ニ申僞リ同人等ヲシテ右周藏ヨリ金

圓詐取ナサシムル右科一ノ重キ詐欺取財條ニ依リ賍金七拾圓以上懲役二年情ヲ量リ一等

ヲ減シ懲役一年半自首シテ賍徵セサルヲ以テ二等ヲ減シ懲役百日申付ル

小林清右衛門

花田平兵衛

其方共儀山本太兵衛ヨリ高部周藏宛名金百圓ノ借用證書ハ山本梅吉ノ詐爲セシコトヲ知テ

同人ノ依頼ニ應シ詐證書ニ加印ノ上右周藏ヲ欺キ金圓借受ル科改定律例第二百四十六條

ニ依リ不應爲重ニ問ヒ懲役七十日梅吉ノ從トナシ一等ヲ減シ懲役六十日申付ル

山梨縣九等警部金子家英於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年六月八日付ヲ以テ司法卿ヲ經

由シ本院詰檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

抑梅吉ハ私印ヲ偽造シ金員ヲ詐取セントシタルモ未タ財ヲ得サル者ナレハ賊盜律詐僞取

財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ未タ財ヲ得サルヲ以テ懲役四十日ノ處名例律二罪俱發以重

論條ニ照シ一ノ重キ詐僞律僞造私印條ニ依リ懲役百日猶自首スルヲ以テ罪ヲ免シ清右衛

門ハ梅吉カ詐僞ノ情ヲ知ルノミナラス梅吉ヲ欺キ金百圓ノ借用證書ヲ詐取シ後平兵衛ト

共謀シ高部周藏ヨリ該證券ヲ以テ金七拾壹圓ヲ借受ケ各自ニ之ヲ費用シナカラ尙辨償ノ

義務ヲ免レンコトヲ圖リタル者ナレハ賊盜律詐僞取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ首從ヲ分

テ清右衛門ヲ首トナシ平兵衛ヲ從トナシ賍金七拾壹圓ナルヲ以テ清右衛門ハ懲役二年平

兵衛ハ懲役一年半ニ處スルヲ正當ノ法律トス然ルヲ谷村區裁判所ハ梅吉ヲ詐欺取財條ニ

四四五

依テ論シ懲役二年半清右衛門平兵衛ノ兩人ハ詐僞文書ヲ以テ論シ不應爲重ニ問ヒ一等ヲ減シ懲役六十日ト處斷シタルハ裁判法律ニ違フ者トス

辨明

被告山本梅吉ハ金百圓借用ノ證書ヲ僞造シ小林清右衛門花田平兵衛ヲシテ高部屋造ヨリ金七拾圓余詐取セシムルモノナレハ未ダ金圓ハ受取ラサルモ罪罪ヲ科スヘク其僞造証書ノ罪ハ輕キヲ以テ除棄シ賊盜律詐欺取財條及ヒ名例律犯罪自首條自首シテ罪徵スヘカラサルハ二等ヲ減ストアルニ照依スヘキモノナレハ原裁判所ノ裁判其當ヲ得タルモノトス而テ清右衛門平兵衛ハ詐欺取財ノ從ヲ以テ論シ懲役二年ヨリ一等ヲ減シ懲役一年半ニ處スヘキモノトス然ルニ原裁判玆ニ出テ僞造證書ノ從トナシ懲役六十日ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月三十日靜岡裁判所管内谷村區裁判所ニ於テ山本梅吉ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシト雖モ小林清右衛門外一名ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

小林 清 右衛門

花田 平 兵衛

右ハ賊盜律詐欺條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓金七拾圓余懲役貳年ノ處從タルヲ以テ一等ヲ減シ

各懲役壹年半

第一千三百拾壹號

○判文(賭博ノ件)明治十四年十月五日上告
明治十四年十一月五日判決

滋賀縣近江國甲賀郡水口村寄留
平民

杉田 音次郎

明治十四年八月

右音次郎ニ對シ明治十四年九月三十日京都裁判所大津支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀山上房吉外二名ト財物ヲ賭シ博戯ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十申付ル

但房吉ヨリ受取置ク金三拾五圓ノ證書一通ハ黨類一同ノ供述ニ依リ右賭博上ニ成リ立ツルモノト信認スルニ付博具共併テ取揚ル

杉田音次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月五日附テ以テ大審院ニ上告爲シタル要旨左ノ如シ

凡賭博犯罪ナルモノハ其賭博ノ現所ニ於テ捕獲カ將タ亦其賭博現所ニ於テ犯人ノ取扱シ賭具財物ヲ獲取スル等ヲ除クノ外(賭具財物ヲ獲取スルモ現所ニ非モ)其罪ヲ問擬スヘキモノニ非ス蓋シ大津支廳檢察掛リニ博具ヲ提出スルモ素ヨリ是ヲ以テ亦其罪ヲ問フヘキモノニ非サルハ理ノ當ニ然ルヘキナリ其理何トナレハ假令非現行ニ係ルモノナリモ博具ナシシテ賭博ヲナシ得サルモノナレハナリ是レ賭博現所ニ非ス十有五六月經タルノ今月ニ至リ提

出シタリトテ其罪ヲ斷スヘキモノトセハ非現行モ亦タ其罪ヲ論セサルヲ得ス且伺指令ハ一定ノ法律ニ非サレハ貴院明治十一年一月廿八日ノ伺司法省御指令ニヨルモ賭博犯ノ非現行ハ其罪ヲ論スヘキニ非サルハ明瞭ナルニ原裁判所ノ裁判玆ニ出ス漫然雜犯律賭博條ニ仍リ杖八十并ニ真正ノ證文ヲ取上ルトノ裁判セラレシハ未審問ヲ明瞭ニセサル疎漏ノ裁判ト思量ス依テ何卒同裁判ヲ破毀シ更ニ公明至當ノ御裁判奉仰候

辨明

凡賭博犯罪ハ見在發覺ノ人賭具財物有ルヲ獲ルニ據リ坐スルニ止ルモノナリ今玆ニ上告人杉田音次郎カ賭博爲シタルモ現行犯ニアラサレハ其罪ヲ問ヘキモノニアラス然ルテ原裁判所ニ於テ雜犯律賭博條ニ依リ杖八十ノ言渡シヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年九月三十日京都裁判所大津支廳ニ於テ杉田音次郎ヘ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

杉田音次郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ

無罪

但シ提出スル博具ハ應禁物ナルニ付取上ル

第一千三百拾貳號

○判文(賭博ノ件)明治十四年十月五日上告
明治十四年十一月五日判決

滋賀縣近江國蒲生郡中山村平民

岡本利兵衛

明治十四年八月二十九日四月

右利兵衛ニ對シ明治十四年九月三十日京都裁判所大津支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀杉田音次郎山上房吉等ト財物ヲ賭シ博戲ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依テ杖八十申付ル

岡本利兵衛ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月三日附ヲ以テ大審院ニ上告爲シタル要旨左ノ如シ

凡賭博犯罪ナル者ハ其賭博ノ現所ニ於テ捕獲カ將タ亦タ其賭博現所ニ於テ犯人ノ取扱ヒシ賭具財物ヲ獲取スル等ヲ除クノ外(賭具財物ヲ獲取スルモ現所)其罪ヲ問擬スヘキモノニアラス蓋シ伺指令ハ一定ノ法律ニ非サレハ貴院明治十一年一月廿八日ノ伺司法省御指令ニヨルモ賭博犯ノ非現行ハ其罪ヲ論スヘキニ非サルハ明瞭ナルニ原裁判所ノ裁判爰ニ出ス漫然雜犯律賭博條ニヨリ杖八十ノ裁判セラレシハ未審問ヲ明瞭ニセサル疎漏ノ裁判ト思量ス依テ何卒同裁判ヲ破毀シ更ニ公明至當ノ御裁斷奉仰候也

辨明

凡賭博犯罪ハ見在發覺ノ人賭具財物有ルヲ獲ルニ據リ坐スルニ止ルモノナリ今玆ニ上告人岡本利兵衛カ賭博爲シタルモ現行犯ニアラサレハ其罪ヲ問ヘキモノニアラス然ルテ原裁判所ニ於テ雜犯律賭博條ニ依リ杖八十ノ言渡シヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年九月三十日京都裁判所大津支廳ニ於テ岡本利兵衛ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

岡本利兵衛

右ハ前ニ辨明スル如シナルニ因リ

無罪

第一千三百拾三號

○判文(賭博ノ件) 明治十四年十月五日上告
明治十四年十一月五日判決

滋賀縣近江國蒲生郡中山村平民

高岡要藏

明治十四年八月二十八日

右要藏ニ對シ明治十四年九月三十日京都裁判所大津支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀杉田音次郎山上房吉等ト財物ヲ賭シ博藏ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十申付

高岡要藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月三日附テ以テ大審院ニ上告爲シタル要旨左ノ如シ
凡賭博犯罪ナル者ハ其賭博ノ現所ニ於テノ捕獲カ將タ亦タ其賭博現所ニ於テ犯人ノ取扱ヒシ賭具財物ヲ獲取スル等ヲ除クノ外(賭具財物ヲ獲取スルモ現所)其罪ヲ問擬スヘキモ

ニ出ス漫然雜犯律賭博條ニ依リ杖八十ノ裁判セラレシハ未審問ヲ明瞭ニセサル疎漏ノ裁判ト思量テ依テ何卒同裁判ヲ破毀シ更ニ公明至當ノ御裁斷奉仰候也

辨明

凡賭博犯罪ハ其在發覺ノ人賭具財物有ルヲ據リ坐スルニ止ルモノナリ今茲ニ上告人高岡要藏カ賭博爲シタルモ現行犯ニアラサルハ其罪ヲ問ヘキモノニアラス然ルチ原裁判所ニ於テ雜犯律賭博條ニ依リ杖八十ノ言渡シヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年九月三十日京都裁判所大津支廳ニ於テ高岡要藏ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

無罪

第一千三百拾四號

○判文(賭博ノ件) 明治十四年七月八日上告
明治十四年十一月七日判決

滋賀縣近江國蒲生郡池田村平民

淺野彌惣平

無罪

第一千三百拾四號

○判文(賭博ノ件) 明治十四年七月八日上告
明治十四年十一月七日判決

滋賀縣近江國蒲生郡池田村平民

淺野彌惣平

右彌惣平ニ明治十四年六月廿九日京都裁判所大津支廳ニ於テ左ノ裁判言渡ヲ爲シタリ

明治十四年六月二十九日

此方儀兄九兵衛妻「コト」カ從父姉淺野「テル」ト爭論スルニ基ヒシ從父兄淺野安平從父弟同安五郎等ヨリ毆傷セラル、モ自己ヨリ彼レ等ヲ毆打セシナカラサル旨申立ルト雖モ醫師本莊脩造ノ診察並ニ淺野小四郎橋本彌四郎等ノ供狀ヲ參照事實ヲ推測シ互ニ相闘毆セシ者ト認定スルヲ以テ右犯罪ノ內從父兄安平ヲ毆打スル律闘毆律毆三等親以下尊長條ニ依リ懲役一年ノ處情ヲ量テ本罪五等ヲ減シ杖六十申付ル

淺野彌惣平ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年七月八日ヲ以テ本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

一 宣告上ニハ雙方相毆打セシモノト認定セラレシモ此レ少シク不盡ニ瞞ル廉アルト推知セリ抑モ該亂毆ノ起因タル最初自分ハ現場ニ至ラサルヲ以テ之ヲ知ル能ハスト雖モ自分カ養子淺野多治郎カ「テル」及ヒ安五郎ノ三名ニ強毆セラレタルヲ聞知シ直ニ斷付ケ且視セシニ「コト」並ニ九藏多治郎等ヲ右三名ノ者共毆打セシニ依リ之ヲ救ハントセシモ益激怒ニ涉リ打毆セシヲ以テ既ニ「テル」外二名共ノ所爲ヲ支ヘ淺野「コト」及外三名ヲ救ヒ出サントスル場合ニ彼ノ安五郎煙管ヲ投ケ付ケシヲ以テ安五郎ヲ取押ヘントセシニ圖ラヌ其ノ兄安平背後ヨリ木屐ヲ以テ耳目ノ邊ヲ打チシヨリ雙方爭チ生シ互ニ勝負ヲ分タサル折柄青木角次郎草薙鎌ヲ携ヘ來リシヲ安平之ヲ引取リ直ニ自己カ面部ヘ打込ニ尋テ安五郎木棒ヲ以テ數回打擲シ故ニ之ヲ防カントスルモ自分一人ニテ敵シ難ク困苦セシ折柄

漸ク近隣ノ者ノ爲ニ救ハレタル次第ナリト八幡警察署ニ於テ陳述セシニ巡查井上健太郎ノ壓制ニテ該鎌ハ自己ヨリ持來リタルモノト責問セラレ一ツモ自分ノ辨護ヲ容レラレスシヲ却テ拘留ノ身トナリタリ夫レ事實不適當ノ詰問ヲ受ケシ而已ナラス當ニ醫師本莊脩造外二名ノ供狀ニ依リ事實ヲ推測セラレタルハ甚不服ナリ何トナレハ該鎌ハ現ニ淺野「テル」方ニ購求セシモノニテ決ニ自分カ所持スルモノニ非ス加之毆打ノ先後ヲ爭フキハ彼等ヨリ先ニ手ヲ降タシ剩ヘ鎌等ヲ以テ人ニ負傷セシ「事實明断タル」關セス唯自分ノミチ責問シ相手方ノ者共ヲ責問セラレスシテ濫ニ事實ヲ推測セラレタルハ抑モ何等ノ根據ヨリ出テシモノナルヤ果シテ如斯ナラス特ニ醫師ノ徵檢狀ヲ要スルニ及ハサルナリ故ニ八幡警察署ニ於テ負傷ノ点檢ヲ乞ヒシモ曾テ採用セラレス相手方ノ者ノミチ鄭重ニ審査シ自己等ハ只苛酷ノ責問ヲ受ケタリ改定律例第二百八條乃至第二百十四條ニハ鎌刀柴刀ノ透項アリ假令相互ニ毆打スルモ一方ハ梃棒鎌刀ノ傷ヲ受ケ又一方ハ漸ク些少ノ疵ヲ受クルキ何レカ輕重勿ル可カラス若シ權衡差異ナシトスルモ情ヲ量リ又タ擬律等ノ点ハ無用ニ屬スルナリ夫レ自分爭ヒノ事項ニ於ケル先ニ手ヲ降スモノハ云々後ニ手ヲ降ス者ハ負傷同一ナルキハ先ニ毆打セシモノヲシテ主トナスノ成文律ナキニシモ非ラス然ラハ淺野「テル」及ヒ安平安五郎等カ所爲ハ最モ主者ナリ然ルヲ安五郎ノ外二名ハ不問ニ措レシハ不尽ノ裁決ナリト云ハサルヲ得ス若シ否ラサレハ相當ノ求刑セサルヲ得ス夫レ爭ヒノ根源ヲ聞キ枝葉ノ自分ヲ安五郎ト同一ノ刑ニ處セラレタルハ事實ノ如何ノ審理セサル裁決ナルヲ以テ到底不服ヲ唱フ可キ充分ノ理由ナリト思考セシニ依リ更ニ取消ヲ求ム

ル所以ナリ

明治十四年九月二十七日重テ上告追伸書ヲ差出スモ其要旨ヲ左ニ掲載シ他ハ枝葉ニ渉ルヲ以テ之レヲ略ス

宣告書中(從父兄淺野安平)云々右ハ自分儀從父弟ト見做サレタル裁判ナリト思料ス此不服ヲ唱フル所以ナリ自分ハ(嘉永四年亥年)ノ生出也又安平ハ(嘉永六癸丑年)ノ出生ニテ衆人ノ知ル所也生死ノ日限ハ隱セルモノニ非ス自分ハ從父兄也安平ハ從父弟也然レハ從父弟トノ相違アリ又々宣告書中(從父兄安平ヲ毆打スル科)云々アリ右ハ自分ヲ從父弟ト見做シタリシハ必定ナリ之レ反對スレハ安平ハ從父弟ナリ彼レコレ罪科ノ從タル者ナラシカ果シテ然ラハ自分ハ無罪者ナリ而シテ其證佐ハ第三號戶籍本帳ノ寫アリ

辨明

上告ニ依リ原裁判所ノ簿記ヲ審案スルニ上告人彌惣平ハ當時亂毆交打セシ狀況ニ付テ彼我ノ曲直判然ナラシムル爲メ其證據ヲ提舉シ以テ自ラ受ケシ處刑ノ不法ヲ鳴控ス可キニ今之ニ反シ其中立ハ單ニ口頭ノ陳述ニ止リ一モ信憑ヲ措クニ足ル可キモノアルナシ左スレハ原裁判ニ於テ醫師本莊脩造ノ診察並ニ淺野小四郎橋本彌四郎等ノ供狀ヲ參照シ互ニ相闘毆セシ者ト認定セシ理由ト性質上ニ於テ不法ト爲スヲ得ス又々彌惣平ハ自分ヲ從父弟ト見做サレシハ云々中立ルト雖モ當時其事申立サルノミナラス明治十四年一月廿七日其村長ヨリノ原籍取調書ヲ閱スルニ安平ハ嘉永五子年七月十八日生レトアリ又上告人彌惣平ハ嘉永六丑年三月十二日生トアルヲ以テ原裁判所カ從父兄タル安平ヲ毆打シタリ

小裁判シタルハ相當ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月廿九日淺野彌惣平ニ言渡シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也

第一千三百拾五號

○判文(闘毆ノ件) 明治十四年七月八日上告
明治十四年十一月七日判決

滋賀縣近江國蒲生郡池田村平民

九兵衛長男

淺野 九藏

明治十四年六月
十七年十一月

右九藏ニ明治十四年六月廿九日京都裁判所大津支廳ニ於テ左ノ裁判言渡シ爲シタリ
其方儀母「コト」カ再從弟淺野「テル」ト爭論スルニ基ヒシ再從兄淺野安平同ク安五郎ヨリ毆傷セラル、モ自己ヨリ手ヲ下タシ彼等ヲ毆打セシ「非」スト供シ招狀ニ伏セスト雖モ醫師本莊脩造ノ診察並ニ淺野小四郎橋本彌四郎等ノ供狀ヲ參照事實ヲ推測シ互ニ相闘毆セシモノト認定スルヲ以テ右科闘毆律毆三等親以下尊長條ニ依リ杖一百ノ處情ヲ量リ本罪五等ヲ減シ管五十申付ル

淺野九藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年七月八日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ
一該判文ニハ(醫師本莊脩造ノ診察並ニ淺野小四郎橋本彌四郎等ノ供狀云々互ニ相闘毆

セシモノト認定スル云々トアルモ自分ハ決テ手ヲ降セシ覺ナク因テ八幡警察署ノ吟味ニハ母「コト」カ「テ」ト等ヲ起シ右「テ」ニ關毆セラレ叫聲傾リナルコ依リ現場ニ駈付救ハントシ敢テ自己カ毆打セシコ非ラサル旨縷々辨護セシニ該警察署詰井上健太郎ヨリ互ニ毆打セシモノトノ責問ナリシ而シテ自分ハ是ヲ辨護セント欲シ相手方ナル「テ」及安五郎等ト對質アランコテ數回請求セシモ竟ニ之レヲ許サレヌ唯ニ一方ノ片言ヲ聽許シ身体ノ負傷ヲ點檢セラル、コナクシテ終結セラレ竟ニ該裁判所ノ糾問ニ係レリ因テ種々辨護セントセシコ豈圖シ不盡ノ裁決ヲ下サレタリ夫レ如斯ニシテ自己ハ負傷ハ云モ更ナリ母「コト」ニ於ケル「テ」等ノ爲ニ夥多ノ疵ヲ蒙リ剩ヘ左ノ無名指ヲ逆折セラレ終ニ卅癒ノ期ヲ得ス癱疾ト成リ加之頭髮方寸以上ヲ抜カレ斯ク數ヶ所ノ疵ヲ負ハシメタル「テ」ノ罪科ヲ不問コ措キ放免セラレタルハ眞ニ偏頗ノ裁判ト推知セリ然シテ是等ノ事實ヲ推問セハ現ニ手ヲ降セシ「テ」ナシテ罪證明白ナラサルトノ判文ヲ下サレシハ此レ不盡ノ裁決ナリ何トナレハ醫師本莊脩造カ徵檢狀ノ如ク母及自分等ノ負傷ハ相互間毆打セシモノニアラサレハ決テ斯カル罪名ヲ受クル謂レナシ況ンヤ母ノ危急ヲ救ハントシ俱ニ毆打セラレ自己ハ手ヲ降サ、ルニ何等ノ憑據アリテ相互ニ争ヒシモノト認定セラレタルヤ太テ了解シ得サル處ナリ或ハ淺野小四郎橋本彌四郎等ノ供狀アルモ彼等ハ相手方ニ對シテノ加擔者ニシテ若干ノ金員ヲ貰ヒ受ケ虚構ノ通辭ヲ吐キシ供狀ナルニ是ヲ聽許シ相互間毆打セシモノト認定セラレタルハ偏頗ニ出テタル所置ナリト考量セリ然ルチ之レカ權衡ヲ同一視シ互ニ關毆セシモノト裁決セラレタルハ不服ニシテ取消ヲ求ムル所以ナリ

一判文ノ末項ニ「毆ニ等親以下尊長條ニ依リ云々」トアルモ右ハ孰レノ者ヲ尊長ト指稱セラルモノヤ是レ決シテ三等親以下ノ尊長ト認ム可キモノニ非ラス
 一明治十三年十月廿七日附父九兵衛ヨリ淺野安平ヘノ書面ハ事ノ動搖ヲ忌嫌シ何レモ親族ノ間柄ナルヲ以テ穩便ノ沙汰ニ出テタルカト思慮スレハ決テ然ラズ相互間ニ爲取換チ爲ス可シトノ約ヲ以テ成立ヤシ書面ナルヲ安平於テ虚喝ヲ吐キ賺シ取リタル者ニシテ自分カ聊カ與知セサル處ナリ
 明治十四年九月廿七日重テ上告追伸書ヲ差出シタリ今左ニ其要点ヲ掲ケ他ハ枝葉ニ涉ルチ以テ之ヲ略ス

〔關毆律父祖被毆條例〕父母人ニ毆レ子孫即時ニ救護シテ還テ行兇人ヲウツハ折傷ニ非レハ論スルコ勿レ

右云々之レアリ自分母ヲ救護ニ出テ却テ打傷ヲ受ケシハ〔第一號〕證ノ如シ九藏ニ於テハ固ヨリ爭論ノ勢ヒテ助クル念慮ニ非ズ自分併ニ多二郎トモニ年齢微弱ノ者ナリ原告彼等ニ於テハ年齢二十年以上ニシテ血氣サカノ者棒錘等ヲ携ヘシハ即チ加勢セシ證據物顯然アリ然ルニ該件ノ如ク自分罪科ヲ受クルニ至リシハ不法ナリ

辨明

上告ニ依リ原裁判所ノ簿記ヲ審按スルニ上告人淺野九藏ニ於テ其受シ處刑ヲ不法ト思料セハ該時亂毆交打ノ際自ラ手ヲ下シ以テ安平等ヲ毆打セシコナキ證據ヲ提供セザル可カラズ今其申立ル所ノ算ニ口頭ノ陳述ニ止リシモ信憑ヲ措クニ由テ左スレハ原裁判所

カ醫師本莊脩造ノ診察券ニ淺野小四郎外一名等ノ供狀ヲ參照シ互ニ毆毆セシモノト認定シ毆毆律三等親以下尊長條ニ依リ杖五十ニ決斷シタルヲ敢テ不法ト云フヲ得ス又々判文ノ末項ニ「毆三等親以下尊長條ニ依リ云々」トアルモ右ハ孰レノ者ヲ尊長ト指稱セラル・モノヤ云々トアルモ九藏カ淺野安平同ク安五郎ニ於ルヤ四等親ニシテ且彼年長ナラスヤ又九藏ハ母「ト」カ安平等ニ毆打セラレタルヲ目撃セシテ以テ之ヲ救護スル云々且ツ毆毆律父祖被毆條ヲ援引シテ云々申立ツレモ原裁判所ニ於テ九藏カ所爲ハ現場ノ勢ヲ助ク併ニ毆打ヲ爲セシ者ト認定シタリ此認定ハ原裁判所ノ權内ニシテ且上告者カ所言又唯口頭ニ止リ證據ナケレハ敢テ不法ト爲スヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月二十九日淺野九藏ニ云渡シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ニキキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第千三百拾六號

○判文(竊盜三犯ノ件) 明治十四年八月三十日上告 明治十四年十一月七日判決

福岡縣筑前國遠賀郡若松村十二

番地住吉卯之助同居平民

播

磨 トメ

右「ト」ニ對シ明治十四年八月二十日大阪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

二十年 明治十四年八月

此方儀檢事ノ公訴スル竊盜事件審問ヲ遂クル處被告人於テハ明治十年五月二十六日北野「勇」ト詐稱シ竊盜ノ科ニ依リ懲役五十日ニ處ヒラレ尙ホ又同年十月五日高橋「トメ」ト詐稱シ竊盜再犯ノ科ニ依リ懲役六十日ニ處ヒラレタル身分ニシテ尙ホ改心セス明治十二年中府下木津川ニ於テ船火事ノ節近傍ニ持チ出シ置ケル茶縮緬三尺帶一点木綿小紋綿入一枚ヲ竊取シ尙ホ又明治十三年十二月中府下島ノ内出火ノ節同所溝中ニ落シ有之銅鍋一個ヲ拾ヒ取リ又ハ明治十四年五月三十日廻口「キ」ト誘ヒ日本橋筋四丁目西川「カ」方ニ於テ蒲團一枚ヲ竊取セシ旨供述セシ後「キ」更ニ之ヲ反異シ變キニ再犯ノ處刑ヲ受クル後ハ全ク改心シ耐來盜業等爲シタル覺無之旨申立ルト雖モ前供ニ對スル反證ナキヲ以テ前供ハ眞實ノ自狀ナリト認定ス右被告人カ銅鍋ヲ拾ヒシ罪ハ改正得遺失物律ニ依リ竊盜ニ準シ尙ホ其他ノ盜贓ニ合算シ贓金三圓七拾五錢竊盜律ニ依リ三犯ナルヲ以テ再犯加等罪例ニ照シ懲役十年申付ル

但シ贓金贓價ノ爲メ資力限リ取揚ル

明治十四年八月二十二日大阪裁判所ニ於テ右ノ裁判ヲ貼斷スル左ノ如シ

其方ニ對シ明治十四年八月二十日竊盜及ヒ得遺失物公訴事件ニ付其竊取及ヒ拾得スル物品ノ估計金三圓七拾五錢ヲ贓ニ計ヘ竊盜律ニ依リ三犯ニ係ルヲ以テ再犯加等例ニ照シ懲役十年ノ處斷致シ置シ處被告人ハ二罪俱發律ニ依リ處斷スヘキヲ主任官ニ於テ覺學スルヲ以テ改定律例第三百十四條ニ依リ該判決ヲ改正貼斷スルヲ左ノ如シ

被告「ト」カ衣類外一点及ヒ西川「カ」方ノ蒲團ヲ竊取シタル贓金三圓五拾錢ノ罪ハ竊

盜律ニ依リ懲役六十日其遺失物品ヲ拾得シ官主ニ送還セズ費用フル贓金貳拾五錢ノ罪ハ
改正得遺失物律ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ一等ヲ減シ懲役四十日ニ處スヘキモノトス
以上ノ二罪ヲ各例律ニ罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ竊盜律懲役六十日ニ處スヘキ處三
犯ニ係ルヲ以テ再犯加等例ニ照シ懲役十年申付ル

但シ贓品賠償ノ爲メ實力限リ追徴ス

○「於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月二十日附テ以テ本院ニ上告スル
旨趣左ノ如シ

○私福岡縣下筑前國遠賀郡若松村出生ニ御座候處大阪府ヘ日雇出稼ニ罷出則私姉「シナ」ナ
ル者緣付罷在候大阪府東成郡天王寺村高橋清吉方ニ寄留仕居候處西成郡七世町母衣德松
申者ト内縁取結居候處德松儀歳七十以上ニテ私ト不相應ノ縁ト私姉「シナ」申居且ハ德
松娘且親類ノ者モ彼是故障申立候ニ付其趣私姉「シナ」ヨリ德松ヘ離縁致吳候様申入候處
德松申聞候ハ其儀モ尤ノ次第ニ付離縁致吳候様申聞就テハ内縁中金四圓取替置候儀有之
ニ付其金返濟仕候得ハ直ニ離縁致吳候様申聞候ニ付私姉「シナ」ヨリ金四圓德松ヘ返濟致
吳則離縁狀取受候儀ニ御座候處其後德松ヨリ度々仲人ヲ以テ再縁致吳候様申參候得共私
ニ於テ一旦德松ノ親類及私姉「シナ」立會ノ上離縁ニ相成候儀ニ候得ハ再縁仕譯合ニモ不
相成其趣申上德松ヘ及斷其後伊藤藤次郎ト申者ト内縁取結居候儀ニ御座候處此儀德松ニ
於テ立腹ノ由ニテ彼是申立參候ニ付本年七月十五日兵庫澤部ニ懸意ノ者有之候ニ付日雇
出稼ニ澤部ヘ罷越候處差當リ稼ノ口モ無御座ニ付無據七月二十六日私「シナ」方ヘ立歸候

處大阪府長堀橋御警察署ヨリ御指紙到來ニ付早速御警察署ヘ罷出候様姉「シナ」申聞候ニ
付不取敢御警察署ヘ罷出候處御調ニハ西川「カツ」方ニテ蒲團一枚竊取致且囁ノ内出火ノ
節「ツ」中ニ落シ有之銅鍋拾ヒ取包藏致木津川船火事ノ刻持出シ有之小紋女綿入茶縮緬三
尺帶竊取致候段有休白狀可仕様御糺ニ御座候得共私ニ於テ竊取仕候覺無御座其蒲團ハ母
衣德松所持品ニテ細口「トク」ト申者ヘ相頼金壹圓貳拾錢ニ賃入仕其内金壹圓德松ヨリ私
ヘ小遣トシ吳候儀ニ付其旨御答申上猶茶縮緬三尺帶小紋女綿入赤油小ツギ盆皿ハ姉「シ
ナ」ヨリ貰受候儀ニ御座候旨申上候得共私ノ申立御取上ケ無御座何分前段申上候内縁取
結候母衣德松儀御掛須戸殿下使相勤罷在候ニ付德松ヨリ私前段ノ品盜業相働候ト内達仕
候休ニテ更ニ私ノ申上方御取上ケ無御座打歎罷在候處私妊身罷在候ニ付姉「シナ」方ヘ責
付被仰付候ニ付姉「シナ」方ニテ相頼罷在私姉「シナ」ヘ申入候ハ今度御警察署御調ニ小紋
綿入茶縮緬三尺帶油小ツギ等竊盜相働候旨被仰渡候如何ノ品ニ候哉ト相尋候處姉「シナ」
申聞候ハ三尺帶ハ所持品ノ由申聞小紋綿入ハ姉「シナ」自分所持ノ綿入日本橋筋五丁目賀
業野村彌兵衛方ヘ質物ニ差入候其綿入取紛不相分ニ付其代リト野村彌兵衛ヨリ吳候品
ニテ決テ不正ノ品ニテ無之旨申聞且油小ツギ盆皿ハ同所四丁目吉野幸助方ヨリ行燈諸共
外ニ小長持一ツ其代價金九拾四錢ニ買取候品ノ内ニテ是共中々不正ノ品ニテハ無之旨申
聞何分御警察署ニ於テ母衣德松ヨリノ内達ニテ無シツノ科ニ陷候ハ残念ノ至リ至リ再縁
不仕意恨ト存此上ハ御裁判所ヘ御引渡ノ上明瞭ノ御裁決御願申上候ヨリ外ハ無御座ト姉
「シナ」ト語り合候儀ニ御座候處御裁判所ヨリ召出ニ相成御掛近藤殿御席ニテ御調ニ御座

候ニ付前段ノ手續合巨細申上候處同責付ニテ御下渡ニ付姉「シナ」方ニテ相愼罷在共後再
 三御召出御調御座候得共前段有体申上候通外ニ申上方無御座然ル處又候御召出ニ相成候
 處御掛御替リ島村殿御掛ニ相成候ニ付打返前段ノ次第申上何分母衣德松事主西川「カシ」
 及野村彌兵衛吉野幸助御取調ノ上御ツキ合セ被下候得ハ私ノ明白相立可申ト存候ニ付御
 ツキ合セノ儀御願申上候得共其儀モ無御座愁弱罷在候處本月二十二日刑事御課へ御召出
 ニ相成窃盜三犯成ヲ以テ懲役十年被仰渡奉驚入候私ニ於テ前般御處刑相受候後吃度改心
 仕不正ノ働ハ一切不仕今度無罪ノ科ニ陥リ残念ニ奉存候ニ付乍恐上告奉願上候私御警察
 署ニ於テ御留置中ニ右西川「カシ」姉「シナ」方へ罷越申聞候ハ全蒲團一條ハ母衣德松ヨリ
 ノ頼ニ付無據紛失届ハ仕候得共實ニ氣ノ毒ノ次第ト西川「カシ」申參候次第モ有之左候得
 ハ判然母衣德松ノ申立ト奉存候全德松ニ再縁不仕儀ヲ意恨ニ思ヒ私ヲ無罪ノ科ニナチイ
 ラセ候儀ト奉存候何卒前條ノ次第御酌量被成下寛大ノ御仁施ヲ以テ事主西川「カシ」及母
 衣德松ニ御ツキ合セ被成下候上私ノ申立不相立候ハ、今般ノ御處刑相コハミ不申候何分
 今一應明瞭ノ御裁決被爲成下候様此段伏而奉歎願候也

辨明

止告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ播磨「トメ」ハ嚮ニ警察署ニ於テ拇印シタル口
 供ヲ翻異スト雖モ其口頭ノ陳述ニ止マリテ窃盜ヲ爲サ、ルノ證アルコトナシ故ニ原裁判所
 ニ於テ前供ヲ以テ眞實ノ白狀ト判定シ窃盜三犯贓金五十圓以下懲役十年ト斷決シタルハ
 不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月二十二日大阪裁判所ニ於テ播磨「トメ」ニ言渡シタル裁
 判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者ナリ
 第一千三百拾七號

○判文(姦通ノ件) 明治十四年九月廿一日上告
 明治十四年十一月七日判決

栃木縣下野國都賀郡大久保村平
 民金次郎兄

櫻淵 仲 一 郎

明治十四年九月
 四十一年一ヶ月

明治十四年九月十六日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀田口吉五郎亡妻「スマ」ト姦通致サ、ル旨抗辨スト雖モ深川警察署ニ於テノ口供及
 ヒ「スマ」里方へ俱々宿泊シ又ハ清水乙松ノ陳述ニ依リ狀況ヲ視察スレハ「スマ」存命中姦
 通致セシ者ト認定ス仍テ右科改定律例第二百六十條ニ依リ懲役一年申付ル

櫻淵仲一郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ本院ニ差出シタル明治十四年九月二十一日上
 告趣意書及ヒ十月六日十一月四日上告補正書ノ要旨左ノ如シ

深川警察署ニテノ口供ハ相違ノ廉有之因テ自分申立ルハ田口吉五郎妻「スマ」ハ田中長兵
 衛支店へ小風呂敷持參シ而シテ七月十日金三拾錢ノ貸錢ニテ自分へマガリガ子村田邊龍
 太郎宅迄持參致シ吳ト申スニ付同入方へ相届ケ其夜一泊致シ其翌日深川支店へ歸リ居候

處「ス」ハ同月十二日里方へ参リ二三日ヲ經本宅へ歸リ同二十八日夕刻自分方へ参リ奉
 公濟スル存念ニ付キ二三日居所有之候ハ、世話有之度ト達テノ依頼ニ付止テ不得「ス」
 ヲノ依頼ニ委セ外神田岡田小太郎方へ其段ヲ頼置自分ハ直ニ深川支店へ立戻レリ然ル
 ニ岡田小太郎ノ宅ハ手狭ニ付向柳原清永乙松方へ「ス」連レ参リ頼置八月十日夜三拾錢
 ノ貨錢ヲ自分受取ニ参リ其歸ル途中吉五郎外二名ニ出逢ヒ右三人自分へ打テ掛リ其ノ壹
 人自分へ付添ヒ兩人ハ乙松方へ参リ「ス」打擲シ夫ヨリ同道ニテ深川田口吉五郎方へ
 連レ参リ而シテ自分へ對シ姦通致候ニ相違ナキヤトノコニ付自分ハ「ス」ニ一應引合セ
 候へハ實際相分リ候ト申述候處「ス」ニ合セ與シ時ハ最早「ス」一切口キケ不申夫ヨリ
 岡田小太郎清水乙松兩人後トヨリ追掛ケ示談致シ度ト掛合シニ田口吉五郎ニ於テハ内濟
 ナラハ金百圓ニアラサレハ勘辨相成リ難クト申居其末數度掛合ニ及ヒ候得共何分行届キ
 不申自分ハ示談ノ儀ハ元ヨリ不服ニ付先方ニ相斷自宅へ歸リ候然ルニ八月十二日深川警
 察署ヨリ御喚出ノ上御取調ニ相成候得共實際自分ニ於テハ前段ニ陳述スルカ如ク「ス」
 ト姦通致シ候義一切無之此レ上告スルノ要旨ナリ
 自分田口吉五郎亡妻「ス」ト惡意ヲ爲セシ原由ハ豫テ自分ヨリ吉五郎へ金員貸シ附ケ置
 有之其後返濟ノ期限ニ至ルト雖モ吉五郎彼是云々申立返辨ニ不及爲メニ時日モ遷延致シ
 候ニ付一層督促ナシタル處却テ吉五郎ニ於テ不盡ヲ申募リ因テ自分度々掛合ニ罷越候
 都度同人亡妻「ス」傍ラニ居合セ吉五郎ノ暴言ヲ氣ノ毒ニ思ヒ種々取扱ヒ終ニ該金償却
 方ハ兎尾角亡妻「ス」負擔シ片付候トノ頼談ニ付其後吉五郎ヲ差置キ同人亡妻「ス」ニ

返辨方ヲ促シ罷在之カ爲メ亡「ス」トハ不計惡意ニモ相成タル義ニ御座候最モ猥褻等ノ
 義ハ毫モ無之候然ルチ吉五郎無根ノ誣言ヲ申立亡妻「ス」ト自分姦通致セシナド、實以
 テ跡形モナキ事ヲ申立テ屢々亡妻「ス」ヲ打擲ニ及ヒ候由因テ「ス」ハモテ餘マシ同人
 里方へナリトモ申込辨償ノ手段ニモ可及就テハ自分ニ同人里方へ罷越事情相咄シ置キ吳
 レトノコニ付自分同人里方へ始テ罷越其セツモ亡「ス」依頼ニ因テ物品相届ケ遣シ候儀
 モ有之如斯亡「ス」里方へ自分出入ヲナシタルハ吉五郎へ貸金ノ件ヨリ起リタル儀ニテ
 亡「ス」自己ノ件ニ關スル次第ニテハ聊モ無之候吉五郎亡「ス」ナル者ノ都合ニ因リ清
 水乙松方へ罷越居候儀ハ吉五郎ト亡「ス」トノ間ニ苦情相生シ何分折合不申ニ付亡「ス」
 ヲニ於テ凌キ兼テ無據里方へ赴キ居候處右吉五郎罷越不法ノ儀申募リ不得止一時里方
 ニモ差置キカタク又差戻シ候儀モ掛念ノカド有之トノ里方ノ者協議ヲナシ自分知己岡田
 小太郎ト申者へ一兩日亡「ス」ヲヒソマセ置キ追テ里方ヨリ吉五郎へ申論ストノコニテ
 當分清水乙松方へ亡「ス」ハ罷越居候都合ニ御座候吉五郎へ貸シ附置キタル金員吉五郎
 ヲリ返濟シ囊キニ自分同人へ催促ナシタル遺恨ニ思ヒタル跡形モナキ誣言ヲ以テ深
 川警察署へ訴出タルモノニテ自分ニ於テ亡「ス」ト惡意ニナリタル原由ハ吉五郎へ貸附
 置キタル金員辨金ヲ一時亡「ス」負擔セシ處ニ引合罷在候義ニテ此等ノ儀悉ク里カタノ
 モノ岡田小太郎等事狀相心得罷在候間更ニ今一應御裁斷奉願上候

辨明

上告人櫻間伸一郎ハ田口吉五郎妻「ス」ト姦通シタルコト申立ルト雖モ伸一郎カ最

初富岡門前警察署ニ於テ摺印シタル口供ニハ「スゞ」ト姦通シタリト自白セシノミナラス
巡查河野傳ノ手續書ニ依レハ「スゞ」ニ於テモ仲一郎ト姦通セリト陳述シタリ其他清水乙
松等ノ陳述ニ依リ犯狀明白ナルヲ以テ上告人ノ姦通セサリシト申立ハ相立サルモノト
ス故ニ原裁判所ニ於テ改定律例第二百六十條ニ依リ懲役一年ニ處斷シタルハ不法ノ裁判
ト爲スヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年九月十六日東京裁判所ニ於テ櫻淵仲一郎ニ言渡シタル裁判
ハ破毀ス可キ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也
第千三百拾八號

○判文(關毆ノ件) 明治十四年八月十七日上告
明治十四年十一月八日判決

福岡縣筑前國福岡區地行東町士
族

蒔

田 磯

明治十四年八月
二十年十月月

右蒔田磯ニ明治十四年八月十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀福岡區伊崎浦ニ於テ巡行巡查豐嶋友三郎ハ一面識モナク且ツ宿怨アルニ非ラサレ
ハ手拳ヲ以テ毆打セシ覺ナケレ共最初行途ヒタルキ或ハ聊カ手肩ノ相摩シタルヲアルヲ
故ラニ毆打セシ者ト誤認シタルモノナルヘキ旨申立ト雖モ苟モ巡查ノ職掌ニ於テ漫ニ罪

跡無キ者ヲ拘引ス可キ謂レ無キ而已ナラス其現場ノ景況及ヒ巡查ノ證告書ニ於テモ果シ
テ巡查豐嶋友三郎ト行違ノ際同人カ提燈ヲ携ヘタル手ヲ拳ヲ以テ毆打セシ者ト認定セリ
依テ右科關毆律關毆條ニ依リ本罪ニ二等ヲ加ヒ懲役四十日ノ處士族ナルヲ以テ例第十三
條ニ照シ禁獄四十日申付ル

總ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月十七日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

第一條

御判文ニ「最初行違ヒタルハ或ハ手肩ノ相摩シタルヲアルヲ云々ト之ハ全ク手肩ノ相摩
シタルヲハ自分ニ於テ感覺有之様ニ御記載有之候得共右景況ヲ陳述シタル如ク少シモ自
分身体ニ感覺無之故ニ已ニ五六歩モ平生ノ如ク緩歩シタル儀ニ候然ルヲ斯ク判決書ニ書
セラル、間違ハ御判決以前糾問科ニテ御尋問ノ掛官ノ御尋ニ巡查カ其方ノ打タサルモノ
ヲ何故ニ其方ヲ拘引セラレタルカトノ事ニ候得ハ拙者推考スルニ巡查ヲ奉職スル者何ソ
人民ヲ漫ニ誣告セラル、理由ハ無之筈ナレハ或ハ豐島巡查ト行違ノ際少シク衣服ノ相摩
シタルヲモアラソカ夫ヲ毆打シタル者ト誤認セラレ拘引セラレタル者ナラン尤モ誤認セ
ラレタルトノ推察ノ所以ハ有レハ此ニ關セサレハ末條ニ陳述致候此答言ニ對シ「手肩ノ
相摩シタルヲアルヲ」トノ意外ノコト記載セラレタルナレハ右ハ縷々陳述スル如ク決テ
拙者身体ニ感覺ナキモノヲ斯ク判決書ニ記載セラル甚々服シ難キ處ニ御座候

第二條

御判文ニ「其現場ノ景況」ト其現場ノ景況トハ果シテ何等ノ摸樣ヲ指點サレタルヤ定テ以

下述ナル所ノ二点ニ過キサル可シト確信致シ候間一二テ點シ言上致候共一ツ該時通路ノ
繁雜スルカ繁雜セサルカトノ謂ナラン此時ノ通行人ハ斷續有之候得共巡查豐島友三郎ト
行違ヒノ節ハ一二名ノ通行人モアリタルコト存候得共多人數ノ通行人ハ無御座候得共決
テ他人ニマキレ巡查ニ惡敷所爲ヲ劬クノ勢ハ更ニ無之分明ニ御座候其二ニハ巡查豐島友
三郎氏ト行違ノ景况ナランカ之ハ前陳ノ通ニ御座候得ハ毆打セシノ模様ハ無御座候右等
ノ景况ナルヲ毆打セシニ相違ナシトノ御判定有之候テハ最モ不服ニ奉存候

第三條

御判文ニ「證告書ニ於テモ」云々此證告書ハ固ヨリ拜讀セサルコト故ニ悉皆存シ不申候得共
御一二御尋問中コテ了知仕候間其儀辨明可致候一ツハ拙者豐島友三郎巡查ト行違ヒノ節
手拳ヲ以テ打ナタル模様ヲ報告致サレタルニ其仔細ハ拙者カ右ノ裏拳ヲ以テ巡查ノ右ノ
裏拳ヲ打ナタル様ニ報告被致候此報告書ハ本年七月二十六日ノ報告ニ御座候得共以前拘
引サレクルノ夜即同月二十三日荒戸分署々長一等巡查某氏御尋問中拙者豐島巡查ニ如何
ナル模様ニテ足下ヲ打タルヤト問ヒシニ豐嶋巡查ノ答言ニ右表拳ニテ自分カ右ノ表拳ヲ
撃ナリト然レハ至ク後ノ二十六日ノ報告書トハ齟齬致候右ハ署長モ親シク御聞知被成
又同行二名ノ者モ側ニテ聞知致シ候得ハ尙御探索被下候ハハ明瞭可致候二ツニハ提燈ヲ
拳ニテ毆テ消シタルコトナレモ之モ拘引サレタル夜ニハ少シノ御尋問モ無之前條手拳ノ反
覆ハ共ニ二十六日ノ報告ニテ相増シ來リ候者ニテ成程其提燈ハ消滅ハ致シタルニ相違ハ
無御座候得共之ハ其折拙者ヲ拘引サレントスル際ニ消滅致候間委細可申述候如此豐嶋巡

査ノ提燈ノ消ヘタルモ覺ヘラレサルハ其時余程忙テラレ何時火ノ消ヘタルヲ覺ヘラレサ
ルコト故ニ手拳ヲ以テ打ナタル様ニ消ヘタルナド附會セラレタルニ相違無御座候尤モ兩側
各家ニハ神燈點シ在候其拙者ヲ拘引セラレントスル際左手提燈ト棒トヲ携ヘ古手拙者カ
右ノ手ヲ引カル、際拙者ハ拘引サル、ノ理由ナシト引カントスル處ニ側テ數多ノ見物人
ノ壓依セタル人ニ當リ彼ノ提燈ノ消滅致シタルハ現ニ拙者見受ケ又同行ノ二人モ覺知致
シタルニ相違無御座候之モ御尋問被下候ハ、炳然可致候右等ノ言上聊カ實際ニ違偽無之
候ニ唯々報告書ノミヲ採用有之候テハ誠ニ人民ハ頼ル可キ處ナク天道是耶非耶ノ哀嘆ナ
キ能ハサル儀ニ候得ハ宜敷御諒察被仰付度候

第四條

第一條中拙者ヲ拘引サル、ハ誤認ニ出テタリトノ所以ナ言上セシニ近來拙者同町即チ地
行近邊ノ書生ト何カ巡查ト軋膝ヲ生シタル由ニテ書生輩巡查ニ出逢ヘハ何カ善カラサル
ノ所爲ヲ働ク様ニ候得ハ拙者モ其書生輩ト見做サレ自身感覺モチキヤキ遠ニ拘引ナ爲サ
レ毆打セシ者ト誤認セラレタルノ場合ニ相成タル事ニ御座候

第五條

事實ヲ認定スルハ原裁判所兼審裁判官ノ主權ニシテ而モ其原被告ノ口頭ノ陳述上取捨採
擇該裁判官ノ心證判斷ニ委ナルモノナリ今上告スル所ノモ以ハ即チ其互ニ口頭ノ陳述
上取捨採擇リテ別ニ確然ナル證據アルニアラス又當時其確證ヲ提供セシニアラスシテ事
實ヲ再審尋求モ亦モテ以然ラズ本院公事實ノ判斷ヲ再審スル所ニアラスシテ則法律ノ

被告檢審スル所ナルヲ以テ筋違ノ上告ナリトス

判決

右ノ通ナルヲ以テ明治十四年八月十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ宣告シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノ也

第一千三百拾九號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十四年八月廿七日上告
明治十四年十一月八日判決

高知縣土佐國土佐郡中新町士族

井 上 正 壽

明治十四年六月
四十七年七ヶ月

右井上正壽ニ明治十四年八月十八日高知裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
被告八儀明治十二年五月中布師田村平民横田彦市ナル者ノ周旋ニテ高岡郡別枝村ニ之レ
ヌル所有山三百五十町ヲ布師田村士族田中武七ヘ代金三千圓ニ賣渡シ内金貳千圓ハ受取
リシモ殘金千圓ハ後日受取ルヘキ筈ナリシニ横田彦市ニ於テハ右世話料トシテ金千五百
圓實ヒ受度旨請求有之モ敢テ承諾セス已ニ明治十三年十二月一日田中武七ヲ相手取り殘
金千圓催促ノ詞訟ヲ爲シ明治十四年一月一日遂ニ直者タルノ裁判ヲ受ケ未ダ執行セサル
中ヲ横田彦市ヨリ田中武七ヘ係リ出訴セシヲ以テ之レカ引合人トシテ出頭セシ處田中武
七ヨリ明治十三年三月廿日付即チ今般高岡郡別枝村ニ有之拙者扣ノ黒龍山賣却致處云々
田中武七般ヘ代價三千圓ヲ以テ賣渡約定致ス處相違無之依テ右ノ諸木代價兩山東テ千五

百圓ト定メ右安太郎扣諸木代價千圓ハ武七般ヨリ横田彦市ヘ御渡可被下筈云々井上正壽
田中武七横田彦市般ト有之證書ヲ提出致スニ付之レヲ閱スルニ決シテ相渡シタル覺ヘ無
之旁鑑定人ヲシテ鑑定セシムルトナリ數名ノ鑑定人ニ之レヲ鑑定セシムルニ全ク平素
所有ノ實印ト同一ノモノト鑒定相成タルモ固ヨリ授與シタルモノニ無之ヲ以テ明治十四
年三月十五日田中武七横田彦市ノ兩名ヲ相手取り高知警察署ヘ告訴シタル旨陳辨スト雖
モ已ニ右證書被告名下ノ印影ハ數多ノ鑑定ニ因リ其實印タルコト明白ナルヲ以テ該證書ハ
被告ヨリ田中武七横田彦市ヘ授與セシモノトス然レハ則チ曩キニ被告カ不實ノ告訴ニ及
ビシハ全ク金千圓ヲ詐取セントスル術策ニ出テタルモノト認定ス
前條被告人カ罪ハ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜未得財ニ準シテ論シ懲役四十日士族ナル
ヲ以テ改定律例改正第十三條ニ照シ除族ノ上懲役四十日役場狹隘ナルコト付答ニ換ヘ答四
十ノ刑ニ處ス
正壽ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月廿七日九月二日上告及ヒ其補正書ノ
要旨左ノ如シ

明治十四年八月廿七日上告書

第一條

民事法庭ニ於テ印影鑑定人カ證シタル處ヲ以テ其證據立ニ因リ受害者ノ告訴ハ直チニ罪
料トナル可キカ自分於テハ直チニ罪科トナルコト信セス蓋シ其證人カ證シタル者ハ神聖
物トシテ可キ者ト爲スコト得サレハナリ或ハ眞ニ偽造シテ其偽造眞影ニ迫リ別ニナルコト

能ハ世ルヤ或ハ證意粗漏ナルヤ或ハ證人ハ信ヒテ或ハ文居キ偽造シ印影取取セ
テシヤ知ル口能ハ其證意以テ受審者ハ孰レノ一方モテ之ヲ信ヒテ告
訴スル權利ハ確然斷乎トヌテ保有スルモノナリ故ニ罪科ト爲スコト得ス

第三條

印影鑑定ヲ證シタル日其證意ハ告訴ヲ爲シタルハ詐偽ヲ以テ其押捺アル證書ノ義務ヲ
免ルモノナリシタルモノナリト迄推擴概定スルコト得ルカ否唯告訴ヲ爲シタルノミニテ押捺
證書ノ義務ヲ詐偽ノ心術ヲ以テ得免スル者ト迄ハ概定スルコト得ラズト信認ス蓋シ告訴
人ノ地位ニ在リテハ其證書ヲ真正ニアラスト信スレハコソ告訴ヲ爲スモノナレハ豈ニ眞
正ニアリト信シ告訴スルコトヲシテ若シ夫レ檢事警察官カ惡逆ヲ助ケ善良ヲ陷害スルモ
ノナレハ或ハ之ヲシテ而シテ檢事警察官ハ如此夫レ惡逆ヲ助ケルモノナラサレハ其已
レノ眞ヲ隱匿スルカ爲メニ告訴スルコトヲシテ故ニ告訴ヲ以テ詐偽ノ心術ト迄ニ推擴概
定スルコト能ハサルナリ

第三條

詐偽未得財ナル者ハ詐偽シテ漸ク其財ヲ得受セントシタル時カ或ハ詐偽シテ財掌裡ニ移
リタル時即チ現場カニ適用スルノミナラス且其詐偽ノ準備中即チ被告人ノ心裡ニ之レア
ルヘント推測セラレ、所ニ迄開擴シテ罰スルコト得ヘキカ詐偽シテ財ヲ受取ラントスル
際カ或ハ已ニ受取ルト雖モ現場直チニ發露スルモノナルカチ以テ詐欺未得財ト爲シ刑罪ニ
直ルモノト信スレハ法官ハ唯自分カ心裡ニ企圖シアリト推測シテ詐欺未得財ト問ヒ論ス

可キモノニアラサルナク如斯者ハ羅織ニ類似シ法律ヲ開擴ス可ラサル所ニ開擴スル者ナ
リト謂フヘシ已ニ日本刑法ニ於テハ如斯者ハ未遂犯罪トシ刑罰ノ及ハサルモノト爲スニ
ナスヤ是レ實ニ刑法ノ元則ナリ況ンヤ自分ハ詐欺ノ所爲アラサルノミナラス却テ充分
告訴スヘキ權力アルヲ以テナシタルモノナレハ決シテ以テ自分ノ心裡ヲ推定シテ詐偽未
得財ト問フコト能ハサルナリ

明治十四年九月二日補正書

第二條

一横田彦市カ田中武七ヘ係リ民事ヘ起訴シタル其彦市カ目的タル證文ト自分カ之レニ對
シ辨明スヘキ緊要ナル證トヲ寫載スルコト左ノ如シ

證文ノ寫シ

山代殘金預リ證

一高金三千圓也

右ノ内 田金七百圓也 但本年一月相渡ス

一金千三百圓也 但本年六月一日相渡ス

印紙貼用有リ

指引殘

金子圓也

右者別枝村黒瀧山得代金前書之通リ相渡指引殘金千圓ハ地券證書換願書ニ戸長連印濟之上相渡可申候依テ預リ證如件

明治十四年第六月一日

井上正壽殿

田中武七印

甲第二號證

約定證

一今般高岡郡別枝村ニ有之拙者扣ノ黒瀧山賣却致ス處同所ニ有之同村平民野中安太郎扣山分共束テ賣却不致テハ買主不工面ノ由ニ付右両山相束テ田中武七殿へ代價三千圓ヲ以テ賣渡約致ス處相違無之仍テ右ハ諸木代價両山東テ千五百圓ト定メ右安太郎扣諸木代價千圓ハ武七殿ヨリ横田彦市へ御渡可被下等且ツ亦殘金五百圓ハ拙者扣山ノ諸木代價ニ付則拙者へ可被下等ヲ以テ約定相結ヒ候上ハ后日違亂無之候依テ約定證如件

明治十三年二月廿日

井上正壽印

田中武七殿

横田彦市殿

右両箇ノ證文ノ成立ナル月日ニ依テ見レハ其横田彦市田中武七宛ノ明治十三年二月廿日附証文カ真正ノ證書ナレハ明治十三年第六月一日ニ計算テ遂ケ殘金千圓ノ證書ヲ自分宛ニシテ相渡ス謂レ無之而已ナラヌ明治十三年十月十二日付ノ濟口證ニ但シ該金ハ高岡郡別枝村ニ有之黒瀧山被賣買受ニ付該地券狀被告名義ニ書替出願書面上該村戸長連印濟

ノ上可相渡管之金員ニ付來ル廿五日該村戸長役場ニ双方立會ヲ以テ右連印ヲ請ケ歸村ノ上翌日取渡可致管トアルニ依テ是ヲ視レハ前記ノ田中武七外一名宛ノ證兼テ同人等カ所持スル理由無之事項明白ナリ然ラハ果シテ偽筆偽判ト謂リサルヲ得サル哉

第二條

一明治十三年二月廿日付證文(則チ偽證)反ニ真正ノ証ニモセヨ其以后明治十三年六月一日ヨリ計算テ遂ケ殘金千圓ノ預リ証自分へ差入レ有レハ眞キノ約定證書タルヤ無効ノ證ニアラサルヤ猶民事第三千八百四十五號濟口證文左ニ寫載ス

濟口證ノ寫シ

江木殿四三千八百四十五號

第二號證

預リ金催促ノ訴濟口證文

高知縣土佐國土佐郡大川筋十六番地住平民

被告代人

山 中 義 盛

右者原告代人長崎七五三吉ヨリ預金催促ノ儀出訴ニ及ハレ本日對決后原告被告告示談仕リ濟口左ノ如シ

一願高金千圓也

一但該金、高岡郡別枝村ニ有之黒瀧山被告買受ニ付該地券狀被告名義書替出願書面上
該村戸長連印濟之上可相渡等ノ金員ニ付來ル廿五日該戸長役場へ雙方立會ヲ以テ右
連印ヲ受ケ歸村ノ上翌日取渡可致等

一山地並ニ諸木生立代金高三千圓ノ内五百圓ハ地代金ト定メ地券證書替出願可致等
一殘金貳千五百圓ノ儀者差引計算致シ相殘ル分該山立會ノ節上ハ木へ直段切分ケ可
致等

一訴訟中入費ハ前件約定ノ面テ違約致シ候方ヨリ償却可致等尤后日雙方違約無之時ハ
原告ヨリ相償ヒ可申等

明治十三年十月十一日

被告代人

山中 義盛 印

前書被告代人山中義盛ヨリ上申候通り熟談約定濟方仕リ候ニ付此上對決ノ御裁判不奉
願候也

高知縣土佐國土佐郡南町住士族
原告代人 長崎 七五三 吉 印

高知裁判所

刑事津村 郎 殿

右濱口通り原告ハ別枝村戸長役場へ出頭被告ハ違約ニ付テ原告曾方出頭證明証左ノ
如シ

右者本日御場所へ御證印受領之義ニ付田中武七井上正壽雙方立會仕ル等ヲ以テ左ノ通
リ書類渡置キ候處本日田中武七出頭不仕候間此后ヲ田中武七ヨリ左ノ證類持參候外ハ
御證判相蒙リ度此段奉願候也

一 地券書替願書

貳枚

一 地所賣渡證

壹枚

一 地券狀

壹枚

一 濱田幸右衛門宛山地書入證

壹冊

一 幸右衛門熟談書

壹枚

又五廉

明治十三年十月廿五日

井上正壽代理

服部 吉 則 印

高岡郡別枝村戸長御中

右願ノ趣キ出頭候時ハ連印差支無之候事

同日

高岡郡別枝村役所印

第三條

一鑑定人ノ鑑定ハ無効ニ屬スヘキハ右證文ノ成立ト自分カ爾來無筆文盲ナルトノナレハ其證文ハ何ノ某ノ宅ニテ何月何日ニ誰々ノ立會席ニテ某ノ代書シシモノナルヤチ細密ニ審問シ能ク其事實摸樣ヲ偵知シテ其鑑定ノ果シテ効力ヲ有スルヤ否ヤチ知ラセラレ初メテ茲ニ其實際ノ證憑ヲ徴スルハ刑事上ニ關シ最モ必要ナルニ却テ其儀ナク當罪ヲ宣告セラレシハ刑法ノ適セサル哉

第四條

一右二條ニ載セタル濟口證高知裁判所へ奉呈シ已ニ濟口ト相成以後ニ至テ被告田中武七違約致シ則チ濟口違約ノ訴ヲナシ自分者直者ノ裁判ヲ受ケ今般大阪上等裁判所へ控訴ニ及ハレ則チ初審應則チ高知裁判所ニ於テ該裁判ヲ受シ節田中武七代人栗田正經申口ノ寫シ左ノ如シ

申口ノ寫シ

被告代人

栗田正經

申口

答書ニ申立ル明治十三年十月廿三日別枝村役所へ本月廿五日雙方出頭ノ上書類へ戸長印形相受申等ノ處病氣ニテ后日罷越スヘキ旨照會セシ点ニ付證明スヘキモノハ無之事
明治十三年十一月十一日

右 栗田正經 印

第五條

右麻々書類符合セサルヲ視レハ甲第二號證決テ相渡シタルヲ無之者明白ナリ(則チ田中名ヲ宛タル)然レハ御院ニ於テ猶亦真正ノ鑑定アラソフチ奉願候
偽證ヲサス 辨明

凡犯罪ノ事實ヲ推究シテ之ヲ認定スルハ素ヨリ承審裁判官ノ主權タリト雖モ其認定セシ理由ノ性質擬律ノ如何ヲ檢審スルハ亦本院ノ職權ナルヲ以テ今上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ上告者カ詐爲證書ナリト云フ明治十三年二月二十日付田中武七横田彦市宛ノ證書(即チ甲第一號證書)及ヒ明治十三年六月二十三日付横田彦市宛ノ證書(即チ甲第二號證書)武通ニ押捺シアル印影ハ鑑定人井手正武外兩名カ井上正壽ノ實印ナリト證明アリテ武七彦市カ詐爲シタル證據アルニ非サレハ正壽カ武七彦市へ授與シタル真正證書ナリト認定シタルハ不當ト言ヲ得ス然レハ正壽ニ於テ褻キニ取結ヒタル山林賣買ノ證書ヲ以テ殘金請求チ民事ニ訴へ且武七彦市カ證書ヲ詐爲シタル者ト告訴ニ及ヒタル等ノ所爲ニ對シ原裁判所カ賊盜律詐欺取財條ニ依リ未得財ヲ以テ處斷シタルハ適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十八日高知裁判所ニ於テ井上正壽へ申渡シタル裁判ヲ被毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第一千二百廿號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十四年八月廿七日上告
明治十四年十一月八日判決

四八〇

高知縣土佐國土佐郡材木町士族
傍士喜久次

明治十四年六月
三十二年八月

右傍士喜久次ニ明治十四年八月十八日高知裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
被告人儀明治十四年三月八日頃印判鑑定ノ爲メ高知裁判所ヨリ召喚ヲ受ケ出頭シ井上正
壽ナル者ノ印影ヲ鑑定スルニ相違ノ点發見シタルヲ以テ其趣上申及ヒシモ不都合ノ廉之
有直チニ却下セラレ爾後横山祐之ニ面會シ談話ノ際右ノ印影ハ到底吉良蕉雨武田義輝ノ
兩名ニ鑑定仕直ノ義ヲ命セラルヘキハ必定ニ付義輝方ヘハ可然示談致シ吳レ度由依頼有
之其時樋口陟ナル者ヨリ金五圓借受クシ旨ニテ之レヲ義輝ヘ差遣シ吳度トノヲ付其意
ニ應シ持參ノ上談判ニ及ヒシ處更ニ承諾無之ヲ以テ直チニ持歸リ内金壹圓ハ祐之ヘ相渡
シ金四圓ハ費用致シ爾后高知警察署ヘ自首シタル旨趣ハ自分義去ル八日高知裁判所ヨリ
出頭可致候被命候ニ付山頭候處井上正壽ナル者ノ實印ヲ鑑定致スヘク旨被命候故則チ鑑
定致シ候ニ實印ニ無之分有之候故其段上申仕候處云々歸宿ノ際同業ノ横山祐之ナル者自
分ヲ呼ビ候ニ付立越シ長崎七五三番居合跡ヨリ樋口陟モ參リ祐之自分ヘ申候ニハ井上正
壽ノ實印ハ拙者カ欺造致シ候ニ付仕直シ鑑定ノ節不惡様致吳度段申出實ニ不宜儀トハ存
候得共云々然ルニ右欺造云々トハ全ク風説ヲ聞キタル儘ヲ書載シタルマテコシテ決テ井
上正壽ノ曲事ヲ成就セシメントノ旨意ニハ無之旨申立ツレモ該自首狀ノ旨趣ト糾問判事

ノ調書其他ノ證據トニ因リ右被告ノ供述ハ皆ナ現跡ナキトコシテ其所爲井上正壽ノ詐術
ヲ容易ナラシメントスルノ旨趣ニ出テシモノニ認定ス
前條被告人カ罪ハ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜未得財ニ準シテ論シ懲役四十日井上正壽
ノ從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役三十日士族ナルニ付改定律例改正第十三條ニ照シ除族ノ
上懲役三十日役場狹隘ナルニ付答ニ換ヘ答三十ノ刑ニ處ス
喜久次ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月廿七日上告狀及ヒ九月二日其補正
書ノ要旨左ノ如シ

明治十四年八月廿七日上告書

第一 申供及ヒ上申書中ノ事實現跡アラサルヲ以テ他ニ爲メニスルト概定シテ刑名ヲ宣
告スルヲ得ヘキカ否申供及上申書ノ事實ハ素ト行爲言語上ノ歴史ニシテ事多クハ他日
ニ遺ル表徴アルノ理ナシ故ニ不幸ニシテ證據事實ヲ他人ニ信認セシムルヲ能ハサル場合
ニ遭際シ之ヲ以テ直チニ他罪犯ノ從罪ト爲スハ實ニ不法ノ裁判ト謂ハサルヲ得ス此レ自
分カ上告スル所以ノ第一ナリ
第二 正犯アリ而シテ他ノ一人ニ事實ヲ審糺セシテ從犯ナリト認定スルヲ得ヘキカ
否其正犯ト自分トノ間柄ニシテ其正犯ノ罪狀ヲ幫助スルノ事實アレハ是レ將サニ從犯ナ
ルヘシ然ルニ浩翰ノ書類中一ノ其事ヲ證スルモノナシ唯明治十四年七月一日高知裁判所
糾問係判事補德弘千速ノ取り調タル調書中ニ「問申掛ケヲ爲シ濟マス云々」答ニ自分ハ
只申聞ケタル、通御受テ致スナリト謂フタルノミ而シテ其德弘千速カ審糺タル當時全ク

四八一

ノ誘動ニシテ已ニ調書中ニモ其誘動タルヲ明カナレハ自分ハ實ニ其誘動ニ應シタル答言
ヲ爲シタルナリ故ニ畢竟此ノ如キ誘動ノ審問ニ答ヘタル自白ノ其効ナキモノナリ今自分
其誘動ニシテ眞實ノ自白即チ實際徳弘千速ニ答ヘタル如クナラサルハ再度ノ審問ニ於テ
モ亦其以前ノ審問ニ於テモ一ツトシテ誘動ニ應シタル答言ヲ確カナラシムルモノアラズ
且ツ「申聞ケラル、通り御受ケ致スナリ」ト答ヘタルノミニシテ其如何ノ手續タルヤ如何
ノ間柄ナルヤ又如何ノ事實ナルヤ皆ナ之ヲ審問スルヲナシ夫レ如此裁判上緊要ナル事實
ヲ明ニスルヲ無クシテ擅マ、ニ断定シ井上正壽ノ從犯ト爲スハ相忽不法ノ裁判ト謂ハサ
ルヲ得ス是上告スル所以ノ第二ナリ

明治十四年九月二日補正書

自分儀明治十四年八月十八日高知裁判所ニ於テ公判ニ相成共申渡書中ニ「云々祐之自分
へ申候ニハ井上正壽ノ實印拙者カ欺造致シ候ニ付仕直シ鑑定ノ節不惡様致吳度段申出實
ニ不宜儀トハ存候得共云々然ルニ右欺造云々トハ全ク風説ヲ聞キタル儘チ書載シタルマ
テニシテ決テ井上正壽ノ曲事ヲ就成セシメントノ旨意ニハ無之旨申立ツレト該自首狀ノ
旨趣ト糾問判事ノ調書其他ノ證據トニ因リ右被告供述ハ皆現跡ナキモノニシテ其所爲井
上正壽ノ詐術ヲ容易ナラシメントスルノ旨趣ニ出タルモノト認定云々ニヨリ除族ノ上告
三十ノ刑ニ處ス」トノ事ナレト決テ風説ヲ聞現跡ナキヲニ毫モ無之亦々井上正壽ノ詐術
ヲ容易ナラシメントスルノ旨趣ニ出シモノニモ曾テ無之抑モ明治十四年三月十五日附テ
以テ高知縣令へ自首シタルニ毫モ差違イノ点無之然チ高知警察署ニ於テ調了モ無之本年

三月十六日頃ヨリ拘留ニ相成否ヤ糾問係リハ差廻サレ候得共六月九日迄都テ一度ノ調モ
無之係リ判事補徳弘千速ヨリ言跡モ無之糾問ニ預リ實以意外ノ事ニ付存セサル儀チ屢答
辨スルト雖係ニ於ハ横山祐之ノ手續書チ信シ非理ノ糾問ニ被及候處本年七月一日至リ
本日ノ糾問ニ應セサル時ハイッ迄モ拘留致置トノ事ニヨリ自然私意チ差ハサミタル等ノ
意思相顯實以不安儀ニ立至リ候ト思考仕恐レテ生シタル而已ナラス自分ニ於テハ兼テ土
佐郡材木町士族傍士和太郎ノ叔父ニテ同人ノ家屬ニ列シ且同人幼年ニ付自分其後見チ致
シ有之而已ナラス六十有余歳ノ實母有之モ爾來チウ症有之ニ付幼者ノコチフクハ不申及
實母ニ於テモ自分出獄致サ、ルニ於テハ目下ノ飢餓チ難免シト親子ノ愛情ニ引サレ其レ
是レ旁以不止得本年七月一日ノ調ニ應シタリ是レ其日ノ調尾問ニヨレハ不知犯罪シ追テ
誤悔スルモ告訴告發等ニ依テ發露ナス迄隱密ニナシ置ク等ノ事ナレト自分ニ於テハ決テ
然ラス不知犯罪追テ誤悔スレハ直チニ其筋へ自首シ其責メニ任セサルヲ得ス是レ即チ天
網天理我法律ノ免サ、ル所ナルト確考仕候間自首致候

一横山祐之ノ手續書ニ依レハ自分ノ妄言或ハ井上正壽ヨリ金圓受領シ曲事ヲ就成ナサシ
メント企チ成シタル義ト相考申候杯トノ手續書チ提シアレト決テ然ラス自分ニ於テハ高
知縣令へ自首チ爲シタル元根ハ本年三月八日高知裁判所へ印判鑒定ノ爲メ召喚ニ相成出
頭致シ訟庭ニ於テ數多ノ印影鑑定致タル處印判差違イノ廉モ有之候間其段調書セシ處折
節實印不持參ニ付提書却下相成直ニ歸應シ門外ニテ横山祐之使トシテ笹川房ナル者呼掛
ク一寸祐之出張所へ參吳度トノ事ニ付罷越候處樋口勝(勝ハ該訴
代人ナリ)長崎七五三吉居合印判

鑒定ノ儀ハ如何ニテ有之候哉ノ尋テヨリ差違イノ廉有之且鑒定書却下ノ次第申述タル處然レハ明日ハ必ス鑒定仕直シニ相違無之左スレハ果シテ武田義輝吉良蕉雨兩人ト思考ス依テハ武田ニ不惡様鑒定致吳候様ノ引合テ遂ケ置吳度蕉雨ニハ手前ヨリ引合テ遂ケ置キ候間甲第二三號証印形拙者偽造致タル事ハ隱密ニ成置吳度ト顔色不常舉動有之故不止得其意ニ應シ其翌日即チ三月九日將亦祐之ヲ出張所ニ罷越居候處ニ樋口陟長崎七五三吉吉良蕉雨等鑒定歸廳ノ際立ヨリ本日ノ鑒定ノ首尾ノヨキヲ談シ前日約定通七五三吉ハ金五圓陟ヨリ受取リ蕉雨ニ相渡自分ニハ笹川房方ニテ祐之陟七五三吉共ト酒宴ノ節祐之取次ヲ以陟ヨリ受取モ拾圓紙ニ付空ク持歸リ祐之ニ談判ノ上六圓ハ祐之ニ相渡殘金四圓ハ輝ニ持參セシ所受取吳サルニ付空ク持歸リ祐之ニ談判ノ上六圓ハ祐之ニ相渡殘金四圓ハ自分費用致タル譯ニテ是則依頼ニ應スヘカヲ義明瞭タルニ付誤悔致候間高知縣令ニ自首致タル用シ實ニ情理ニ於テ爲テ得ヘカラサル義明瞭タルニ付誤悔致候間高知縣令ニ自首致タル儀ニ付横山祐之ヨリ高知糾問係リ徳弘千速ニ差出有之手續書ハ全クノ虛書虛陳ニシテ言跡モ亦無之事ニ有之候然ルヲ信シ意外ノ糾問及ヒ刑事ニ於テ認定ノ裁判ハ是覺憎ト信シ不服タル所以ナリ依テ原裁判ヲ破毀シ御院ニ於テ更ニ公明至當ノ御判決ヲ奉仰候也

辨明

改定律例第三百十八條ニ罪ヲ斷スルハ證ニ依ルトアリテ其證タルヤ實ニ外形又ハ人言ニ依ルモノトセズ承審裁判官カ心證判斷ニ依ルモノアリ今上告ニ因リ裁判所ノ簿冊ヲ檢審スルコト本案ノ如キハ即チ心證判斷ニ依ルモノニシテ原裁判宣告文ニ明記セルヲ其事

實ニ認定シタル理由ノ性質上不法ト認ムヘキ点アルコトナシ故ニ上告者ニ於テ不當ノ認定ナリト言テ得サルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十八日高知裁判所ニ於テ傍士喜久次ニ申渡シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ナキヲ以テ上告狀却下スル者ナリ

第千三百廿壹號

○判文(盜賊竊主ノ件) 明治十四年九月七日上告
明治十四年十一月八日判決

東京府京橋區靈岸嶋摺町拾八番
地平民

下村丑之助

明治十四年六月

三十年

右丑之助ニ對シ明治十四年八月三十一日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀岩崎吉次郎ヨリ盜贓タルヲ知ラスシテ玄米一石ヲ買取タル旨申立ルト雖モ右吉次郎カ警察署ニ於テ拇印シタル口供並ニ當時ノ景狀即チ米商人ニアラサル者ヨリ一度ノミナラス四度マテ夜間多分ノ玄米ヲ買取タルヲ見レハ初メ警察署ニ於テ拇印シタル口供ヲ信實ノ白狀ト認定ス依テ右科盜賊竊主條ニ依リ坐贓ヲ以テ論シ懲役二十日申付ル
但贓金賠償ノ爲メ資力ヲ追徵ス

下村丑之助於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月七日同三十日附テ以テ本院ニ上

告スル要領左ノ如シ

抑下村丑之助カ岩崎吉次郎ヨリ玄米ヲ買取シタルハ初メ吉次郎カ掃寄セ米ノ趣申聞ルニ
困リ不正ノ物品タルヲ知ラズ買取シタリ故ニ其事實始末書ヲ以テ警察署ニ差出シタル末
警察官ニ於テ口供ヲ作り右始末書通ノ口供ノ旨申聞ケ捺印ヲ命ジタルニ依捺印シタル儀
ニシテ事實相違ノ口供ナリ而シテ嚮ニ差出タル始末書ハ下附セラレ因テ原裁判所ニ於テ右
ノ事實ヲ陳述セシニ其供述ヲ採用セス前供ヲ眞實ト認定セラレタリ夫レ贓品ヲ買取スル
ハ相當代價ヨリ幾分カノ低價ニ買取スルハ普通ノ狀情ナルニ丑之助カ買取シタル米代金
ハ相當代價ニシテ敢テ低價ニアラサルヲ以テ視ルモ其情ヲ知ラサリシ事明瞭ナリ如斯情
ヲ知ラサルノ證憑アルニ原裁判所ハ之ヲ採ラス盜賊窩主條ニ論擬シタルハ不服ナリトノ
事

辨明

上告者ニ於テ曩キニ警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ翻異シ盜贓タルノ情ヲ知ラスシテ買取
セシ旨主張スルモ一ノ反證ヲ提供スルニアラサレハ本案ノ如キハ心證判斷ニ依ラサルヲ
得ズ然ラハ則チ犯罪ノ事實ヲ推究シテ之ヲ認定スルハ承審裁判官ノ主權タルヲ以テ原裁
判官カ前供ヲ眞實ノ白狀ナリト認定セシハ不當ナリト言フヲ得サルモノトス

判決

右ノ如シナルヲ以テ明治十四年八月三十一日東京裁判所ニ於テ下村丑之助ニ言渡シタル裁
判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第千三百廿貳號

○判文(持兇器強盜ノ件)明治十四年八月廿九日上告
明治十四年十一月八日判決

大阪府西北堀江上通三丁目平民

道

本清七

明治十四年八月
三十年十一月

明治十四年八月廿二日大阪裁判所ニ於テ右清七ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年十月廿六日山口寅吉姓不知龜吉カ大阪府平民間清一郎方ニ於テ持兇器
強盜ヲ爲スノ際隙望セシ旨警察署ニ於テ申立今日ニ至リ之ヲ變更シ稻垣伊之助山口寅吉
ノ共犯ニシテ己レハ隙望者ナリト申立山口寅吉モ亦同様ノ陳述ヲ爲スト雖モ寅吉カ現今
共犯人ヲ庇隠スル申立ハ信スルニ足ラス故ニ警察署ニ於テ爲シタル供狀ニ依ルニ寅吉其
方ト兩人共謀シ抜刀ヲ携ヘ押入り但ニ金品奪取リタル旨申立猶又檢事局ニ於テモ前供ヲ
眞實ノ申立ナリト明認シ又被害者間清一郎ヲ審問スルニ二人ノ強盜抜刀ヲ携ヘ押入り金
品奪去リタル旨供述シ彼此ノ申供符合シ共犯者ノ二人ニ過キサルヲ明白ナルヲ以テ其方
於テ山口寅吉ト押入り俱々金品ヲ奪掠セシヲ顯然疑ヲ容ルヘキナシ右贓金七拾四圓九拾
三錢ノ科改正強盜律ニ仍リ懲役終身申付ル

但明治十三年十月十三日山口寅吉等申合セ大阪府平民植村兼次郎方ニ於テ持兇器強盜

ヲ爲スノ際隙望ヲ爲ス贓金六拾三圓三拾九錢六厘ノ科改定律例第百二十八條ニ仍リ本
犯ニ一等ヲ減シ懲役十年又明治十三年十月二十日山口寅吉ノ發意ニテ今井和三郎ト共

謀シ拔刀ヲ携ヘ伏屋巖方ニ押入リタリトノ前供ヲ反異シ瞭望セシ旨申立ルト雖モ山口寅吉今井和三郎カ警察署ノ口供ニ仍ルニ各兇器ヲ持シ共ニ押入リタル旨申立アルノミナラス被害者伏屋巖ニ於テモ三人ノ強盜押入リタル旨陳供シ之ヲ其方ノ前供ト對照スルニ其方ニ於テ共々室ニ入り財ヲ得サルヲ疑テ容レス右科改正強盜律ニ依リ懲役十年先ニ竊盜ノ斷決ヲ受クルヲ以テ初犯ヲ以テ論シ一等ヲ加フヘキ處加等罪ハ懲役十年ニ止マルヲ以テ加ヘス懲役十年並ニ輕シ一ニ從テ科ス尙ホ贓金賠償ノ爲メ資力限取揚ル道本清七ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月廿九日本院ニ差出セシ上告ノ旨趣左ノ如シ

自分儀明治十三年十月廿六日ノ夜大阪府下平民間清一郎方へ山口寅吉ノ發意ニ從ヒ山口寅吉ノ朋友其節姓不知龜吉事後發本姓稻垣伊之助ノ兩人兇器ヲ携ヘ間清一郎ノ裏口ヨリ押入自分ハ其際表口戶外ニテ瞭望罷在候段ハ明治十三年十一月六日西長堀警察署へ捕縛ニ相成候際右ノ始末明細ニ上申仕其後裁判所檢事局ニ於テモ同様ニテ瞭望セシ旨申立在之候處宣告書ニハ其方儀明治十三年十月廿六日山口寅吉姓不知龜吉カ大阪府平民間清一郎方ニ於テ持兇器強盜ヲ爲スノ際瞭望セシ旨警察署ニ於テ申立今日ニ至リ之ヲ變更シ稻垣伊之助山口寅吉ノ共犯ニシテ己レハ瞭望者ナリト申立ノ云ヤト有之候得共素ヨリ自分ニ於テハ戶外ニ瞭望罷在候ニ付警察署ヲ始審裁判所檢事局糾問所ニ至ル迄瞭望セシ旨申立今日ニ至之ヲ變更セシノ宣告ノ趣意甚ク相違セリ尤共犯人ノ姓名ニ始メ姓不知龜吉ト申立後ニ稻垣伊之助トノ人名ノ相違ノ廉ハ在之候得共是ハ全稻垣伊之助ナル者ト自分ト

ハ兼テ知識ノ者ニ非ヌ明治十三年十月廿六日ノ夜間清一郎方へ押入候際山口寅吉ナル者己レノ朋友ノ趣ニテ同伴仕居自分ニ於テハ其節始メテ稻垣伊之助ニ面會仕候ニヨリ其姓名ヲ尋問仕候處唯播州ノ龜吉ト相答ヘ候故龜吉ト相心得其段警察署ニ於テ上申仕置候然ルニ後ニ至リ裁判所糾問所ニ於テ龜吉ハ全ク偽名ニテ本姓稻垣伊之助ナル由山口寅吉ノ陳述ニテ始テ承知仕夫故龜吉ト稻垣伊之助トノ相違ノ廉ハ在之候得共事件上ノ申立ニ於テハ聊變更無御座候

一明治十三年十月廿六日ノ夜大阪府下間清一郎方へ押入候景況ハ山口寅吉稻垣伊之助ノ兩人ハ裏口ヨリ押入自分ハ同家表口ノ戶外ニテ瞭望罷在候處稍々一時間程ヲ經テ兩人共風呂敷包ヲ持表口ノ戸ヲ明罷出其横丁ニテ分配トシテ金八圓申請自分ハ痛處御座候故其儘兩人ニ相分レ候其痛處ト申ハ則宣告書ニ記載在之候明治十三年十月廿日ノ夜山口寅吉ノ發意ニテ今井和三郎ト共謀シ大阪府東區農人橋詰町寄留東京府士族伏屋巖方へ押入候際伏屋巖ノ爲メニ右ノ手首ニ重傷ヲ負ヒ仍テ右手ハ毫モ自由ヲ得サル折柄明治十三年十月廿六日ノ夜間清一郎方へ山口寅吉稻垣伊之助ノ兩人強盜ニ押入候際自分ハ表口戶外ニ於テ瞭望罷在候旨申立候事實ハ十月廿六日午後二時頃山口寅吉ニ面會仕候處山口寅吉自分へ對シテ今晚盜業ニ罷越候様誘引仕候ニ付自分ニ於テ廿日ノ夜伏屋巖方ニテ負ヒ候重傷ニテ苦痛罷在候最中故其由申立一時相斷候處山口寅吉陳シ候ニハ今宵ハ外ニ可然人物壹人同伴致候故戶外ニテ瞭望致吳候旨申候ニ付自分ニ於テ甚困難中ニテ手傷ノ膏藥ヲ購ヘルノ代價ニモ差支罷在候折柄故不得止其意ニ從ヒ同日午後十時頃松嶋廓ニテ出逢候處

前顯ニ中立候稻垣伊之助ナル者ヲ山口寅吉同伴致居候夫ヨリ被害者間清一郎方へ罷越兩人ハ裏口ヨリ押入自分儀ハ戶外ニ瞭望罷在候ニ聊相違無御座候間農人橋詰町寄留東京府士族伏屋邊ニ御照會ニ相成候得者負傷致候テヨリ僅ニ五日間ヲ經シ而已ニテ苦痛ニ堪兼居候故右手自由ナラサルヲ明白ナリ右手自由ヲ不得シテ間清一郎方へ拔刀ヲ携へ押入ノ氣力無御座猶今日ニ至リテモ自分ノ右ノ手首ニ疾跡在之候是其無偽ノ證ニシテ瞭望セシ事明瞭ナリ且宣告書ニハ被害者間清一郎ヲ審問スルニ二人ノ強盜拔刀ヲ携へ押入金品奪去リタル旨供述シ彼此ノ中供符合シ共犯者ノ二人ニ過キサルヲ明白ナルヲ以テ云々ト在之候儀素ヨリ山口寅吉稻垣伊之助ノ二人ハ押入候旨警察署ヲ始裁判所檢事局並ニ糾問所ニ於テモ申立在之候尤被害者間清一郎ノ二人ノ強盜押入シト見留メタルハ山口寅吉稻垣伊之助ノ兩人ハ押入自分ニ於テハ戶外ニテ瞭望罷在候事故被害者ハ戶外ニ瞭望罷在候者ハハ心付キ不中依テ二人ノ強盜押入候ト申立候ト推考仕候自分ニ於テハ捕縛ニ就キ候際ヨリ瞭望セシ科ノミ陳述仕今日至ル迄更ニ異變ノ陳述不申上候則大阪裁判所ノ自分ヲ改正強盜律ニヨリ懲役終身ニ處セテレ候ヲ不當トシテ是ヲ大審院ニ奉告至當ノ處刑被仰付候様奉仰願上也

辨明

上告ニヨリ原裁判所ノ簿冊ヲ涉獵スルニ明治十三年十一月十二日大阪府西長堀警察署ニ於テ同夥山口寅吉カ爲シタル口供ニ「明治十三年十月二十七日午前二時頃春木和二郎(即上告人)發意ニテ自分同謀シ其節名住所不存府下西區新町南通リ二丁目時計商間清(本清七)」

一郎方へ各拔刀ヲ携へ云々トアリ而シテ又寅吉ハ明治十四年二月二十八日原裁判所糾問掛ニ於テ爲シタル口供ニ明治十三年十月二十六日稻垣伊之助ノ發意ニ從ヒ春木和二郎ト道本清七申合西區新町南通リ二丁目間清一郎方へ伊之助及自分ハ拔刀ヲ携サへ押入清七八戶外ヲ見張罷在候云々トアリテ同夥寅吉ノ口供前陳後述不相合モノアリ故ニ原裁判所ハ此後述ハ清七ヲ庇蔭シ前陳ヲ翻異セシモノトシ而シテ其前陳ヲ以テ事實ナリト心證判斷ヲナシタルモノトス然リ而シテ事實ノ認定ハ承審裁判官ノ主權ナレハ曩ニ此認定ニ反對スルノ確證ヲ陳供シナシ置カスシテ今事實ノ上告ヲナスハ筋違ノ上告ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月二十二日大坂裁判所ニ於テ道本清七ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノ也

第千三百廿三號

○判文(竊盜ノ件)明治十四年八月三十日上告
明治十四年十一月八日判決

福岡縣筑後國山門郡清水村平民

姊

川 佐 吉
明治十四年六月

三十三年

右姉川佐吉ニ明治十四年八月廿三日長崎裁判所福岡支廳於テ左ノ裁判ヲ言渡シタル

其方儀明治十一年十二月廿日以來藤吉々平等ト共ニ所々ニ於テ竊盜ヲナシタルヲ無之先

ニ柳川警察署ニ於テ摺印シタル口供ハ同署ニ於テ嚴シク折檻サレ云々申立ルト雖モ其證

跡無而已ナラス藤吉々平ニ於テモ共ニ竊盜ヲナシタル旨當時同シク白狀致シ居ル上ハ先
キノ口供ヲ眞實ノ白狀ト認定ス仍テ右科賊盜律常人盜條及ヒ竊盜條ニ依リニ罪俱發律ニ
照シ一ノ重キ竊盜ヲ以テ論シ尙ホ首從ノ罪併發スルヲ以テ改定律例第七十二條ニ依リ併
贓金百拾圓以上一等ヲ減シ懲役五年再犯ナルニ付一等ヲ加ヘ懲役七年ノ處口供甘結后帶
獄六十八日ニ及フヲ以テ滯獄罪囚減役例圖ニ照シ内三十日ヲ除キ曠過スル三十八日ヲ本
罪内ニ算入シ懲役六年ト三百二十七日申付ル

但現在ノ贓品ハ追徵ス既ニ費用シ現在モサル贓金並贓品ノ活計金共合金貳拾六圓貳拾
五錢ハ藤吉々平ト連帶資力限リ追徵ス質代金四拾八圓六拾錢ノ内三圓五拾錢ハ其身壹
八四拾五圓拾錢ハ藤吉々平ト連帶賠償ス可シ

佐吉ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月三十日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

自分儀明治十二年舊三月(日不)不圖藤吉々平風呂敷包ヲ擔ヒ自宅ヘ參リ色々談話ノ末同
人申向ルニ此品賣却ノ尽力致シ吳問敷哉ノ依頼ヲ受候ニ付如何ナル品物ナルヤヲ相尋候
處是ハ頃日賭博執行仕合能クシテ打勝タル品ナリト相答候ニ付少シク嫌疑ヲ醸シ候ニ
付此品ハ到底賭博品ニハ無之様見受候ニ付寧ロ包マヌ打明スヘシト申向ケタルニ果シテ
竊盜品ナリ依テ折角ノ依頼ナレトモ自分ニ於テモ犯罪ニ依テ懲役ノ御處刑ヲ受昨今僥倖ニ
シテ減等御放免ニ相成タルナレハ是式曖昧物ハ決シテ取扱ヒ不申相斷候處同人申向ル
ニハ折角貴殿ヲ見立態ト罷越タル儀ニ付何卒世話致シ吳候様頼リニ依頼致候ニ付情實不
得止衣類三拾五品(内三品ハ石炭油ヲ誤テ掛ケ候)ヲ筑後國山門郡元吉村(姓不)トリト
ニ付吉平協議ノ上燒拂申候

申者外五名ヘ依頼致シ金拾四圓七拾錢ニ質物ニ入レ該金ノ内金壹圓ヲ私手數料ニ質受ケ
申候然ル處舊三月三日頃三池郡平野村塚本「スエ」方ヘ罷越滯留仕居候處柳川警察署ヨリ
御拘引ニ相成翌日同署ニ於テ藤吉々平竊盜物數品盜物ナルヲ知リナカラ同人ノ依頼ヲ受
ケ質物等ノ取扱ヒ致シタル由詳細申立ツヘシトノ御尋問ニ付備考フルニ右ノ始末ヲ有休
申立テタルキハ吉平ハ竊盜四犯ニ付重罪ノ御處分ヲ受クヘシ且ツ自分ニ於テモ昨今懲役
御放免ニ相成タルナレハ如何ト存シ成程同人カ依頼ヲ受ケ衣類質物ノ取扱ハ仕候得共
盜品ナルヲ知テ取扱タルヲ曾テ無御座聊其情實ハ存シ不申段強情ヲ云ヒ張リタル處暫ク
控ヘ居レトノヲニテ又暫シテ其方ハ情實ハ不知ト頼リニ申立ト雖モ吉平取調ルニ同人カ
申立ニテ詳細明瞭セリ其レニ何ソヤ不知トハ何ヲ以テ云ヤト御尋問ナレトモ矢張強情云イ
張リタル處嚴敷拷問ヲ受ケ候ニ付遂ニ堪兼白狀ニ及ヒタル處質物ノ取扱ヒ致シタル計ニ
無之吉平ト供々竊盜ヲナシタルニ相違ナシ有休申立トノヲナレトモ此儀ニ於テハ決シテ執
行イタルヲ無御座段申立候處情實ヲ知ルト不知トノ聊ノ事ヲ強情云イ張ル者ナレハ所詮
白狀ハ致ス間敷トテ尙一層嚴敷拷問ヲ受ケ候ニ付遂ニ堪兼不得止無實ノ白狀致シ吉平ト
供々竊盜ヲシタル段申立候處聞三日シテ藤吉吉平一同御呼出ニ相成口供御讀聞セ有之候
處吉平申立候ハ佐吉ト供々竊盜ヲシタルヲ曾テ無之段申立候ニ付私ニ於テモ斷然執行
候儀ハ無御座候旨申立候處先般尋問ノ節其方共カ申立テタル通り書綴リタルニ何ヲ以相
違ト云フ哉又々右等ノ強情云ヒ張ルキハ又候拷問ニ及フヘシトノ儀ニ付右ハ恐懼シ當所
ニ於テハ兎ニ角無實白狀ヲスルハ實ニ殘念トハ奉存候得共拇印ヲナシ置追々本署并裁判

所ニモ御送付ニ可相成ニ付其際眞實可申立ト思考シ摺印ヲナシ置候處其儘福岡未決監へ御繫獄ニ相成居候處本年五月十九日長崎裁判所福岡支廳ニ吉平一同御呼出ニ相成先般柳川警察署ニ於テ摺印爲タル口供讀聞スヘシトノ事ナレモ吉平申立候ハ右ハ全ク無實ノ口供ニ摺印ナシタル儀ニ御座候間承ハルニ不及段申立候處此口供ニ於テ何ヲ以テ無實ト云フヤト被申聞候處同人申立候ハ姉川佐吉ト供々竊盜爲シタル事更ニナシ奮質物取扱方ヲ依頼致タル迄ニテ竊盜ナシタル口供テ無御座候得共佐吉殊ノ外ノ嚴敷拷問ヲ受シヨリ右ニ堪兼不得止遂ニ無實ノ口供ニ摺印致シタル儀ニ御座候ト申立タル處佐吉ヲ除ク外ハ相違ナキヤトノコトニ付餘ハ聊相違無御座然ラハ其旨記載シ摺印ナスヘシトテ同人共ハ摺印仕申候依テ私へ被申聞候ハ拷問嚴敷堪兼ルトテ無實ノ事ニ何ヲ以テ摺印ナシタルヤト被御聞候ニ付初發柳川ニ於テ申立タル如ク質物ノ取扱ハ仕候得共竊盜ナシタルコトハ更ニ無之段申立候處其申立ル處ノ證據モナシ且柳川警察署ノ口供ニ吉平共々竊盜ナシタルト有之上ハ該口供ノ通相違有之間敷間右ヲ以テ伏罪シ爾后屹度改心スヘシト御説諭ナレモ前陳ノ如ク其所業ヲ爲シタルコト覺ヘナケレハ何様無實ノ儀ニハ伏罪難仕段申立其儘歸監仕日ヲ經テ御呼出ニ相成先般申立タル儀今一應可申立トノ義ニ付質物ハ取扱竊盜ハナサ、ル云々詳細申立候處右ハ先般申立候通ニハ無之哉トノ義ニ付素ヨリ取扱ヒタル儀ハ聊無包藏白狀仕候ト申立候處其儘歸監被命候又爾三日シテ御呼出ノ上自分取扱タル事件竊盜ノ所業ハ爲サ、ル段等私申立タル通り口供御讀聞ニ相成候條右へ摺印仕置候處豈圖ン哉今般其證據無キ而已ナラヌ藤吉々平ニ於テモ共々竊盜ナシタル段白狀スルヲ以テ別紙寫ノ通

宣告ヲ受候得共吉平ニ於テ供々竊盜ヲ爲シタルコト有之ナド同人供出致シタルコト更ニ無御座且ツ同人ニ於テモ其旨屢々申立供々其所業爲シタルコト無之段口供摺印仕居候儀ニ付吉平ナル者詳細御取糾ニ相成ルキハ同人ノ確言ニ依テ事明瞭可仕奉存候自分ニ於テハ前文之通金拾四圓七拾錢丈ケ質物ノ盡力仕該金ノ内金壹圓ヲ手數料ニ貰ヒ受ケタル而已ニシテ外ニ聊悪行執行ヒタル儀毛頭無御座候依テ明治十四年八月廿三日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ受ケタル宣告不當ノ御裁判ト認メ候條更ニ至當ノ御裁判奉仰候也

辨明

改定律例第三百十八條改正ニ曰罪ヲ斷スルハ證ニ依ルト而シテ其證タルヤ管ニ外形又ハ人言ニノミ依ルモノトモス即チ承審裁判官カ腦裡ニ感覺スル所ノ心証ニ依ルモノアリ故ニ今原裁判所カ認定セシ理由ノ性質ヲ檢審スルニ本犯等カ供述前言後語相合サルヲ以テ之ヲ承審裁判官カ心證ノ判斷ニ歸セサルヘカラサルモノナリトス

判決

前條ノ通ナルヲ以テ明治十四年八月廿三日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ上告人ニ宣告シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下候事
 第一千三百廿四號

○判文(窃盜ノ件) 明治十四年八月三十日上告
 明治十四年十一月八日判決

福岡縣筑後國山門郡中山村平民
 原 田 辰 次 郎
 明治十四年七月
 四九五

右原田辰次郎ニ明治十四年八月廿三日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
 其方儀明治十二年二月廿二日以來堀虎次郎ト共ニ處々ニ於テ竊盜ヲナシタルヲ無之先キ
 ニ柳川警察署ニ於テ摺印シタル口供ハ同署ニ於テ嚴重ノ拷問ヲ受ケ苦痛ニ堪エサルヨリ
 不實ノ白狀ヲナシタル旨申立ルト雖モ其證據無シ加之藤吉々平等ニ於テハ共々竊盜ヲナ
 シタル旨當時同シク白狀致シ居ル上ハ先キノ口供ヲ眞實ノ白狀ト認定ス仍テ右科竊盜四
 犯ナルヲ以テ明治六年第二百六十六號布告竊盜條例ニ依リ懲役終身申付ル
 但現在ノ贓品ハ追徴ス既ニ費用シ現在セサル贓金並贓品ノ沽計金等ハ資力ナキニ付追
 徴セス

辰次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月三十日日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ
 辰次郎儀明治九年二月中竊盜三犯ニ係ルヲ以テ懲役十年御處刑ニ相成居候處追々戰爭軍
 夫其他勤功ニヨリ四等ヲ被減候テ去ル明治十一年十二月中ニ放免被仰付候ニ付翌十二年
 一月ヨリ筑後國三池郡三池石炭山ニ日雇稼ニ罷越居候節同郡ノ木村平民堀虎次郎方へ
 止宿仕居申候然ルニ月日(不覺)右虎次郎ヨリ自分へ依頼ニ及ヒタルニハ妻ナル者ヲ三池
 町迄使ニ差越スヘシト存居候處乳香子有之候テ品物ヲ持行事出來不致候ニ付自分へ小箱
 壹ツ並風呂敷包壹ツヲ壹荷ニシテ荷イ參リ吳候様依頼致スニ付自分モ石炭山へ稼ニ罷越
 ナラハ金三四拾錢モ日雇賃受取事ニ付右使ノ賃錢ヲ相渡吳候者持越可申ト申向ケタル處
 虎次郎答ニハ勿論使賃金ハ可相渡候條三池町姓(不覺)新市ナル者方迄持參リ虎次郎家

内へ相渡自分儀ハ直ニ歸宅仕申候併シ該風呂敷包並箱ノ内ノ品物ハ何品ヲ入組タルヤ更
 ニ存不申候其後虎次郎方へ五六日間モ同居仕居候處自分儀少々持病ノ足痛差起リ候ニ付
 石炭山働モ出來難致候ニ付居村中山村へ歸宅致シ候テ人力車曳商法仕居候處月日(不覺)
 巡查ヨリ柳川警察署へ御拘引ニ相成候ニ付出頭仕候處堀虎次郎藤吉々平共々竊盜致シタ
 ル趣ヲ中立候様御達ニ相成候得共自分ニ於テハ虎次郎ト共々竊盜仕タル儀ハ更ニ無御座
 候且藤吉々平ナル者エハ是迄對面モ不致モノニ有之候ニ付同人ト竊盜致シタル儀ハ更ニ
 無之段再應上申仕候得共一圓御聞入無之其上捕縛ノ上數十度鞭ヲ御打ニ相成何様嚴敷拷
 問ニ相成候ニ付何分堪エ兼苦痛ノ際不得止不實ノ儀ニハ有之候得共共々竊盜仕タル旨ヲ
 偽テ白狀仕候乍併進々虎次郎ヲ御吟味ニ相成候得者實際明瞭可仕ト存候ヲ全ク苦痛ヲ遁
 ノカタメニ偽言ヲ申上候然ルニ其末長崎裁判所福岡支廳ヨリ御召喚被仰付候ニ付出頭仕
 候處最前柳川警察署ニテ口供ノ通り相違有之間敷旨ヲ御尋問ニ相成候ニ付右口供ハ自分
 拷問ニ苦痛ノ際乍心外不實ノ儀ヲ上伸仕居候ニ付此節更ニ實際ノ事情ノ上申仕度旨相願
 候處其日ハ退出仕候様御達ニ相成其後廿日間モ過テ御召喚ニ相成候ニ付前陳ノ如ク堀虎
 次郎方ニ止宿仕候内同人依頼ニ付三池町迄荷物持參仕候儀且又藤吉々平ナル者へハ是迄
 一度モ對面モ不致者ニテ一向存セサル者ニ有之就テハ同人共ト竊盜仕タル儀更ニ無之段
 ナ上申仕口供摺印モ仕申候就右柳川警察署ニテノ口供ハ全ク偽言ニ御座候趣ヲ上申仕候
 其上藤吉々平ヨリモ自分ト一同竊盜仕タル儀ハ毛頭無之旨ヲモ上申仕儀ニ有之候得者自
 分ニ於テハ右吉平ノ申立ル處ヲ實ニ第一ノ確證ト奉存居候處今般長崎裁判所福岡支廳ニ

於本年八月廿三日別紙ノ通御處斷ニ先キノ口供ヲ眞實ノ白狀ト御認定ノ上懲役終身宣告ニ相成タレ何分服シ得サル儀ニ有之候ニ付謹テ奉告候條至當ノ御公判ヲ奉仰候也

辨明

改定律例第三百十八條改正條ニ曰ク罪ヲ斷スル證ニ依ルト而シテ其依證ノ法タル素ヨリ一ナラス今上告ノ旨趣ト原裁判所ノ簿冊ト對觀審理スルニ上告人ハ前陳後述相反スルヲ以テ觀レハ則原裁判所承審裁判官ニ於テ其腦裡ニ感覺スル所ノ心證判斷ニ依ラサルハカラサル性質ヲ含有スル案件ナリトス故ニ其後述ノ口供ニ依ラス又同夥人カ反違ノ口供ヲ採ラサリシハ不法トナスヲ得ス

判決

前條ノ通ナルヲ以テ明治十四年八月二十三日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ上告人ニ宣告シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下候事

第千三百廿五號

○判文(強盜ノ件) 明治十四年八月三十日上告
明治十四年十一月八日判決

兵庫縣播磨國節東郡姫路元本町

二丁目平民

今井和二郎

明治十四年八月

三十九年四月

明治十四年八月廿二日大坂裁判所ニ於テ右和二郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年十月十三日山口寅吉等共々大坂府平民植村兼次郎方ニ於テ持兇器強盜ヲ爲シタルトノ前供ヲ翻異シ山口寅吉ノ誣告ニ係ル旨陳述シ寅吉モ亦誣告シタリト申立レレ寅吉カ今日ノ申立ハ往々共犯者ヲ庇隱スルヲ以信用ス可ラサルノミナラス其方ニ於テ果ノ誣告セラレタル者ト認ヘキ形蹟ナキヲ以テ共犯者山口寅吉道本清七上岡楠太郎カ警察署ノ供狀ヲ審查スルニ皆山口寅吉其方ハ兇器ヲ携ヘ余ノ三人ハ兇器ヲ持セス押入り寅吉其方ハ家人ヲ縛シ又金品ヲ奪取タル旨申立其方カ警察署ニ於テ爲シタル供述ト被害者植村兼次郎カ申立ル盜犯人員等ト對照スルニ其方ニ於テ共ニ室ニ押入り金品奪掠セシ形蹟判然タルヲ以テ右賍金六拾三圓三拾九錢六厘ノ科改正強盜律ニ依リ懲役終身申付ル但明治十三年十月廿日伏屋邊方ヘ兇器ヲ携帶シ押入り強盜ヲ爲サントノ未タ財ヲ得サルトノ前供ヲ反異スト雖モ共犯者山口寅吉道本清七カ警察署ニ於テ其方ト三人押入タル旨申立ノミナラス被害者伏屋邊ヲ審問スルニ三人ノ強盜押入りタル旨陳述シ之ヲ其方カ警察署ノ供狀ト對比スルニ共ニ室ニ押入り財ヲ得サルヲ知ル可ヲ以テ右科改正強盜律ニ依從タルヲ以テ懲役十年輕シ一ニ從テ科スト雖尙賍金賠償ノ爲メ資力限取揚ル今井和二郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月三十日本院ニ差出セシ上告ノ旨趣左ノ如シ

上告人今井和二郎上伸ス抑自分儀本件懲役終身ノ刑ニ處セラレタルハ大坂府下高津新地山口寅吉外ニ通稱熊事上岡楠太郎通稱春木和二郎事道本清七等カ誣告ニ罹リ冤罪ニ處セラレタルモノニシテ強盜杯トハ微毫毫髮モ存セサルヲ有之候而シテ寅吉外二名カ誣告シ

タル原由ヲ温ヌルニ自分儀ハ曾テ米商之者ニテ府下市中各所へ食米用達致シ府下遊廊松島街へ數軒同シシ食米用達致ス處有之之レカ爲メ日々該所へ往來シ折節該遊廊ニアル池田屋ト唱ユル妓樓へ再三偷與シ一夕ノ春情ヲ相樂ミ其折柄該樓ニ於テ酒醉ノ余リ右山口寅吉ナル者ト不圖言語ヲ通シ共ニ酒ヲ相傾ケ當時之物語杯致シ其節初テ顔見知合ニ相成爾來再三度該樓ニテ寅吉へ出會シ共ニ遊興ノ砌妓婦ノ一條ニ付自分寅吉兩人ノ間自然ト互ニ妬心ヲ懷キ候ヨリ一日大ニ爭鬪ヲ生シ爾來互ニ敵視スルノ勢トナリ佞令ニモ言語ヲ通スルコトナシ自分ニ於テハ何レノ時ナリト積怒ヲ誓ヒント存スルノ折柄僥倖ナル哉右山口寅吉ナル者池田屋ニテ營業セシ娼妓ヲシテ竊カニ脱走セシメ該妓婦ヲシテ他所ニ隱匿セシメタル趣意知シタルコト付之レテ直ニ池田屋へ通道シタル處該妓婦ハ之レカ爲終ニ本意ヲ遂ル能ハス再ヒ池田屋へ歸リ娼妓營業ヲ爲スニ至レリ就テ寅吉ニハ倍々自分ヲ敵視シ是今回自分カ寅吉外二名ヨリ冤罪ニ誣告サレタル所以ニシテ其楠太郎清七ノ兩人トハ自分毫モ宿怒ヲ挾ミタルモノニ無之候得共個ハ皆寅吉カ教令ニ畏縮シ冤ヲ告ケタルモノナルヘシ故ニ大阪裁判所ニ於テ警察署ニテ爲シタル口供ハ冤ニ枉セラレタル旨事實ヲ詳ニシ辨駁致シ亦寅吉外二名モ誣告シタリト陳供致シタレハ自分ニ於テハ眞ニ冤罪ナルコト明白ニ有之候而シテ其實際盜業働キタルモノハ當時大阪府監獄署へ繫獄サレシ大阪府東成郡天王寺村内本營藏並ニ姓不詳市太郎ノ兩人カ寅吉等ト共同シテ押入りタル哉ニ有之候段ハ寅吉外二名カ後日ノ仲供スル處ニ有之候然レハ已ニ現在ノ犯人有之其共犯者カ已ニ氏名ヲ指シテ吐露スル處ナレハ自分ニ於テハ全ク冤ニ處セラレタルモノナリ右ノ理由

ナルヲ以テ自分ニ於テハ罪科ニ處セラレ、謂レ毫末モ無之無罪縱放相成ルヘキモノナレハ大阪裁判所ノ裁判ノ不當ナルヲ更ニ被毀セラレ茲ニ公明ナル御裁決アラントナリ只管奉歎願候也

辨明

上告者ニ於テ曩キニ警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ翻異シ強盜ヲ犯セシニアラス誣告ニ罹リシ云々申立シモ當時ノ簿冊ヲ審閱スルニ一ノ反證ヲ提供セサリシニアラスヤ然ラハ則チ犯罪ノ事實ヲ推究シテ之ヲ認定スルハ承審裁判官ノ主權ナルヲ以テ原裁判官カ前供チ眞實ノ白狀ナリト認定判斷セシハ不當ト言フヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月二十二日大阪裁判所ニ於テ今井和三郎へ言渡シタル裁判ハ被毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ
第千三百廿六號

○判文(盜田野穀麥ノ件) 明治十四年八月廿七日上告
明治十四年十一月八日判決

廣島縣安藝國安藝郡戸阪村居住
平民周兵衛三男

田中才太郎

明治十四年八月

二十八年

右才太郎ニ對シ明治十四年八月二十四日廣嶋裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀得遺失物官私ニ送還セサル科ニ依リ一度處刑受ケタル身分ヲモ顧ミス明治十四年八月十一日廣嶋區矢倉下ヲ通行ノ際同所堤防草原ニ差置キアル廣島鎮臺兵卒西村音吉所有ノ夏上衣壹枚盜ミ取ラントモ右科賊盜律盜田野穀麥條人ノ看守スルヲナキ器物ヲ盜ム者ハ云々トアルニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役四十日ヲ打決ニ換ヘ答四十申付ル廣島裁判所詰檢事補吉岡美秀於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月二十七日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

竊テ盜田野穀麥律ヲ按スルニ凡田野ノ穀麥菜菓及人ノ看守スルヲ無キ器物ヲ盜ム者ハ云々トアリ而シテ人ノ看守スル無キトハ何等ノ場合ナルヤハ明示セスト雖モ清律注スル所本職ノ意ト符合ス清律無人看守器物之原註ニ謂原不設守及不待守ノ物ト記シ亦其輯註ニ若原有入看守而偶然無人即不得謂之無人看守矣トアリ然ハ則テ原來看守ヲ設ケス或ハ看守ヲ置テ要セサル器物ヲ盜ム者ニ適用スヘク既ニ看守アリ偶々其人ヲサレテ偵ヒ竊取スル如キニ適用スヘカラサルヤ夫レ明ナリ偶然看守ノアラサル器物ヲ盜ムモノ尙且ツ然リ況ヤ現場ニ看守アルニ於テヤ蓋シ此等ノ犯罪ニハ室內内外ヲ問ハス時ノ晝夜ニ拘ラス竊盜律ヲ適用スヘキモノト信ス抑モ本職カ竊盜ノ罪アリトシテ適用ヲ求メタル被告人田中才太郎カ所爲ハ明治十四年八月十二日兵卒西村音吉カ外出中三篠川ニテ褌袴洗濯ノ爲メ上衣ヲ堤防上ニ脱キ置タルヲ竊カニ盜ミ取ラントスル際音吉ニ覺透セラレ財ヲ棄テ逃走セント遂ニ捕得セラレタルニアリ然リ而シ上衣ヲ竊取セントスル際傍ニ兵卒ヲ居タルハ才太郎カ自認スル所ダレハ看守無キ器物ト云テ得ヘカラサルノミナラス事主音吉カ現

ニ被告人才太郎ノ竊盜セントスル所爲ヲ目撃シ直ニ捕得シタルハ看守スルノ故ニアラスシテ何ソヤ

如此理由ナルヲ以テ廣嶋裁判所カ未得財ヲ以テ論シ懲役四十日ニ處シタルハ適當ナリト雖モ看守スルヲナキ器物ヲ盜ム者トシ竊盜律ニ依ラスシテ盜田野穀麥律ニ依リ竊盜ニ準シテ論タルハ擬律ノ錯誤ト云ハサルヲ得ス是廣島裁判所カ被告人才太郎ニ對シ言渡タル裁判ヲ不法ナリトシテ破毀ヲ求ムル所以ナリ依テ被告人へ成規ノ時限内上告スヘキ旨言渡シ置キ此趣意書ト共ニ一件書類ヲ呈供シ候也

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ田中才太郎カ廣嶋鎮臺兵卒西村音吉ノ傍ニ脱キ置キタル上服ヲ竊取シ直ニ事主音吉ニ捕獲セラレタルハ監守者ナキ器物ヲ盜ム者トナスヲ得ス故ニ才太郎カ罪ヲ斷スルハ竊盜條ニ依リ竊盜未得財ヲ以テ論スルヲ相當ナリトス然ルニ原裁判所ニ出テサリシハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年八月二十四日廣島裁判所ニ於テ田中才太郎ニ言渡タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

田中才太郎
右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ賊盜律竊盜條ニ依リ竊盜財ヲ得サル者ヲ以テ論シ

懲役四十日

○判文(博藏ニ用フル骨牌ヲ製造販賣スルノ件) 明治十四年九月十四日上告
明治十四年十一月八日判決

山形縣羽前國南村山郡山形宮町
平民

鈴木圓次郎

明治十四年九月
三十五年八月

右圓次郎カ所爲ニ對シ明治十四年九月六日福島裁判所山形支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタ

其方儀博藏ニ用フル骨牌ヲ製造シ販賣スル科改定律例第二百七十一條ニ依リ懲役八十日
情法ヲ酌量シテ一等ヲ減シ懲役七十日申付ル

但現在スル骨牌七十二組並ニ製造ノ器具ハ取上ル

山形縣六等警部杉村正謙ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月十四日司法卿ヲ
經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

鈴木圓次郎

右ノ者宣告懲役八十日情法ヲ酌量シ一等ヲ減シ同七十日ニ處斷シ現在スル骨牌及ヒ製造
器具取上ケタルハ適當ノ裁判ナリト雖モ其擬律ノ但書ニ有之通販賣代價ハ追徴セス該代
金ノ如キハ犯禁物ヲ販賣シ爲メニ得ル處ノモノナレハ縱令費用ニ屬スルモ資力ノ限り追
徴スヘキ者ト考量セリ然ルニ費用セシヲ以テ追徴セサルハ不當ノ裁判ト見込タルニ付一

件書類並ニ御參考ノ爲メ本縣伺指令寫相添此段及上告候也

辨明

上告官ハ被告圓次郎カ犯罪ニ對シ原裁判所ノ處斷刑名ハ當テ得ルモ已ニ販賣費用セシ骨
牌代價ヲ本犯資力限ヲ以テ追徴スヘキニ處斷玆ニ及ハサリシハ不法ナリト申立レト斯ノ
如キ場合ニ於テハ唯其現在物ヲ徴スルニ止リ已ニ其費用スル部分ヲ資力ニ及ホシ追徴ス
ヘキノ限ニ非ストス故ニ原裁判所カ其現在物ヲ取上シマテニ止メシハ敢テ不法ト云フテ
得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年九月六日福嶋裁判所山形支廳ニ於テ鈴木圓次郎ニ言渡シタ
ル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシトス

第千三百廿八號

○判文(竊盜三犯ノ件) 明治十四年十月十三日上告
明治十四年十一月八日判決

東京下谷區二長町十九番地土族
竹元正意方附籍正次郎事平民

古田重信

明治十四年八月
二十一年十月

右古田重信ニ明治十四年九月四日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀竊盜ノ科ニ依リ再度處刑受ル身分尙ホ丸山「カッ」方外貳ヶ所ニ於テ盜取ル蝙蝠傘

ハ管守ナキモノナリト申立ルト雖モ該品ハ皆店頭ニ之アリシトノ自認ニ依レハ管守ナキモノト云フヲ得ス又新橋停車場ニ於テ取去タル蝙蝠傘ハ井上定次郎カ遺忘セルモノト信認シ持去リタル者ニテ伊藤斧三郎カ所持ニ係ルヲ盜取タル覺之ナシト抗辨スレモ其方カ囊キニ愛宕町警察署ニ於テナシタル口供并井上定次郎ノ陳述等ニ依リ事實ヲ推測スレハ其方ハ右斧三郎ニ對シ竊盜ノ所爲アルヲ明カナリ仍テ右定次郎ヨリ盜贓ト知り貰受ル金錢共合セテ壹圓九拾五錢ノ科竊盜條ニ依リ三犯ナルヲ以テ懲役十年申付ル

重信ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月十三日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ
抑モ古田重信ニ於テ原裁判ヲ不法ト爲所以第一ハ右言渡書ノ内「丸山」カツ」方外ニケ所云々(中)管守ナキ者ト云フヲ得ス」トアリ又第二ハ同言渡中「又新橋停車場以下伊藤斧三郎カ被害ノ事實」是ナリ故ニ順チ行ヒ以テ其不法ナルヲ駁論開伸スルヲ左ノ如シ
第一丸山「カツ」方外ニケ所ニ在ル蝙蝠傘タルヤ皆店頭ニ之アリシトノ自認ヲ以テ管守ナキ者ト云フヲ得サルニ似タリト是レ實ニ不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス如何トナレハ其店前タルヤ果シテ軒下ヨリ内ナル者ト誤認シタルト丸山「カツ」ニ於テハ該蝙蝠傘ハ客人ノ遺失シタル者ニヤ己カ所有品ニハ非サルノ申立アリタルト又外ニケ所ノ蝙蝠傘ハ皆所有主ノ分明ナラサルノ遺失品ナルト是ナリ
夫レ人家ノ軒下ヨリ以外ニテ其所有主分明ナルモ管守ナキ者ハ盜田野穀麥律ニ非スヤ然ルニ自分ノ所爲タルヤ其品主無キノミナラス人ノ遺失品ニ係ル彼ノ軒外ニアル物品ニ於テハ固ヨリ管守アルノ理ナキハ言テ俟タサルナリ然ルヲ原裁判所ハ管守アル者ヲ竊取シ

タリト云フハ抑モ何ノ故アリテ然ルヤ實ニ言語ニ堪サルノ不法裁判ト云フヘキナリ
第二ノ場合即チ伊藤斧三郎カ被害ノ事實タルヤ尤モ壓制不法ノ裁判ナルカト疑チ容ル、ニ至ルノ裁判ナリトス如何トナレハ新橋停車場ニ於テ井上定次郎ナル者現ニ伊藤斧三郎ニ對シ騙取ノ所爲アルハ已ニ東京裁判所ニ於テ自白スル處ニテ尤モ其始メ本人ニ於テハ自分ヘ負罪セシメント欲シ愛宕町警察署ニテ自分ノ所爲ナルヲニ申立タリ又自分ニ於テモ該警察署ニ於テ後口手金ニテ二晝夜間拘束セラル、ノミナラス拷問打撃ニ過フノ困苦ニ堪ヘス一時之カ苦痛ヲ免レンカ爲自分ノ所爲ナルヲ自白シタリ然レトモ是レ至ク一時ノ方便ニ出タル者ナレハ原裁判所ニ於テ右ノ次第ヲ申立ルモ御採用無之且ツ井上定次郎モ已ニ前非ヲ悔ヒシナランカ全ク愛宕町警察署ニ於テ申立タルハ相違ニテ拙者ノ騙取シタル者ト實白スルニ至ル然ルニ原裁判所ハ是レ等ノ事實ヲ輕々ニ附シ去只贓品ノ現所持人即チ自分ヲ以テ盜取シタル物トスルハ抑モ壓制不法ノ裁判ナルカト疑チ容ル、所以ナリ
右ノ理山ナルニ因リ原裁判ヲ破毀セラレ本衙ニ於テ更ニ公明適法ノ御宣告アラシメテ重テ奉懇願候

辨明

上告ノ旨趣ハ專ラ事實ノ推定ニ對スルモノナリ故ニ原裁判所ノ簿冊ニ就キ審檢スル其推定セシ理由ノ性質上不法ト認ムヘキ廉アルヲナシ

判決

右ノ如クナルニヨリ明治十四年九月四日東京裁判所ノ處斷上破毀スヘキ理由ナキニヨリ上
警狀却下スルモノ也

第千三百廿九號

○判文(竊盜再犯瞭望ノ件)明治十四年八月十五日上告
明治十四年十一月九日判決

東京府下南豐嶋郡原宿村平民

秋元萬次郎

明治十四年七月
十九年六月

右秋元萬次郎ニ明治十四年八月十五日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀黨類淺原德太郎カ當初警察署及ヒ糺問掛ニテ申立タル口供并ヒニ同人ノ盜贓ヲ隱

匿シタリト自認スル所ニ依リ事主大嶋與市郎ノ陳述ヲ參照シ其實實ヲ推測スレハ即チ深

谷在與市郎宅ヘ德太郎カ兇器ヲ携立入財ヲ得ル際外ニ在テ瞭望シタル者ト認定ス其他義

キニ處刑受ル節竊盜再犯贓金二十壹圓余ヲ包藏スル右科改定律例第二百二十八條ニ依リ本

犯ニ一等ヲ減シ懲役十年情ヲ量リ尙ホ一等ヲ減シ懲役七年曩キニ懲役九十日ノ處二十日

ノ處斷ヲ經ルヲ以テ剩ル懲役七十日合セテ懲役七年ト七十日申付ル

萬次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月廿四日日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

自分儀昨明治十三年九月中上州深谷稻荷町住齋職加藤藤次郎方ニ淺原德太郎共々同宿至

居候節日不覺午後十時頃右德太郎遊歩ヲ促來候得共今夕ハ行カサル旨相對ヘ候ニ依リ德

太郎單身立去リ自分ハ其儘假寐致居候而ノ同夜一時頃德太郎別人二名ヲ具シ戶外ニ呼起

シ候故左右ナシ立出相迎ヘ候節カノ二名ハ各自ニ歸去シ尋テ德太郎一箇ノ風呂敷包ヲ以

テ相託シ候故自分請取之ヲ牀下ニ匿シ置キ翌朝德太郎立合ニテ該包ヲ開キ品物相改候上

之カ賣却ノ依頼ヲ受ケ候得共當時自分於テモ所持金無之故一先東京ニ赴キ后チ右代價可

仕拂旨約定致候次第ニテ在外瞭望等ト宣告セラレタルハ全ク事跡ナキ儀ニ有之尤警察署

等ニテナシタル摺印ハ德太郎右犯罪ノ節加功セサル由ノ摺印ヲ捺候儀ニ有之候事實右ノ

通ニ候間何卒更ニ相當ノ御處決被仰渡候様奉願候也

辨明

萬次郎ニ於テ淺原德太郎カ強盜ヲ犯セシ際外ニ在テ瞭望セシ所爲ナキ者ノ如ク縷陳スト

雖モ萬次郎カ德太郎ノ依頼ヲ受ケ其盜贓品ナルヲ了知シ賣却シタリト自白スル所ノ口供

ト德太郎カ當初原裁判所糾問掛及ヒ愛宕町警察署ニ於テナシ口供又ハ大嶋與市郎カ強

盜届書等トニ參照シ德太郎カ與一郎宅ニ於テ兇器ノ携ヘ金圓物品ヲ奪取セシ際外ニ在テ

瞭望シ財物ヲ接遞セシ所爲アリシト原裁判所カ認定シタル理由ノ性質上不法トスヘキ点

アルヲナシ

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十五日東京裁判所ニ於テ秋元萬次郎ニ言渡シタル裁判

ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也

第千三百卅號

○判文(地券書換願ヲ怠ル件)明治十四年八月十八日上告

明治十四年十一月九日判決

五〇九

五二〇 德島縣阿波國勝浦郡澁野村平民

明治十四年八月

其方儀先代死亡後跡相續ヲ爲シ其所有アリシ地所ヲ讓受ケ其日ヨリ六箇月以内ニ地券書

換願書ヲ戸長役場へ不差出罪明治十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則第五條及ヒ明

治九年地租改正事務局甲第一號布達ニ據リ地券一通ニ係ル書換證印稅五倍ノ科料金五錢

ヲ科ス

德島縣七等警部丸山重俊ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月十八日付ヲ以テ司法卿

ヲ經由シ本院請檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

傳藏儀明治九年十一月二十五日亡父利吉ノ家督ヲ相續シ地券一通ヲ讓受ケタルニ付明治

十三年第五十二號公布第五條ニ依リ滿六ヶ月以内ニ名面書換ヲ出願ス可キ成規ナルモ被

告傳藏ニ於テハ其手續ヲナサス荏苒放擲シテ顧ミズ明治十四年七月十五日ニ至リ漸ク始

テ其書換ヲ出願シテ故ニ此犯罪ハ明治九年十一月二十六日ヨリ滿六ヶ月後即チ明治十

年五月廿五日ニ始リテ明治十四年七月十五日ニ終リタルモノナレハ明治十四年七月以後

ニ繼續セシ一箇ノ犯罪タルコト言テ然ラハ則明治十四年第三十號公布改正證印稅實

施以後ニ係ルヲ以テ該稅則ニ依リ證印稅三錢ノ五倍ヲ科ス可キヲ以テ當然トス然ルヲ今

裁判官ニ於テ明治十四年七月以前ニ止マル犯罪ナリトシテ仍ホ舊律ヲ適用セシハ不法ノ

裁判ニ付破毀ヲ求ムル爲メ別冊一件書類ヲ添へ此段及上告候也

傳藏カ明治九年中死没シ其家ヲ相續セシハ六箇月間ニ地券面ヲ届ケ出テ書換ノ手續ヲ爲

スヘキニ其手續ヲ爲サス繼續シテ明治十四年七月ニ至リシ所爲ハ明治十三年第五十二號

布告土地賣買讓渡規則第五條死亡者失踪者ノ家督相續云々ニ由リ土地ヲ讓受ケタル者ハ

親族(親族ナキモノハ近隣ノ戸主)ト連印ノ上戸長役場ヲ經テ地券(書換裏書)願書ヲ管轄

廳へ差出スヘシ若シ家督又ハ遺産物相續ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ戸長役場迄之ヲ差出サ、

ル者ハ證印稅五倍ノ科料ニ處ストアリ又明治十四年第三十號布告證印稅則中左ニ掲クル

モノハ券面代價ノ有無ニ拘ハラヌ券狀壹通ニ付三錢トス代換授與並ニ水火盜難ニヨリ地

券書換云々トアルニ依リ地券一通ノ書換證印稅三錢ノ五倍即チ金拾五錢ヲ科スヘキ者ト

ス然ルヲ原裁判所カ明治九年地租改正事務局甲第一號布達ニ依リ科料金五錢ト言渡シタ

ルハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月十日高知裁判所德島支廳ニ於テ辻傳藏ニ言渡シタル裁

判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ明治十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則及ヒ明治

十四年第三十號布告ニ照シ

辻 傳 藏

五二一

第千三百卅壹號

○判文(竊盜ノ件) 明治十四年九月五日上告
明治十四年十一月九日判決

三重縣伊勢國員辨郡山口村平民
周一兄

藤井 勘兵衛

右勘兵衛ニ對シ明治十四年八月二十五日名古屋裁判所管内四日市區裁判所ニ於テ左ノ裁判
三十四年四月

ヲ言渡タリ

其方儀明治十四年八月四日日本鄉村種村利八方ニ忍入リ純子女着壹枚外二十三点ヲ竊取シ
タル駐金六拾八圓三拾五錢竊盜律ニ依リ懲役一年半一等ヲ酌減シ懲役一年申付候事
藤井勘兵衛ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月五日附テ以テ本院ニ上告ノ旨趣左ノ
如シ

抑自分儀本年六月中ヨリ當縣下伊勢國桑名郡桑名南魚町平民沼「ナエ」ナル者方ニ於テ米
商營業ノ爲止宿罷在候處本年七月三十日員辨郡山口村平民藤岡作太郎同新次郎ノ兩名方
ハ貸金催促ノ爲標記沼「ナエ」ナル者ノ依頼ヲ受テ同村自分實家ニ立歸リ八月四日迄滞在
同日午前第八時頃ヨリ桑名表ニ歸路右山口村ノ内字玉垣山下稱スル所ニハ至テ風流ノ小
橋有之候ニ付持歸リ鉢植ニ可致心得ニテ立入候處右小松原ノ中ニ菰包ニ之物品有之ヲ認

候處風呂敷包中ニ着類數千点有之因テ直ニ南天社警察御署ニ御届可仕ト存候得ヒ當日
桑名表ニ書急キタル要用有之ヲ以テ無届ニシテ桑名表迄持參仕同所警察御署ニ届出ルノ
心底ニテ罷越テ途中曾テ惡意ナル桑名寺町伊藤惣五郎方ニ立寄候處同人不在中同人ノ妻
ノミニ候間自分暫時要用相濟シ候迄該包預リ吳下依頼致シ候處同人ノ曰ク何品ナル哉ト
問フニヨリ是ハ亡家内ノ物品ナリト答フルニ同人亦曰ク若賣物ナレハ貰受可申旨ニ付賣
物ニハ無之后刻相談可致ト申置キ自分ハ要用ヲ濟シ兼テ同所警察署詰巡查衆ノ内知ル顔
ノ人モ有之依テ前顯ノ物品ハ同御署ニ届出可然者哉相伺ヒ可申ト存シ該御署ニ表ヨリ會
テ知ル人ノ不在ヲ窺フニ不幸ニシテ不在署ナリ因テ同日午後八時頃前書惣五郎方ニ立
戻リ相談スルニト存シ該家ニ着スルヤ否突然忍ヒ巡查衆該家ニ御出張ニ相成直チニ警察
署ニ御拘引ニ相成翌五日一尋巡查箸尾喜三太殿ノ御訊問ヲ受前書ノ始末有休ノ儘上申仕
口供相濟タル上御拘留ニ相成候事

然ルニ八月十七日再ヒ御訊問ニ相成前陳述ノ通り事實上伸仕候モ箸尾殿外二名ノ巡查衆
ヨリ被仰聞候ニハ其方原籍隣村本鄉村平民種村利八方ニ忍入盜取致シタルニ相違無之殊
ニ其方儀ハ先年中利八長男八右衛門戸長奉職中筆生モ致シタル者故該家ノ様子能承知有
之ニ依リ今般ノ物品其方竊取致シタルニ相違無之下嚴重ノ強問ニ掛ラレタルモ全ク自分
ハ拾ヒ得其届方等關ニ致シ置タル者ニ付萬々事實ヲ上申スルモ更ニ御聞届無之其酷責ナ
ルヲ以テ實ニ堪サルヨリ寧ロ竊盜服罪可致ト心得忍入竊盜シタル旨上伸仕候得共決シテ
忍入竊盜致シタル儀ニハ無之其證タルヤ同警察署詰姓名不知其際御訊問所ニ御立合ノ内

一名ノ方ニ本鄉村利八方其罪跡ノ様子ヲ聞知シ初メテ罪跡ノ始末上伸仕候事其後四日市警察署及ヒ四日市區裁判所ニ於テモ一應御尋問ヲ蒙リ候際前々桑名警察署ニ於テ口供ノ通リ相違無之哉ノ段御尋ニ付自分ニ於テモ事實拾得タル物品ノ趣キ上申可仕ト存スルモ桑名警察御署ニ於テ口供兩様ニ渡リ前後共摺印仕有之加ルニ同御署ニ於テ酷責ノ御尋問アリタルヲ恐レ再ヒ強問ノ有無心痛難堪ニ依リ前口供ノ通リ相違無之段御答申上置候處豈計ラシ御宣告狀ニ依リテハ竊盜律ヲ以テ懲役一ケ年ノ御處刑ヲ蒙リタリ拾ヒ得タル物品届方等閑ノ麻ニ依リ相當ノ御宣告ヲ蒙ルモ忍入竊取ノ二点ニ於テハ事實齟齬ノ御裁判ト服罪難仕何トナレハ桑名警察署ニ於テ一度拾ヒ得タル口供相濟而シテ后苛酷ノ強問ヲ以テ罪ニ服サシメラレタル段萬々不服ニ御座候間何卒事實御憫察ヲ以テ上告ノ旨趣御採用奉仰キ候以上

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ藤井勘兵衛ハ嚮ニ警察署ニ於テ竊盜ヲナシタリトノ口供ニ摺印シ原裁判所ニ於テモ前供ノ眞實ヲ證シタル口供ニ摺印ヲナシ一モ竊盜ヲナサストノ中立アルヲ觀ス而テ今其事實ヲ翻異シ上告ヲ爲スト雖モ止タ口頭ノ陳述ノミニシテ採用スヘキ者ニ非ス故ニ原裁判所ニ於テ賊盜律竊盜條ニ依リ處斷シタルハ不法ノ裁判ト爲スト得ス

判決

右ノ如ク成ルヲ以テ明治十四年八月二十五日名古屋裁判所管内四日市區裁判所ニ於テ藤井

勘兵衛ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者ナリ
第千三百卅貳號

○判文(雇人盜ノ件) 明治十四年八月廿七日上告
明治十四年十一月九日判決

福岡縣筑後國上妻郡豐福村平民

政平三男

宮

原 岩 吉

明治十四年七月

右岩吉ニ對シ明治十四年八月廿二日長崎裁判所管内久留米區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡

其方儀樋口卯平方雇ハレ中明治十三年八月十五日同家ノ金錢衣類等盜取ル贓金合テ三拾四圓三拾錢ノ科改正雇人盜家長財物律ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ懲役百日事已ニ告發ヲ經ルト雖モ未タ知ラスシテ自首スルヲ以テ改定律例第六十條ニ照シ免罪ス可キ處贓貳拾八圓八拾錢ハ徵セラレサルニ付仍ホ例第六十四條ノ法ニ依リ懲役九十日ヨリ二等ヲ減シ懲役七十日申付ル

但自首シテ不盡ナルハ罪盡ルヲ以テ論セス

又現在スル贓品ハ事主ニ追還ス費用シタル質代金ハ質取主ニ還償セシム可キ處資力無之ニ付追徵ノ沙汰ニ及ハス

福岡縣六等警部手塚弘ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月廿七日司法卿ヲ經由シ

本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

被告宮原岩吉カ所爲タル別紙口供ノ通明治十三年八月十五日雇主樋口卯平カ金錢品物ヲ竊取シタル未發露ノ事機切迫スルヲ覺知シ逃走スル者ニシテ被害者樋口卯平ニ於テハ岩吉カ所業タルヲ明知シタルヲ以テ證據ヲ揚ケ明治十三年八月十八日福嶋警察分署へ告訴テナシ官亦已ニ罪犯ノ名ヲ知り即時相當其手續キテ爲シタル后チ明治十四年七月三十一日實兄喜平ノ申聞ケニ依リ久留米警察署へ自首セシ者ナルヲ以テ長崎裁判所管内久留米區裁判所へ公訴及ヒタル處別紙宣告案ノ通處斷致シタリ其改正雇人盜家長財物律ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ懲役一百日ト擬定セシハ其當ヲ得ルト雖モ事已ニ告發ヲ經ルト雖モ本犯未タ知ラスシテ自首スルヲ以テ例第六十條ニ照シシ未發自首ト同ク論シ免罪シタルハ不當ノ裁判ナリト考量ス何トナレハ該條ノ意ヲ案スルニ例令へハ強盜財ヲ奪ヒ逃走スル者アリ其事已ニ官ニ發覺スルモ本犯ニ於テハ發覺セシヤ否ヤヲ知ラス官亦罪犯ノ誰タルヲ知ラスシテ搜索中本犯自ラ首出セシ者等ニ適用スヘキ法律ニシテ本件ノ如キハ被害者ノ告訴ニ出テ官已ニ罪犯ノ岩吉ナルヲ知了シ相當手續ヲ爲シタル者ナレハ例令ヒ本犯ニ於テ自首ナシタル犯事ノ官ニ發覺セシヤ否ヲ知ラスト云ト雖モ固ヨリ該條ニ依リ處分スヘキモノニ非ラス况ンヤ實兄喜平ニ面會シ一時モ早ク官ニ自首セヨノ申聞ケニ依リ首出セシ者ナレハ犯事ノ官ニ發覺セシヲ了知セシハ瞭然タリ則チ該犯ハ例第五十九條官ノ捕獲セント欲スルヲ聞テ自首スル者本罪ニ一等ヲ減ストアルニ依リ處斷スルニ相當ナリト思量セリ而シテ其末段ニ至リ贓貳拾八圓八拾錢ハ費用シテ徵スルヲ能ハサル

ニ付仍舊例第六十四條ノ法ニ依リ懲役九十日ヨリ二等ヲ減シ懲役七十日ト申渡シタリ今復ニ該區裁判所ノ處斷ノ如ク本案ハ免罪スヘキ者トナスルハ則チ徵スルヲ能ハサル贓貳拾圓以上懲役八十日ヨリ二等ヲ減シ懲役六十日ト處斷スルヲ相當トス如何トナレハ例第六十四條中追徵スルヲ能ハサレハ五十圓ノ贓ヨリ二等ヲ減シ云々其餘ノ贓罪モ亦之ニ準ストアリテ該條ハ其徵スル能ハサル贓ノ爲メ受クヘキ刑ニシテ本罪ノ性質ニ連及スヘキモノニ非ス抑該犯口加等シタル雇人タルノ身分ナルヲ以テナリ然ルニ雇人盜ノ本罪ヲ免シタル上ハ其罪ヲ論定シタル竊盜贓ノ單ニ徵スルヲ能ハサル貳十八圓八十錢ノ罪ヨリ二等ヲ減シ處斷セサルヲ得ス是レ該裁判ハ其當ヲ失シタル者ト見認メ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

上告ニ付原裁判所ノ書類ヲ涉獵審按スルニ原裁判所カ宮原岩吉ノ犯罪事實ニ對シ例第六十條ニ依リ未發自首ト同シク論シ徵ス可カラサル贓貳拾八圓八拾錢例第六十四條ニ照シ懲役九十日ヨリ二等ヲ減シ同七十日ト申渡シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノニテ不法ノ裁判ト言ハサルヲ得ス何ントナレハ被害者樋口卯平ニ於テハ被告岩吉カ所爲ナルヲ明知シ證據ヲ揚ケ明治十三年八月十八日福嶋警察分署へ告訴ナシタルハ即チ例第六十條二項ニ官罪犯ノ名ヲ知ラスシテ自首スル者ハ仍ホ未發自首ト同シク並ニ罪ヲ免ストアリテ前掲ノ如ク岩吉ノ所持タル被害者告訴ニ依テ官之ヲ知了シタルハ例第六十條初項ハ岩吉カ事實ニ適當セサル律條ナリ又岩吉カ犯罪タル改正雇人盜家長財物律ニ依テ論シ贓金三十四圓三十錢懲役一百日例第五十九條ニ依リ一等ヲ減シ懲役九十日ト處斷ス可キ

原裁判所カ論決茲ニ出テサルハ是亦不法ト云ハサルヲ得ズ

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年八月廿二日長崎裁判所福岡支廳管内久留米區裁判所ニ於テ宮原岩吉ニ言渡タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

宮原岩吉

前ニ辨明スル如クナルニ因リ賊盜律改正雇人盜家長財物律ニ依リ贓金三拾四圓二十錢懲役一百日例第五十九條官ノ捕獲セントスルヲ聞テ自首スル者本罪ニ一等ヲ減シ懲役九十日

但得ル處ノ贓品ハ資力限リ追徴ス
第千三百卅三號

○判文(詐稱官ノ件) 明治十四年八月廿九日上告
明治十四年十一月十日判決

長野縣信濃國下高井郡平穩村平民

新井吉三郎

明治十四年八月二十一年三月

右吉三郎カ所爲ニ對シ明治十四年八月二十五日松本裁判所管内飯山區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シテ

其方備巡查番所ノ差遣ト詐稱シ生玉八藏方ニ至リ同人ヲ申畏シ金九圓五拾錢ヲ受領ス

ル科詐稱官律ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役六十日申付ル

長野縣入等警部小林隣之助ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月二十九日附テ以テ大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ

長野縣信濃國下高井郡平穩村平民新井吉三郎カ官司ノ差遣ト詐稱シ財ヲ得ル贓金壹圓以上詐僞律詐稱官條ニ依リ重ニ從ヒ懲役七十日ノ見込ヲ以松本裁判所管内飯山區裁判所ニ公訴候處裁判官ニ於テハ別紙甲號口供ニ依リ乙號宣告書ノ通其輕キニ從ヒ贓罪ヲ以論シ懲役六十日ニ處斷相成タリ右裁判ハ頗ル當テ得サルモノトス何トナレハ官司ノ差遣ト詐稱スル罪ハ處犯輕シモ懲役七十日ニ止ルヲ以本犯ノ財ヲ得ルノ罪ハ乃チ懲役六十日ニ該ルモノナレハ其重キニ從ヒ詐稱官ノ本刑ヲ科スヘキハ當然ナリト思量ス然ルチ前顯ノ如ク財ヲ得ルノ罪贓ニ計ヘ竊盜ニ準シ處斷爲シタルハ不當ノ裁判ト確認スルヲ以該裁判ノ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

被告人新井吉三郎カ所爲ハ詐僞律詐稱官條官司ノ差遣ト詐稱シ云々犯ス處輕キ者ハ杖七十若シ財ヲ得ル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シ重キニ從テ論ストアルニ依リ處斷スヘキニ原裁判所ノ裁判茲ニ出テスシテ詐稱官律ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役六十日ノ言渡シヲ爲シタルハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年八月二十五日松本裁判所管内飯山區裁判所ニ於テ新井吉三

郎へ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

五二〇

新井吉三郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ詐偽律詐稱官條犯ス處輕キ者ニ擬シ
懲役七十日

但贓罪ハ輕シ本議ノ如シ
第千三百卅四號

○判文(竊盜ノ件)明治十四年八月廿五日上告
明治十四年十一月十日判決

大分縣豐後國日田郡東有田村平

民政作長男

差

川勘吉

明治十四年八月
二十二年五月

右勘吉カ所爲ニ對シ明治十四年八月二十二日熊本裁判所管内豆田區裁判所ニ於テ左ノ裁判
ヲ言渡シタリ

其方ニ於テ明治十四年八月七日夜同村財津作市所有ノ估計金五拾五錢ニ該ル拾一枚ヲ竊
取シタル未自首シタル始末ハ豆田警察署警部ノ面前ニ於テ摺印ヲ爲シタル口供ノ通相違
無之旨申立事主財津作市ノ盜難届及ヒ手續書ト符合スルニ依リ其行爲ヲ執云之レテ法律
ニ照ルニ今其方カ他人ノ衣類ヲ竊取シタルハ則チ賊盜律竊盜條ノ罪ヲ犯シタルモノナリ
トテ因テ賊盜律竊盜條ニ照ルニ贓金壹圓以下懲役五十日可申付處原告官ニ於テ陳告自首ナ

リトスルモ例第六拾九條凡知人欲告而首ト稱スルハ名ヲ指テ官ニ告ケ事已ニ發セント欲
スルコトヲ知テ自首スル者ヲ謂フトアレハ其方ニ於テ作市カ官ニ告ケ事已ニ發セントスル
ヲ知テ自首シタルニ非ラス官未タ其方カ竊取シタルコトヲ知ラスシテ自首スルモノニ付例
第六十條凡罪ヲ犯シ云々及ヒ官罪犯ノ名ヲ知ラスシテ自首スル者ハ仍ホ未發自首ト同ク
並ニ罪ヲ免ストアルニ依リ事未タ發覺セズシテ自首スルモノト同シク其罪ヲ免ス

大分縣十等警部安東喜生三ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月廿五日附テ以
テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

明治十四年八月十八日大分縣豐後國日田郡東有田村平民菱川改作長男菱川勘吉(幼名伊
吉)ナル者大分縣豆田警察署へ出頭自分儀心得違ヒ致候段自首スルヲ以テ直ニ二等巡查
森永策郎ニ於テ取糾シ調書ヲ認メ差出シ候ニ付即日財津作市喚出狀ヲ發シ翌日明治十四
年八月十九日出頭致シ犯人菱川勘吉一同取糾候處別紙口書及ヒ手續書ノ通供出ス事主財
津作市ニ於テ告訴書差出スノ存意ナレト喚問ノ迅カナルニ依リ訴狀ヲ認メ差出ス手數ヲ
致サ、ル旨申出ルニ付推テ訴狀ヲ徵セシ其始末ヲ手續書ニ認メサセ之ヲ徵シ而シテ犯人
菱川勘吉カ罪ハ賊盜律竊盜金一圓以下懲役五十日ニ該ル處事已ニ發覺シ事主作市ノ告
訴スル處ニ決定セシコトヲ知テ自首スル者ニ付改定律例第五十九條ニ凡罪ヲ犯シ人ノ官ニ
陳告セント欲スルコトヲ知テ自首スル者ハ本罪ニ一等ヲ減スル律ヲ改メ減ニ等ニ從ヒ云々
トアルニ依リ本罪懲役五十日ニ二等ヲ減シ懲役三十日ノ見込ヲ以テ明治十四年八月廿日
熊本裁判所管内豆田區裁判所へ及求刑候處同區裁判所ニ於テ明治十四年八月廿二日別紙

五二一

裁判官渡書ノ通其罪ヲ免スト裁判ヲ爲シタリ依之尙ホ律例ヲ按スルニ例第六十條ニ凡罪

五三二

ヲ犯シ事已ニ告發ヲ經ルト雖モ本犯未タ知ラス及ヒ官罪犯ノ名ヲ知ラスシテ自首スル者ハ仍ホ未發自首ト同ク並ニ罪ヲ免ストアルモ本條ハ菱川勘吉カ如キ所爲ニ適當スヘキモノニ非ラス又例第六十九條ニ凡知人欲告而首ト稱スルハ名ヲ指テ官ニ告ケ事已ニ發セント欲スルコトヲ知テ自首スル者ヲ謂フトアルモ其下文ニ眞ニ罪ヲ悔ル心ナク事發シ罪ヲ畏ル、ニ因リ首出ス故ニ本罪ニ二等ヲ減ス云々トアリ本條ハ單ニ訴人者カ既ニ官ニ告訴告發ヲ經ルノ后事已ニ發セント知テ自首スル者而已チ指テ謂フ律意ニハ非サル可シ本犯勘吉カ所爲ノ如キ既ニ事主ヨリ名ヲ指シ官ニ陳告セント欲スルコトヲ知テ自首スル者モ本條ニ適當ト思考ス抑事主財津作市ハ豆田警察署へ告訴狀ヲ差出サ、リシ内菱川勘吉カ自首スルト雖モ財津作市ハ物品搜查中菱川勘吉ノ詐言ヲ信シ寺村休平方へ立越見ルモ物品無之他人ノ傳聞ニ依リ後藤喜平方へ立越搜查スルニ當リ果シテ菱川勘吉ヨリ典賣致シアルニ付他へ賣却ヲ止メ置歸宿後近隣ノ者共ノ仲裁ヲ以テ私和ヲ申入ル、モ財津作市ハ后日官ニ覺ハレシコトヲ恐レ私和ヲ肯ンセス斷然官ニ訴フルノ意ヲ表シタリ菱川勘吉ニ於テハ悔悟ノ心ナク財津作市ヨリ尋問ヲ受ケテ實情ヲ陳述セスノミナラス詐テ財津作市ヲ寺村休平方へ遣シ而シテ後事已ニ發セント覺リ財津實治方へ罷越自分方小屋へ寐臥用ニ運置キシ從兎虎吉ノ衣類ヲ財津作市カ持行キアル給ト取違へ典賣致タル旨僞テ申述自巳ノ犯罪ヲ免カレン爲シ私和ノ取計ヒテ依頼スレ共事主財津作市カ私和ヲ肯ンセス已ニ官ニ告ント決定スルコトヲ知リ遁ル可キ道ヲキヨリ初テ首出ノ思念ヲ發シタル者ニ付凡罪ヲ

犯シ事未タ發覺セズ及ヒ官罪犯ノ名ヲ知ラスシテ自首スル者ノ如キ眞心悔悟シ自己ノ犯罪ヲ首出スル者ト同ク論ス可カラズ本犯菱川勘吉カ首出スル所爲ハ所謂罪ヲ犯シ人ノ官ニ陳告セント欲スルコトヲ知テ自首スル者ト考量ス然ルニ該區裁判所ニ於テ其罪ヲ免スト裁判ヲ爲シタルハ不當ト見込候條一件書類相添此段及上告候也

辨明

被告勘吉カ竊盜罪ヲ自首シタルハ事主財津作市ニ私和ヲ求メタリシモ作市之ヲ肯ンセスシテ官ニ告ントナスノ勢ヒアルヲ知テ始テ意畏ル、ニ出ル者タレハ即チ改定律例第六十九條凡知人欲告而首ト稱スルハ名ヲ指テ官ニ告ケ事已ニ發セント欲スルコトヲ知テ自首スル者ヲ謂フ云々トアルニ該ル者ナリトス依テ勘吉カ罪ヲ斷スルハ賊盜律竊盜條ニ依リ賍金壹圓以下懲役五十日ノ處人ノ官ニ告ケントスルヲ知テ自首スル者改定律例第五十九條ニ依リ本罪ニ二等ヲ減シ懲役三十日ヲ言渡スヘキ相當ナルニ原裁判玆ニ出テス未發自首ト同シシ全免シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年八月二十二日熊本裁判所管内豆田區裁判所ニ於テ菱川勘吉ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

菱川 勘吉

右ハ前ニ辨明スル如シナルヲ以テ本刑懲役五十日ニ二等ヲ減シ

懲役二十日

○判文(賭博拘引途中逃走ノ件)明治十四年九月廿七日上告
明治十四年十一月十日判決

福嶋縣岩代國伊達郡山舟生村平民

八

卷 春 吉

明治十四年九月
五十二年

明治十四年九月二十一日福嶋裁判所ニ於テ右春吉ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀明治十四年八月二十九日同村平民八卷幸吉外二名申合セ財物ヲ賭ケ博戯ヲ爲ス科
雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日可申付處拘引ノ途中逃走セシヲ以テ捕亡律獄囚脱監及ヒ
反獄逃走條ニ依リ脱監逃走ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役百日申付ル
福嶋裁判所詰檢事田中玄文ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二十七日附テ
以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

有之明治十四年九月八日公訴及ヒ置タル處別紙宣告書ノ通處斷相成タリ抑被告カ拘引セ
ラル、ノ途中同村ノ者十數名來合シ捕吏ニ迫ルテ被告カ冤罪ヲ陳シ以テ釋放ヲ乞フ而シ
捕吏ノ之ヲ許諾セサルニモ拘ハラズ被告ヲ該場ヨリ歸村セシメ猶ホ捕吏ニ對シ罵詈シタ
ル罪アルモ未ダ以テ劫囚打奪ノ所爲ト爲大テ得ヘカラサルモノアルヲ以テ右孫左衛門等
ハ律例第二百三十七條被告ハ賭博律ニヨリ拘引ノ途中逃走スルヲ以テ律例第二百九十三

條ニ問擬スヘキカ當然ナルニ法官ノ見是ニ出テ孫左衛門等ノ罪ヲシテ律例第三百三十四
條ニヨリ囚ヲ劫スル者ヲ以テ論シ懲役十年情法ヲ酌量シ三等ヲ減シ懲役三年ト判定セリ
故ニ退テ再思スルニ少シク過嚴ヲ覺ユト雖モ假令豫期セシテ偶然來合シ又爲ニ打奪シ
タルニ非ラサルモ現ニ十數名聚合シタル而已ナラス捕吏ニ對シ罵詈セシ等ノ所業ニ及ヒ
タル者ニ付該律ヲ當行シタルモ又敢テ不法違律トモ云フ可カラサルコト付吏ニ之レカ破毀
ヲ要セスト雖モ被告ノ處斷ニ至リテハ其不當ヲ訴ヘサルヲ得ス凡ソ律例第三百三十四條ヲ
適用スル所以ノモノハ他ナシ單ニ囚ヲ劫スルノ一點ニ在レハ其之ヲ劫スル者ニ罪アリテ
劫セラル、者ニ罪ナキハ言テ費スシテ明矣因テ孫左衛門等ヲ既ニ律例第三百三十四條ニ當
行シタル上ハ被告ハ固ヨリ劫セラル、者ナレハ只其本罪ノミヲ科シ逃走罪ヲ罰スヘキ理
由アルナシ如何トナレハ被告ノ逃走タル毫モ己レノ精神ヨリ出タルニ非ラスシテ全ク孫
左衛門等カ爲ニ脱逃スルヲ得タルモノナレハナリ若シ該逃走ハ被告カ精神ヨリ出タルモ
ノトセハ何ソ孫左衛門等ヲシテ囚ヲ劫スル者ヲ以テ論スルヲ得ンヤ然ルニ前顯ノ如ク孫
左衛門等ヲ律例第三百三十四條ニ問擬シタル上被告ヲモ亦逃走ノ罪アリトシ律例第二百九
十三條ニヨリ斷了シタルハ裁判法律ニ違フモノト思料致候ニ付一件書類相添上告候也

辨明

被告春吉カ口供ヲ閱スルニ賭博場ヨリ拘引セラル、途中同村ノ者多人數來集シ終ニ巡查
ヲ取圍ミ大變ニモ至ラントスルノ勢ナルヲ幸ヒ自分ハ其場ヲ逃走セリ云々トアリ抑劫囚
律ヲ案スルニ劫セラル、者ハ無罪トノ明文アルコトナシ况ンヤ一時ノ騷擾ニ乘シ逃走セシ

審登之ヲ不問ニ措クノ理アラシキ故ニ原裁判所ニ於テ春吉ニ對シ脫監逃走ヲ以テ論シ本罪ニ二等ヲ加ヘタルハ不法ノ裁判ト爲スコト得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年九月廿一日福嶋裁判所ニ於テ八卷春吉ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第千三百卅六號

○判文(不應爲ノ件) 明治十四年八月六日上告 明治十四年十一月十一日判決

島根縣因幡國邑美郡今町士族

小倉直人

明治十四年七月二十九日

右直人ニ明治十四年七月三十日松江裁判所管内米子區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタル其方儀自己ノ利益ヲ營ムニ非スト雖モ人民ヘ對シ不法ノ盟約ヲ爲シ米商人ノ米穀輸出ヲ差留ル所業ハ既ニ官廳ヨリ差留受ルモ不憚米子麴町江畑半七ノ米穀輸出ヲ故障シ同人ノ營業ヲ妨ル科難犯律不應爲重ニ問懲役七十日十族ナルヲ以テ開刑ニ換ヒ禁獄七十日申付ル

小倉直人於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月六日日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

人民ヘ對シ不法ノ盟約ヲ爲シタルト明言セラレシモ私儀於テハ元來該盟約タル人民相對ニ時國家危急ヲ救ハシカ爲メ甘心悅服シ結約セシモノニシテ官廳ニ於テ更ニ關涉スヘキ

ノ盟約ニ非サルコト明ナリ(其盟約書如左) (盟約書略ス) 該盟約ヲ取リ結フノ際タル素ヨリ官廳ニ再三取締リ方ヲ上請セシモ採用ナキヨリシテ島根縣米子警察署ヘ届置キ該盟約書草案モ差出セシモノナレハ勿論不法ノ盟約書ト警察署ニ於テ認ムルコトアルトキハ其際停止アルヘキ筈ナルヲ聞キ置キタリトノ言渡シアリシハ該盟約ノ不法ナラサルノ確證タル判然タリ

米商人ノ米穀輸出ヲ差留ムル所業ハ既ニ官廳ヨリ差留受ルモ不憚米子麴町江畑半七ノ米穀輸出ヲ故障シ同人ノ營業ヲ妨グルト明言セラルト雖モ右差留ヲ受ケタルハ同盟外一般ノ米商人ヲ指テ差留ムルノ權ナキヲ示サレタルモノニシテ人民互ノ結約ニ係ル取締リヲ官廳ヨリシテ差留メラルノ理由ナキハ勿論江畑半七ナルモノハ米穀濫出防禦ヲ謀ルノ同盟者ニシテ同盟中ニ對シ無斷ニシテ船積等不致ハ互ノ結約上ニ明文アリテ同盟首唱者タル直人ニシテ一應ノ取調ヲ爲スハ最モ適當ノ事ナルハ論ヲ俟タサルナリ而シテ江畑半七ヨリ前盟約ニ違背セシコト改悟シ左記ノ如ク改悟ノ證ヲ差出セシニヨリ該米ハ即時差支ナク船積爲致津出シ致候ニテ直人ニ於テ聊モ同人ノ商業ヲ妨グル等ノ舉動ヲ不爲ヤ明了ナリ(改悟證書) 直人儀其節警察署ノ口供ニ調印スルモ他ニアラス米取締事件ニ付テハ既ニ五六十度モ喚起アリテノ後故素ヨリ直人ニ於テモ貧困且社用アレハ如何ニ國家ノ爲メト罪モ微々タルコト付數十里ノ遠ヲ出頭スルハ差向不都合眼前ナレハコソ調印致候其節警察官ノ口頭ニハ只コレハ何ノ廉ニ於テモ責ナキモノ故調印セヨトノ仰ナルト雖モ直人ノ赤心國家ノ利益ヲ量テハ身體何等ノ束縛ヲ受クルモ少クモ意トセス然レモ此等ノ口

供ニテ斯ノ如キ不當ノ御裁判受タル理由ハ更ニナシ

辨明

上告人小倉直人カ米子區裁判所ニ於テ爲シタル口供ニ米輸出留メ一件屢々御調ヲ受ケタル末該件御差止メ相成本年四月三十日其旨ノ口供讀聞カサレ已ニ調印致シ候ニ付テハ以後着手不相成儀ハ承知罷在候トアリテ爾後又江畑半七カ米穀ヲ輸出スルヲ差留メタルモノナレハ原裁判所ニ於テ右ノ所爲ヲ以テ雜犯律不應爲重キニ問ヒ禁獄七十日ニ處斷シタルハ相當ニシテ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年七月十日松江裁判所管內米子區裁判所ニ於テ小倉直人ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者ナリ
第千三百卅七號

○判文(不應爲ノ件) 明治十四年八月六日上告
明治十四年十一月十一日判決

島根縣伯耆國會見郡境末廣町平民

景山

明治十四年七月
五十年九月

右桂ニ明治十四年七月三十日松江裁判所管內米子區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタル其方儀自己ノ利益ヲ營ムニ非スト雖モ久山義英其外ノ者發意ニ同シ人民ニ對シ不法ノ盟

約ヲ爲シ米商人ノ米穀輸出ヲ差留ル所業ハ既ニ官廳ヨリ差留相成タルヲ承知シナカラ米子畑江畑半七ノ米穀輸出一時故障スル科雜犯律不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日申付ル

景山桂於テハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年八月六日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

私儀於テハ久山義英其外ノ發意ニ同シ人民ニ對シ不法ノ盟約ヲ爲シタルト明言セラル、ト雖モ國家ノ危急ヲ救ハシカ爲メ一時同志者集合シテ各自甘心悅服盟約結合セシ者ニシテ強テ不同意者ヲ誘引盟約セシメシ者コハ非ス是等ノ盟約タル素ヨリ人民ノ互ニ約定取締シナスノ自由ハ天與ノ權内ニ含有シテ更ニ不法ナリト官廳ヨリ差留メテ受ルノ理由ナキハ勿論ニシテ不法ノ盟約ニコレナキヤ明カナリ而シテ米商人ノ米穀輸出ヲ差留ル所業ハ既ニ官廳ノ差留相成リタルヲ承知シナカラ米子畑江畑半七ノ米穀輸出一時故障スルトノ明言タル實ニ不當ノ極ナリ如何トナレハ右江畑半七ナル者ハ我同志者小倉直人等ト米子表ニ於テ米穀濫出防禦ヲ誓約セシ同盟者ナレハ彼レカ米穀ヲ船積セシニ付不審ト認ムルヲアレハ一應ノ照會ニ及フハ當然ノコトニシテ桂儀於テ同人ノ米穀輸出ヲ故障セシト毛頭無之ハ明カナリ且ツ又未ダ右一應ノ照會モ不仕内小倉直人等參リ掛リ右小倉直人江畑半七ト直接談判ノ末輸出取計候儀ハ廣ク公衆ノ知ル所ニ有之候事
此外原告タル米子警察署ヨリ米子區裁判所ヘ送附セラレシ處ノ證書ニヨリテ同裁判所ニ於テハ如是判決ヲ爲シタルモノナレハ該判決ニ不服ノ廉アルヲ以テ御規則ニ隨ヒ上告致度段上申シ右書類寫シ取リノ儀代人ヲ以テ出願致シ候得共刑事ニ係ル書類ノ儀ハタトニ上告ヲナストモ右書類寫シ取リハ勿論一見タモ不許トノ嚴命アリ因テ不服ノ廉ヲ上告セ

ソ爲メ明細書草スルノ權力甚薄弱ナリト雖モ無據宣告書ノミニ因リ此上告書ヲ草スルモ
ソナリ且桂備豫テ無學加フルニ無筆ニシテ自分ヨリ米子警察署ニ差出シタル處ノ始末口
書等ハ精神ヲ書載セシ者ニ非ラス裁判所ニ於テ公明正大ノ審理可受ト存警察官ノ申聞々
ラレタル通りニ調印シタルニ豈ニ圖ランヤ米子區裁判所ニ於テハ一應ノ糾問モナクシテ
此宣告ヲナサレタルハ原告警察官ノ片言ヲ以テ如斯偏頗ノ刑辟ニ處セラレタルハ不服ニ
堪ヘサルヲ以テ上告仕候

辨明

上告人景山桂カ米子區裁判所ニ於テ爲シタル口供ニ米穀輸出留一件追々御調ヲ受ケ當明
治十四年三月三十日右所業御差止メ相成其旨ノ口供讀聞カサレ已ニ調印致シ候ニ付テハ
何分ノ御處置相成候マテハ一切着手不相成儀ハ承知仕居候トアリテ爾後江畑半心カ米穀
輸出セントスルヲ故障セシモノナレハ原裁判所ニ於テ右ノ所爲ヲ以テ難犯律不應爲輕ニ
問ヒ懲役三十日處斷シタルハ相當ニシテ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年七月十日松江裁判所管内米子區裁判所ニ於テ景山桂ニ言渡
シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第千三百卅八號

○判文(懲喝取財ノ件) 明治十四年九月二日上告
明治十四年十一月十一日判決

福島縣磐城國石川郡母畑村平民半右

衛門弟

渡

邊 文 吾
明治十四年八月
二十九年二ヶ月

明治十四年八月三十一日福嶋裁判所ニ於テ右文吾ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十四年六月一日西白河郡矢吹村ニ於テ懲役限内逃走セシ岩代國大沼郡大谷村
五十嵐龜太郎ニ出會官ニ訴へ出テヘソト申威シ金圓物品ヲ取ル賊金壹圓貳拾八錢ノ科賊
盜律恐喝取財條恐喝シテ財ヲ取ル者ヲ以テ論シ懲役七十日申付ル

福嶋裁判所檢事田中文文ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月二日附テ以テ司
法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

右曾テ罪ヲ犯シ福嶋縣監獄署ニ入監中同監人五十嵐龜太郎ナル者逃走シタルヲ知ル後刑
滿ヲテ放免セラル偶々途ニ龜太郎ニ會シ忽然惡心ヲ起シ僞言ヲ以テ金品若干ヲ詐取シタ
ル犯罪有之明治十四年八月十七日詐欺取財ノ見込ヲ以テ公訴及ヒ置タル處別紙宣告書通
シ處斷相成タリ抑モ恐喝取財律ノ精神タル專ラ無罪人ニ對シ官署ニ引致センコトヲ以テ恐
喝セル者ヲ指的スルモノニテ乃チ清律賊盜律恐嚇取財各輯註ニモ如本無違法事而憑空駕
端嚇去財物者問恐嚇有違法事被人挾去財物者有祿人問枉法無祿人問詐欺云々トアリテ明
瞭ナリ故ニ是等ノ罪ヲ斷スルニハ宜シク被害者ノ有罪人ト否トヲ判別シ以テ其罪ヲ擬定
セサル可カラズ況ンヤ被告ノ所爲タル素ト有罪人ニ對シ唯タ一時誣賺ヲ逞フシタルモノ
ナルニ於テヤ因テ被告カ所犯ハ當然詐欺取財律ヲ當行シ恐喝取財律ヲ適用スヘキモノニ

非ラストス然ルニ前陳ノ如ク斷了シタルハ裁判法律ニ違フモノト思料シ候ニ付一件書類相添上告候也

辨明

上告ニ付原裁判所ノ書類ヲ涉獵審按スルニ渡邊文吾ガ犯罪事實ニ對シ賊盜律恐喝取財條ヲ適用裁判シタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云ハサルヲ得ス何ントナレハ恐喝取財條ハ無罪無違法ノ者ニ對シ事ヲ假設シ勢イテ張り財物ヲ喝取シタル如キ所爲ヲ罰ス可キ法條ニシテ如斯有罪人ニ對シ適用ス可キ法條ニ非レハナリ

判決

右ノ理由ナルニ因リ明治十四年八月三十一日福嶋裁判所ニ於テ渡邊文吾ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

前ニ辨明スル如クナルニ因リ賊盜律詐欺取財條ニ依リ贓金一圓以上 渡邊 文 吾 懲役六十日

第千三百卅九號

○判文(罵詈ノ件) 明治十四年九月九日上告 明治十四年十一月十一日判決

石川縣金澤區田丸町二十五番地 士族 大久保 駒三郎

明治十四年五月 二十九日十月

明治十四年九月二日金澤裁判所ニ於テ右駒三郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ 其方儀越中國射水郡下田子村小川治一等ノ委託ヲ受ケ同人等ヨリ石川縣令ニ進達スヘキ 届書ヲ同縣射水郡役所ヲ經由スルノ手續ヲ踐行セシ節右役所ニ於テ石川縣令宛タル封書 ヲ渡シタルニ該書中他ノ届書ヲ封入シアリテ進達上差岡アリトシ途上ニ於テ同郡書記小 田福男ニ對シケ様ナ馬鹿ナル認方ナセシ書翰ハ受取難シト罵リ該書翰ヲ同人ニ突付返還 スルモ之レヲ拒ミタルニ付強テ返還セシト差迫リ争闘ニ及ヒタル旨石川縣令ニ於テ口書ニ 捺印セシハ相違ナシト雖「ケ様ナ馬鹿ナル云々」トハ該封書ヲ指シタル言ニテ同人ヲ罵リ タルニハ無之ニ付口書中「罵リ」ノ文字ハ削除アラムコト乞フト陳辨スレトモ其返還セン トセシ封書ハ射水郡役所ヨリ發シシモノニテ登時小田福男ハ該郡長ノ代理者タリ而シテ 其馬鹿ナル云々モ又同人ニ對シシ言ナレハ其言ヲ以テ封書ヲ指ストシ同人ヲ罵詈セサル モノトスルヲ得ス抑口書ハ常人ノ陳述ニ應ジ之レヲ錄スヘキモノナレハ陳述セサルコトヲ 以錄ス可キ謂レナク其方ニ於テモ眞ニ罵詈セサルモノナレハ之レヲ陳述ス可キ筈モ亦無 之ニ付今更之レカ削除ヲ求ムルハ其罪ヲ免ルヘキ手段ニ外ナラストス因茲小田福男ヲ罵 詈セシモノト斷定ス加之同人ニ對シ封狀ヲ突付争闘ニ及ヒ該封皮ヲ破毀ニ至ラシメタル 右科ノ内罵官吏律ニ仍リ懲役六十日士族ナルヲ以テ閏刑ニ換ヘ禁獄六十日申付ル 大久保駒三郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月九日本院ニ上告ノ旨趣左ノ 如シ

第一條

五三四

小川治一等ヨリ委託ヲ受タル原由ハ本年四月廿七日射水郡役所ニ於テ縣會議員選舉ノ際
 同人等該投票ヲ持參シ同郡役所へ出頭セシニ同役所ハ定期時間ニ先ツコト二十分ニシテ
 開票セシニ付同人等ハ五月十一日附テ以テ(四月八日射水郡役所ハ射八號ヲ以テ本郡縣
 會議員折橋二策代員選舉スヘキ旨被達候ニ付則其第三條本月廿七日正午十二時限リ投票
 取纏メ開緘スヘクニ付右時刻マテニ選票差出サ、ルモノハ選票無之モノト見做スヘキニ
 付無遲滯指出スヘクトノ明文ニ基キ代人ヲ以テ本日午前十一時四十分投票持參出頭爲致
 候處郡吏ハ最早開票ニ着手セシヲ以テ該投票ハ無効ニ屬スヘキ旨相達候得共定期時間先
 十開票ニ着手シ吾人貴重ノ權利ヲ褫奪致シ候ニ付其趣及掛合候處更ニ取上不申最モ今回
 選舉ノ如キハ已ニ不正ニ屬スルコト判然クル儀ニ候ヘハ到底不問ニ付シ難ク且ツ定期時
 間ニ先チ開票致候ハ確平タル證據モ有之事ニ候ヘハ此段連署上申仕候間速ニ改選致候様
 御達有之度右奉願候也射水郡下田子村總代小川治一同郡西田村總代高田長吉同郡亂橋村
 總代林宇太郎同郡泉村總代奥村七右衛門同郡柳田村總代茨木權次右戸長大村喜作石川縣
 令千坂高雅殿」ノ願書ヲ指出サントセシモ曾テ同郡役所ノ不當ヲ訴フテハ其經由ヲ拒ム
 ノ習慣アルヲ以テ自分ニ右經由ノ手續ヲ委託シタルモノニテ本日ハ其經由ノ手續ノ決了シ
 該願書ハ進達致セシ處(五月十八日附テ以テ書面事實取調候處不正ト認ル廉無之ニ付改
 選願ノ趣ハ難及詮議候事石川縣令千坂高雅」ト指令有之ニ付同月廿七日前同様ノ手續ヲ
 以テ「本年四月廿七日日本郡縣會議員折橋二策代員選舉ノ際不正ノ條件有之即今改選願中

ニテ該代員ハ吾人ニ於テ縣會タル議員ヲ承認セシ者ニ無之候故本會ノ決議ハ遵守難致御
 坐候間此段豫メ具陳致置候也射水郡下田子村總代小川治一等(已下前願書ニ同シ)指出ス
 ハキニ本日ハ自分病氣ニ付同郡佛生寺村總代長谷幸善代理澤田平策ニ自分代理ヲモ委任
 セシモノナリ

第二條

第二屆書ハ澤田平策ニ委託シタルニ射水郡役所ハ自分ヨリ指出シタル書翰ト澤田平策ヨ
 リ指出シタル書翰ト一封ニ緘シテ相渡シ進達上ニ障害ヲ與ヘシ故自分ハ澤田平策同道同
 役所へ出頭セシニ折節郡長代理小田福男ノ退出ニ際シ同役所門前ニテ出會致シタルニ付
 右書翰ヲ出シ此書翰ハ自他混同アリテ進達上指問アレハ一先同役所へ引取之カ部分ヲナ
 サソフテ請求スレヒ小田福男ニ於テハ如何ナル急件ト雖モ一旦退出ノ上ハ引取難シト述
 ヘタルニ付自分ハ縣會モ最早開期ニ近ケレハ是非本日進達ノ見込ナレハ強テ引取アリタ
 シト陳辨スレヒ小田福男ニ於テハ途中ニ於テ公用ハ談セスト其事一ツモ辨明ニ及ハス自
 分ト澤田平策トノ中間ヲ突抜ケ行カントセシ故自分ハ箇様ナ馬鹿ナル認方ヲセシ書翰ハ
 請取難シト述ヘ返還セシニ小田福男ハ其封書ヲ突返シ彼是往復ノ際封筒ノ破緘セシモノ
 ニテ自分ヨリ鬪争ニ及ヒ該封筒ヲシテ破毀ニ至ラシメタルモノニアラス
 但以上ノ事實ハ口書ニ詳ナリ

第三條

金澤裁判所宣告文中ニ「其返還セントセシ封書ハ射水郡役所ヨリ發セシモノニテ登時

五三五

小田福男ハ該郡長ノ代理者アリ而シテ其馬鹿ナル云々モ又同人ハ對セシ言ナレハ其言ヲ以テ封書ヲ指トシ同人ヲ罵詈セサルモノトスルヲ得スト有之ト雖モ第一條ニ於テ其陳スルカ如ク自分届書ヲ他人届書ノ内ヘ封シ込ミ進達上障害ヲ與ヘタルニ付之カ部分ヲ請フモ尙拒ミタルヲ以テ箇様ナ馬鹿ナル認方ヲセシ書翰ハ請取難シト明言セシハ即チ彼我混同シテ進達ノ効用ヲ失ヒシ故單ニ彼書翰ニ對セシ言ニテ其馬鹿ナルトハ彼我混同ノ事實ヲ指タル言ニテ曾テ小田福男ニ對セシ言ニアラス然ルニ金澤裁判所ハ其事實ノ如何ヲ問ハス只口書中罵リノ文字アルヲ以テ前後ノ語氣ヲ察セス一意小田福男ヲ罵詈セシモノト斷定スルハ官吏ヲ批蔭スル不當ノ裁判ト思料スル第一ナリ

第五條

宣告文中「口書ハ當人ノ陳述ニ應シ之ヲ錄スヘキモノナレハ陳述セサルヲ以テ錄スヘキ謂レナク其方ニ於テモ眞ニ罵詈セサルモノナレハ之ヲ陳述スヘキ筈モ亦無之ニ付今更之カ削除ヲ求ムルハ其罪ヲ免ルヘキ手段ニ外ナラス」ト有之ト雖モ箇様ナ馬鹿ナル書翰ト明言セシコトヲ抹殺スルカ爲メニアラス只罵リノ字ノ穩當ナラサルヨリ之カ削除ヲ求メシモノニテ決シテ其罪ヲ免ルカ如キノ手段ニアラス果シテ口書ハ當人ノ陳述ナレハ一字

一語モ削除ス可ヲサルモノトモハ口書中記載アル途上ヨリ自分ヨリ小田福男ヘ請求セシ言語ノ要領モ宣言文中記載スヘキノ道理ナルニ彼ヲ取り是ヲ捨ルカ如キハ取捨其當ヲ失シ官吏ヲ批蔭スル不當ノ裁判ト思料スル第三ナリ

第六條

已上ノ實跡ナレハ彼我混同ノ書翰ヲ指シテ馬鹿ナル認方ヲセシト明言セシモノニテ小田福男カ身上ニ就キ罵詈セシモノニアラス凡ソ罵詈律ハ人ヲ罵ルトアレハ今回自分ノ舉動ハ政府ヘ對シ不當ノ罪ハ免レサルモ罵官吏律ニ問ハル、理由ナキモノナレハ官吏ヲ批蔭スル不當ノ裁判ト思料スル第四ナリ

辨明

上告ノ第一條第二條ハ事實ヲ陳述シタル迄ニテ請求ノ旨趣ニ之レナキヲ以テ辨明セス上告ノ第三條ニ「自分届書ノ他人ノ届書内ヘ封シ込ミ進達上障害ヲ與ヘタルニ付之カ部分ヲ請フモ尙拒ミタルヲ以テ箇様ナ馬鹿ナル認方ヲセシ書翰ハ請取難シト明言セシハ即チ彼我混同シテ進達ノ効用ヲ失ヒシ故單ニ彼書翰ニ對セシ言ニテ其馬鹿ナルトハ彼我混同ノ事實ヲ指タル言ニテ小田福男ニ對セシ言ニアラス」云々ト申立ルモ裁判所カ明職宣告シタル如ク其封書ハ射水郡役所ヨリ發セシモノニテ當時小田福男ハ事務擔任ノ者ナレハ反令其封書ニ對シ發シタル語ナルモ自カラ福男カ所爲ヲ指シタルモノニテ同人ニ對シ罵詈シタルコト非ストノ申分ハ立難シ

上告ノ第四條ニ「若シ該封書ヲ罵詈スルハ即チ其主任者ヲ罵詈セシモノト斷定セハ先ツ

彼我混同ノ封書ハ其當ヲ得タルモノナルヤ否ヤノ点ヨリ論及スヘキ云々申立ルモ其當否ヲ論及スヘキ限リニアラス何トナレハ假ニ其封書ハ當ヲ失シタルモノニモセヨ直ニ道路ニ於テ官吏ニ對シ之カ不當ヲ責ムルノ所爲ハ爲ス可キコトニ非レハナリ

上告第五條ニ口書ハ當人ノ陳述ナレハ一字一語モ削除ス可ヘカラサルモノトセハ口書中記載アル途上ニ於テ自分ヨリ小田福男ヘ請求セシ言語ノ要領モ宣告文中記載スヘキ道理ナルニ彼レヲ取り是ヲ捨ルカ如キハ取捨其當ヲ失シ云々ト申立ルモ宣告書ハ其罪ヲ斷シタル要領ヲ摘載スルモノニテ其事實ノ百事ヲ記載ス可キノ理由ナケレハナリ

上告第六條ハ同第三條ニ辨明シタル如クナルヲ以テ辨明セス以上辨明スル如クナレハ原裁判所カ犯罪事實ノ内罵詈官更條ニ依リ處斷シタルハ敢テ不法ト爲スヲ得ス

判決

右ノ如クナルニ依リ明治十四年九月二日金澤裁判所ニ於テ大久保駒三郎ニ言渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナキヲ以テ上告狀却下スルモノナリ

第千三百四拾號

○判文(懲役人逃走ノ件) 明治十四年九月三日上告
明治十四年十一月十四日判決

大阪府嶋下郡佐井寺村平民利八
郎弟當時懲役人

巨

治三郎

明治十四年八月
二十四年五月

明治十四年八月二十九日大阪裁判所ニ於テ右治三郎ハ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方ニ對シ檢事ヨリ公訴シタル懲役十年ノ服役中逃走ノ一件遂審問處

檢事公訴ノ要領被告ハ懲役十年ノ囚ニシテ服役中明治十四年七月八日監獄分署ヲ逃走シタリ右ハ押丁岩松重世ノ景況書及ヒ被告人ノ自供ヲ以テ證明ス

被告於テハ嚮ニ懲役十年ニ處セラレ服役中明治十四年七月八日府下西成郡難波島假監獄出張所ヨリ逃走セシ相違無之旨供述セリ

右ニ由ルニ被告ハ懲役十年ノ處刑ヲ受ケ服役中逃走セシ明確ナルヲ以テ懲役人逃律及ヒ例第二百九十八條ニ依リ棒鎖二日ノ上新タニ懲役十年申付ル

明治三郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月三日本院へ上告ノ要旨左ノ如シ

一自分儀明治九年十月十六日大阪裁判所ニ於テ竊盜律ニ依リ竊盜三犯懲役十年ノ刑ニ處セラレ候事

一自分儀明治十四年五月四日大阪裁判所ニ於テ曩キニ竊盜ノ科ヨリ處刑ヲ受ケナカテ一時之レヲ包藏致シ置キシニ付自首セシ廉ヲ以テ懲役終身ノ刑ニ處セラレ候事

一自分儀明治十一年十一月三十日大阪裁判所ニ於テ曾テ人命救護セシ廉ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減セラレ懲役十年ノ刑ヲ言渡サレ候事

一自分儀明治十四年一月二十八日大阪裁判所ニ於テ曾テ大阪府懲役人反獄ノ際放火ヲ消防シタル廉ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減セラレ懲役七年ニ處セラレ候事

右ノ理由ナルニヨリ上告人ニ於テハ懲役七年ノ囚ナリ然レハ棒鎖二日ノ上原犯ノ七年併

科サル、トモ素ヨリ止ムヲ得サル次第ナレトモ棒鎖二日ノ上懲役十年トアルハ抑何ノ理由ナルヤ蓋シ大阪裁判所ノ判決ノ不當ト云フモ亦妨ケナカルヘシ依之今一應御再審ノ上前顯ノ事實ニ應當スル公明ナル御裁判ヲ望ムヲ只管奉切願候也

辨明

上告人亘治三郎カ明治十四年八月廿六日大阪裁判所ニ於テ爲シタル口供ニ懲役十年ノ處刑ヲ受ケ服役中逃走致候云々トアリテ毫モ懲役七年ノ期限内ニ逃走セシトスル證左ナキカ故ニ原裁判所カ懲役人逃律及ヒ改定律例第二百九十八條ニ照シ棒鎖二日ノ上新ニ懲役十年ニ斷了シタルハ相當ノ裁判ナリトス

判決

右辨明ノ如シ明治十四年八月二十九日大阪裁判所ニ於テ亘治三郎ヘ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第千三百四拾壹號

○判文(闘毆ノ件)明治十四年八月三十日上告
明治十四年十一月十四日判決

福島縣岩代國耶麻郡加納村平民

長

江 清 吉

明治十四年八月

二十七年

明治十四年八月廿六日福嶋裁判所若松支廳ニ於テ右清吉ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀太子堂内ニ於テ酒宴ノ末山口清吾ト太子堂修繕目論見ヨリ爭論シ清吾ノ拇ニ嚙ミ

付傷ヲ負セタル科闘毆律闘毆條瓦石ヲ以テ人ヲ毆キ傷ヲ成ス者ヲ以論シ懲役四十日申付ル福嶋縣八等警部山口亨藏ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月三十日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

該犯カ所爲タル爭論ノ末擲ミ合遂ニ組伏セラレタルヲ以テ其下ヨリ清吾ノ拇ヲ嚙傷シタルモノニ事更ニ他ノ器具ヲ用ヒテ毆傷シタルモノニ非サルハ不得言也果シテ然ラハ手足ヲ以テ人ヲ毆キ傷ヲ成シタルモノニ問擬スルヲ允當トス然ルニ裁判茲ニ出テス其瓦石ヲ以テ人ヲ毆キ傷成シタルモノニ擬シ處斷シタルハ抑モ其營ヲ失スルモノト信認シ是福島裁判所若松支廳ノ裁判ヲ不當トシ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

長江清吉カ闘爭ノ末山口清吾ニ負傷セシハ他物ヲ用ヒタルニ非ス即チ支體ニ屬シタル齒ヲ以テ嚙ミタルノ傷ナレハ手足ト別異スヘキモノニ非ス然ルニ原裁判所ニ於テ瓦石ヲ以テ人ヲ毆キ傷ヲ成スモノヲ以テ論シタルハ不適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年八月廿六日福嶋裁判所若松支廳ニ於テ言渡シタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

長 江 清 吉

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ依リ闘毆律闘毆條手足ヲ以テ人ヲ毆キ傷ヲ成スモノニ擬シ

懲役三十日

○判文(恐喝未得財ノ件) 明治十四年九月九日上告 明治十四年十一月十四日判決

兵庫縣播磨國飾東郡神谷天神町 平民

明 石 龜 市

明治十四年七月 三十五年四月

龜市ニ明治十四年九月五日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀明治十四年七月二十二日同郡宮町鈞善右衛門方ノ門扉ヲ破棄シ且同人ヲ恐喝シ財
ヲ得ントセシメ無之旨反覆辨護スレモ被害者善右衛門及ヒ證人濱本幸吉等ノ陳述巡査福
嶋直海ノ景況書ニ因テ觀レハ門戸ヲ破棄シ善右衛門ヲ恐喝シ財ヲ得ントセシメ犯狀明白ナ
リ依テ右科名例律ニ罪俱發以重論條ニ凡二罪以上俱ニ發覺スレハ云々各等シキモノハ一
ニ從テ科ストアルニ依リ罪等シキヲ以テ一ニ從ヒ賊盜律恐喝取財條ニ依リ竊盜條竊盜財
ヲ得サル者ニ準シテ論シ一等ヲ加ヘ懲役五十日申付ル

但右門扉ヲ毀棄セシ代金拾五錢ハ其方資力ヲ以テ善右衛門ニ辨償ス可シ

龜市ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月九日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ
本年七月二十二日同村鈞善右衛門方ノ門戸ニ尤夜中ナカラ私相尋度事故有之最早被疑
ルカ御免々々ト聲ヲ掛ケ候得ハ家内ノ聲ニテドナタト答ヘシ故私龜市ナリト答其儘聲モ
更ニ無之故ヘ戸口ヲ少シシ擲キ候得ハ裏口ノ路次戸ヨリ入吳候様申スニツキ裏口路次ヘ

廻リ候ヘハ路次扉締リ在リ候故ヘ其由申シ候得ハ内ヨリ木ヲ以テモタラシ居リ候得ハ強
ク押シ吳候ト申ニ付如是シテ内ヘ入候事ニテ決シテ扉ヲ破棄シタル覺無之又恐喝シテ財
ヲ得ントセシメ云々ハ善右衛門家内ノ口書ニ五拾圓貸吳候様私申シタル由ヲ陳述シタル
由是ハ既ニ御糺問中右様申ス覺ヘハ無之旨ヲ私シ陳述シタリ何様扉ヲ破棄シ恐喝シテ財
ヲ得ントシタル證トテハ無之ヲ全ク告訴人ノ狡猾ノ工ミヨリ告訴ノ文景ヲ作意シタル者
ニテ御糺問中既ニ今日ニモ私ニハ扉ヲ破棄シ又恐喝シテ財ヲ得ントシタルヲ無之條ハ反
覆陳述シタリ然ル處御掛リ官強テ被申ニハ寧ロ其方裁判ヲ受ケタリトモ不服ハ立ツヘキ
モノト懇ロニ被申タルヲ聞ク然ルニ本月五日裁判宣告ヲ受ケルニ望テ見レハ五十日ノ處
刑ヲ申渡サレタリ扉ヲ破棄シ恐喝シテ財ヲ得ントシタル覺ヘナキ條反覆辨護スレトモ宣
告書ニ在リテ扉ヲ破棄シ恐喝シテ財ヲ得ントスルノ條存在タリ全ク裁判官ノ誘導ニ係リ
強テ宣告書ヲ推與ヘタル、ニアラスヤ依之裁判不服ノ條上告仕候

辨明

上告ニ付原裁判所ノ書類ヲ閱スルニ明石龜市カ犯罪ニ對シ原裁判所於テ證人等ノ陳述ヲ
信憑シ事實ヲ認定セシハ宣告書ヲ記載セシ如クニシテ其事由ノ性質ヲ檢審スルニ毫モ不
當ト見ルヘキ廉ナシ因テ原裁判所カ賊盜律恐喝取財條及竊盜條ニ依リ處斷シタルハ不法
ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如シナルニ因リ明治十四年九月五日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ明石龜市ニ言渡シタル

裁判ハ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スルモノナリ

第千三百四拾三號

○判文(地券裏書願意ノ件) 明治十四年九月五日上告 明治十四年十一月十四日判決

嶋根縣山雲國意宇郡魚町平民

永井常太郎

明治十四年八月

二十四年

明治十四年八月三十一日松江裁判所ニ於テ右永非常太郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀養父善次死亡跡家督相續后滿六ヶ月内ニ地券壹通書替願出テサル罪明治十三年第
五十二號布告第五條及ヒ明治十四年第三十號布告ニ依リ證印稅三錢ノ五倍科料金拾五錢
申付ル

松江裁判所詰檢事補岸本重整ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年九月五日附テ以テ司法
卿ヲ經由シ本院詰檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

總テ地所所有者ニシテ死亡爲シタル時ハ其相續人タル者其相續後滿六ヶ月内該讓受ノ地
券證名前書換ヲ可願出ハ候々タル公布ニシテ若シ其期日ヲ過ル時ハ初テ科トナシ成規ニ
照シ可罰ハ言ヲ不俟ナリ然リ而シテ別紙永非常太郎所犯タル明治十二年十一月九日死亡
者ノ家督相續ヲ爲シタル者ニシテ其讓受ノ地券證名前書換ヲ明治十三年五月八日迄ニ願
出ルキハ別ニ不都合モ無之ヲ其期日ヲ過キ願出タル者ニ付初メテ可罰ノ廉アル者ナレハ
其過期ノ日ニ行ハルノ規則ヲ以テ可罰ハ法律ノ元則ナルヲ松江裁判所ニ於テハ其後改

定ニ係ル明治十四年七月一日ヨリ施行可相成規則ヲ以テ處斷爲シタルハ是レ不當ト不得
不言依テ此段及上告候也

辨明

上告ニ付原裁判所ノ書類ヲ審閱スルニ永非常太郎カ犯則ノ所爲タルヤ明治十二年十一月
家督相續ニ因リ六ヶ月以内地券名前書換へ願出ツ可キヲ等閑明治十四年七月廿八日右書
換ヲ願出タリ抑該犯常太郎カ所爲ノ如キハ繼續犯罪ニシテ其發覺セシ日(即チ十四年七
月廿八日)ヲ以テ現時行ハル、處ノ法律ニ依リ處斷ス可キハ當然ノ法理ナリトス故ニ原
裁判所カ明治十三年第五十三號布告第五條及ヒ明治十四年第三十號布告ニ依リ處斷シタ
ルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ理由ナルニ依リ明治十四年八月卅一日松江裁判所ニ於テ永非常太郎ニ言渡シタル裁判
ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第千三百四拾四號

○判文(違式ノ件) 明治十四年九月九日上告 明治十四年十一月十四日判決

岡山縣備中國淺口郡長尾村平民

田邊藤吉

明治十四年八月

四十年

明治十四年九月五日神戸裁判所岡山支廳管内玉嶋區裁判所ニ於テ右田邊藤吉ニ對シ左ノ裁

其方儀明治十三年七月以降大坂府ヨリ歸途蒸氣船中ニ於テ姓名知ラサル者ヨリ博奕ニ用
ユル骨牌百組買受而シ淺口郡黒崎村字南ノ浦ノ姓不知光ト申者へ賣却セシ旨供出シ巡查
拘引景況書ニ符合シ犯狀明白ニ付改定律例第二百八十八條式ニ違フ者ハ懲役二十日輕キ
者ハ一等ヲ減ストアルニヨリ重キ者ヲ以テ論シ懲役ヲ答ニ換ヘ答二十ノ贖罪金壹圓五拾
錢申付ル

岡山縣十等警部松本照太郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年九月九日付ヲ以テ司法卿
ヲ經由シ本院詰檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

抑第二百七十一條ニ凡博戲ニ用ユル骰子骨牌ヲ賣ル者ハ賭博者ト同罪云々トアリ斯ノ昭
々平タル適律ヲ傍措シ違式ヲ以テ判決相成シハ頗ル不當ト見認サルヲ得ス依テ一件書類
相副上告仕候也

辨明

上告ニ付原裁判所ノ書類ヲ審閱スルニ被告田邊藤吉カ明治十四年八月二十七日岡山縣下
玉島警察署ニ於テ押印シタル口供ニ「姓名不知西京ノ者申ニ骨牌ヲ所持致シ居ルカ何レ
カ能キ賣レ口ハアルマシキヤト申ニ付骨牌百組ヲ代價九圓ニテ買求メ」云々又「黒崎村字
南浦光ト申者へ貳拾組ヲ代價貳圓四拾錢ニテ賣拂其後三月ト四月ト日ハ不覺又候兩度ニ
四拾組ツ、八拾組代價九圓六十錢ニテ賣拂」云々トアレハ藤吉カ犯罪事實タル明了ナリ
然ラハ改定律例第二百七十一條凡博戲ニ用フル骰子骨牌ヲ賣ル者ハ賭博者ト同罪云々ト

アルニ依リ處斷スヘキナ原裁判所ノ論決茲ニ出テサルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年九月五日神戸裁判所岡山支廳管内玉嶋區裁判所ニ於テ田邊
藤吉ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

田邊藤吉

前ニ辨明スル如クナルニ因リ改定律例第二百七十一條ニ依リ

懲役八十日

但現在スル賣リ代金ハ官ニ沒取ス

第千三百四拾五號

○判文(強盜ノ件) 明治十四年六月廿九日上告
明治十四年十一月十五日判決

岡山縣岡山區四番町二百八拾六
番屋敷士族

藤原久吉

明治十三年十一月
三十三年九月

右久吉ニ對シ明治十四年六月二十日神戸裁判所岡山支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡タリ
其方儀明治十三年八月十九日竹井丈四郎方ニテ竹下熊吉萩原常太ト共ニ淺井常吉ヨリ金
五拾五圓ヲ得及ヒ明治十三年十一月十日宇都宮勝方ニテ土井與八百神祐治ト共ニ木村壽
太郎ヨリ金貳百圓ヲ得タルハ詐偽ノ所爲タリ因テ取還ヲ拒キタルハ不持兇器強盜ヲ以テ

論スヘキ者トシ警察官之ヲ求刑シタルモ其方ハ並ニ共ニ賭博ヲ行フテ贏得タルナリト辨
 護セリ其常吉ニ對スル所爲ハ賭博タルヲ證據一モ之ナクシテ當初熊吉カ素麵代價云々ト
 詐リテ調金サセ既ニ財ヲ得テ後其取還ヲ拒ミタル以上ハ之ヲ不持兇器強盜財ヲ得ル者ヲ
 以テ論セサルヘカラス其壽太郎ニ對スル所爲ハ其方ハ米價ノ高低ヲ籤ニ記シ以テ奇數偶
 數ノ符徴トナシタルト陳述シ壽太郎ハ其以前藤原安造方ニテ其方ト與八ノ爲ニ抽籤シ遣
 ハシタル定約ト稱スル者ハ米價ノ高低ヲ以テ輸贏ヲ決スル者タルヲ行ヒアリテ後計筭
 ナ爲スニ至リ始メテ之ヲ知タレト博奕ニハ非サルヲ以テ再タビ宇都宮勝方ニテ抽籤シ遣
 ハシタル旨陳述セリ金錢ヲ賭シテ抽籤シ以テ輸贏ヲ決スルハ即チ賭博ニシテ其情ヲ知テ
 其籤ヲ抽キ遣シ又其金ヲ貸與フルハ即チ其列ニ與リタルト異ナル者ナシ乃チ壽太郎ニ對
 スルノ所爲ハ詐僞取財ニ非ストス因テ一ノ常吉ニ對スル罪ヲ問ヒ賊盜律詐欺取財條ニ凡
 官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス又竊盜條ニ其臨時捕ヲ拒
 ク者ハ強盜ヲ以テ論ス又例第百二十七條ニ凡強盜兇器ヲ持セス云々贓ヲ合セ首從ヲ分タ
 ス罪ヲ科ス三拾圓以上懲役終身トアルニ依リ懲役終身ノ處名例律斷罪無正條々例ニ凡罪
 ナ斷スル正條アリト雖モ所犯情狀輕キ者ハ情ヲ量リテ輕減スルヲ聽シ云々トアルニ照
 シ五等ヲ酌減シ懲役二年半士族ナルヲ以テ改正開刑律ニ凡華士族罪ヲ犯ス者ハ禁獄ニ處
 ス若シ姦盜等ノ罪ヲ犯シ廉耻ヲ破ルヲ甚シキ者ハ除族シテ本刑ヲ加フトアルニ照シ除族
 ノ上懲役二年半申付ル

藤原久吉於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月廿九日附テ以本院ニ上告ノ旨越左

ノ如シ

第一明治十三年八月十九日岡山縣備前國赤坂郡下市村平民竹井文四郎宅ニ於テ同縣同國
 同郡鴨前村平民竹下熊吉同村淺井常吉廣嶋縣備後國品治郡向永谷村萩原常太及ヒ自分等
 ト賭博ヲナシタルニ右常吉カ所持スル所ノ金五拾五圓ハ該賭房ニ於テ悉皆打負タリ其勝
 ナ得ル者則チ「常太」ナリ後チ自分ハ「常太」ヨリ該金ヲ預リ懷中シ居ルヲ取戻サントセシ
 ヲリ常吉ハ自分懷ニ手ヲ入レ爭論ヲ發シ遂ニ該金ヲ如何セシヤ分ラサルヲ以テ右四名ノ
 者共穿鑿ヲナスモ相分ラス因テ常吉ニ云フヨウ互相賭博ヲナシ結局常太カ勝テ得テ所持
 金ヲ負ケタルトテ懷ニ手ヲ入レ取戻サントセシハ不當ナリ異存アルハ尙ホ自分宅ニ求タ
 レト住所等ヲ述ヘ其儘歸邸セシマテニテ自分ハ常吉ヨリ一錢金タモ申請タルヲ無之候
 第二判文中ニ「竊盜條ニ其臨時捕ヲ拒ク者ハ強盜ヲ以テ論スト」アリ抑モ自分捕ニ就キタ
 ルハ判文ニ明記アル如ク明治十三年十一月十日宇都宮勝方ニ於テ白神祐治木村壽太郎等
 ト金錢ヲ賭ケ勝負ヲナシ土井與八勝テ得テ壽太郎所持金悉皆打負ケ決算ノ後チ再ヒ勝負
 云々之儀自分ト壽太郎示談中右祐治歸宿セリ因テ祐治ノ宅ニ至リタルモ未タ歸宅セス折
 柄岡山區妹尾町藤原忠ハ兼テ同人ノ知己ナルヲ知リ之レヘ行カントセシ途中同區瓦町ニ
 於テ巡查鹽見某尋問ノ儀アル由ヲ以テ直チニ岡山警察署ヘ拘引セラレタルモノナレハ些
 シモ捕ヲ拒キタルノ事由之レナク候

辨明

右ノ主意ニ依リ今回奉上告候條原裁判ヲ破毀シ至當ノ御審判ヲ奉仰願候以上

凡事實ヲ認定スルハ原裁判所承審官ノ主權ナリ蓋其事實ト認定セシ資料ニ採タル理由ノ性質ヲ檢審スルハ又本院ノ權内ナルヲ以今上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ檢審スルニ其資料ニ依リタル性質上不法トナス廉アルコトナシ故ニ原裁判所ノ裁判ヲ不法トナスヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月二十日神戸裁判所ニ於テ藤原久吉ニ言渡シタル裁判ヲ被毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者ナリ

第一千三百四拾六號

○判文(不應爲ノ件) 明治十四年七月八日上告 明治十四年十一月十五日判決

京都府丹波國永井郡第一組北廣 瀬村平民

廣 瀬 梶 之 助

明治十四年六月三十一日

明治十四年六月二十九日京都裁判所管内園部區裁判所ニ於テ右梶之助ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀井尻準吉同居後見人小川禪五郎ナル者カ同人所有山林ノ立木ヲ擅ニ伐採セシテ告訴スル一件ニ付井尻陣平ナル者ヘ委任スル右委任狀ヲ相認メ且同人ト申謀リ親屬協議上ナリ連根リニ準吉ノ實印ヲ新調サセ右印ヲ以テ委任狀中同人名下ヘ押捺スル科改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日ノ贖罪金貳圓貳拾五錢申付ル

廣瀬梶之助ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年七月八日附キ以テ本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

夫レ委任狀ヲ詐爲セント云フモノハ決テ故意ヲ以テ爲シタルモノニアラス萬止ム可カラズシテ單ヘニ親戚間ノ情義ヲ望レンシ幼名ノ成長如何ト井尻家ノ破産ヲ焦慮スルノ熱心トニ出テタルモノニシテ強テ上告者カ專斷ニ出テシニアラサレハ容易刑ノ宣告ヲ受ケ可キノ理由ナシ何トナレハ親屬井尻準吉ノ實父五郎兵衛ナルモノ去ル明治十二年二月二十二日死亡シテ長男準吉ハ甫メ八歳長女「イッ」ハ甫メ六歳孰レモ幼稚實母ハ父ニ先立テ死亡シ幼者ハ尙ホ未タ事理ノ辨識モナク家政ヲ掌ルコト得サルハ上告者ハ幼者ノ擁護ヲ務ムル自ラ情義ノ免レサルモノニシテ且擁護ノ上策ヲ得ルヲ以幼者ノ大幸ト言ハサルヲ得ンヤ若シ然ラハ其擁護ヲ爲スニ該ツテ幼者便益ノ爲メ之カ計略ヲ施用スルハ上告者及ヒ自他親屬中ノ權限内ニ屬シ若シ他ニ人アツテ幼者ノ權利ヲ侵害センニハ茲ニ親屬會議ノ決ヲ採ツテ相當ニ防禦ノ策ヲ施スハ勢ヒ理ノ然ラシムルモノナレハナリ

然ルニ親屬中ニ最モ下等ニ位スル幼者ノ再從弟小川禪五郎ト云フモノアリ幼者ノ尊屬親ノ允諾ヲモ不待俄然侵入シ傲然トシテ家政ヲ擅盜シ尊屬隣里亦タハ郡長戸長等ノ理解ヲモ容レズ剩サヘ幼者ノ所持スル山林ヲ擅伐シ或ハ貸附金穀等ヲ徵收シ或ハ動不動産上ニ生スル實益ハ悉ク自己ノ有トナシ亦タハ戸長ノ公正ノ證ヲ請フテ不動産ヲ賣却セント欲シ及ヒ擅伐セシ樹木ノ價金并ニ幼者ニ屬スル實益金モ亦自己ニ得テ不義ノ利益ヲ逞フスル所爲タル畢竟幼者及ヒ其尊屬親ヲ輕蔑スルノ太甚シ幼者井尻準吉一家ノ破産炳乎ト

シテ筆紙ニ盡ス可キナシ況ンヤ亡五郎兵衛カ押用シテ遺シ置キタル印影ヲ奪取シ擅ニ濫用シ居ルノミナラス遺言書モ自分カ目前ニ於テ詐爲セリ
 幼者ニ斯ク恐懼ス可キ災害ノ醸生セシ場合ニ臨ンテ苟モ親屬及ヒ本末ノ情誼トシテ袖手傍觀スルノ理アラシヤ其災害ヲ排撃シテ幼者ヲ擁護シ財産ノ逸散ヲ防クハ自ラ義務ノ當然ニ付爲メニ當時親屬ノ會議ヲ開ヒテ小川禪五郎カ不良ヲ詰責シ他日ニ災害ヲ醸生セシヲ未發ニ豫防セント第一五郎兵衛ノ遺シ置キタル印影ノ實用ヲ壅キ仍ホ幼者ノ印影ハ集議ノ決ヲ以テ新調シ其旨戸長ニ届出テ然リ而シテ禪五郎ヲ告訴シテ其不良ヲ糾サント同罪者井尻陣平へ與ヘタル委任狀ニ幼名姓名ヲ掲載シ改正印ヲ押捺シタルモノ即チ親屬集議ノ決ス所ニ出テタルハ強テ擅ニ親屬會議ヲ開セテ委任狀ヲ詐爲セシモノニアラサルナリ

要スルニ侵實者禪五郎ヲ告訴シテ其不正ヲ實メント幼者ノ姓名ヲ掲載シ及ヒ改印ノヲ決議スルモ是レ皆ナ幼者ヲ擁護セシ哀情ノ原キヨリ出テタルモノニ全ク幼者ノ利益ノ爲メタル事一曰炳然ナリ故ニ前條ノ事實ニシテ上告者ハ毫モ犯罪ノ廉之レナケレハ私擅文書詐爲ノ罪ヲ蒙リ不應爲輕贖罪刑ニ處斷セラル可キ謂レ之レナキナリ然ルニ區裁判所ハ何等ノ點ヨリ論シテ斯ル不明ノ宣告ヲナシタルヤ是レ不服ニ破毀ヲ要ムル所以ナリ

辨明

上告ニ依リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ上告者カ井尻陣平ノ委任狀ヲ詐爲シ且實印ヲ造リタルモ其實印改正ノ旨ヲ戸長ニ届ケ出テスヘテ隱匿ノ情アラサルハ單ニ小川禪五郎

カ所爲ニ對シ進吉カ名義ヲ以テ告訴セシト欲スルノミニシテ他ニ不良ノ意アラサルヤ明ラカナリト雖モ抑進吉ノ承諾ヲ得スシテ擅ニ實印ヲ新調改正シ且該文書ヲ詐爲スル等何ソ罪ナシトセンヤ然ハ則原裁判所カ之ヲ不應爲輕ニ問ヒ聽贖ノ處斷ニ及ヒタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月二十九日京都裁判所管内園部區裁判所ニ於テ廣瀬梶之助ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ
 第千三百四拾七號

○判文(不應爲ノ件) 明治十四年七月八日上告
 明治十四年十一月十五日判決

京都府丹波國船井郡第六組殿田
 村平民

井 尻 陣 平

明治十四年六月
 四十年五月

明治十四年六月二十九日京都裁判所管内園部區裁判所ニ於テ右陳平ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀井尻進吉方同居後見人小川禪五郎ナル者カ同人所有山林ニアル立木ヲ擅ニ伐採セシヲ告訴スル一件ニ付右進吉外五名ヨリ井尻陣平へ該告訴ノ件ヲ委任ナシタル旨ノ委任狀ヲ取將ヘ廣瀬梶之助外四名ノ親屬ハ署名捺印シタルモ進吉於テハ幼者ニシテ委任ノ何

タルヲ辨知セサルトテ獲親屬協議ヲ主張シ梶之助等ト相謀リ準吉方維持ノ爲ナリトテ
擅ニ同人ノ實印ヲ改正シ準吉名下ニ押捺シタル委任狀ヲ詐爲スル科改定律例第二百四十
六條ニ依リ不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日ノ處從タルヲ以テ一等ヲ減シ同二十日ノ贖罪金壹
圓五十錢申付ル

井尻陳平ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年七月八日附テ以テ本院ニ上告ノ旨趣
左ノ如シ

夫レ委任狀ヲ詐爲セシト云フモノハ決シテ故意ヲ以テ爲シタルモノニアラス萬止ム可カ
ラヌシテ單ヘニ親戚間ノ情義ヲ重シ幼者ノ成長如何ト本家ノ破額ヲ焦慮スルノ熱心ト
ニ出テタルモノニシテ強テ上告者カ專斷ニ出テシニアラサレハ容易刑ノ宣告ヲ受ケ可キ
ノ理由ナシ何トナレハ親屬井尻準吉ノ實父五郎兵衛ナル者去ル明治十二年二月二十二日
死亡シテ長男進吉ハ甫メ八歳長女「イク」ハ甫メ六歳孰レモ幼稚實母ハ父ニ先立チ死亡シ
幼者ハ尙ホ未タ事理ノ辨識ニナク家政ヲ掌ルコト得サレハ上告者等ハ幼者ノ擁護ヲ務ム
ル自ラ情義ノ免レサルモノニシテ且擁護ノ上策ヲ得ルヲ以テ幼者ノ大幸ト言ハサルヲ得
ンヤ若シ然ラハ其擁護ヲ爲スニ該ツテ幼者便益ノ爲メ之レカ計略ヲ施用スルハ上告者及
ヒ自他親族中ノ權限内ニ屬シ若シ他ニ人アツテ幼者ノ權利ヲ侵害セシニハ茲ニ親屬會議
ノ決ヲ採ツテ相當ニ防禦ノ策ヲ施スハ勢ヒ理ハ然ラシムルモノナレハナリ
然ルニ親屬中ニ最モ下等ニ位スル幼者ノ再從弟小川禪五郎云フモノアリ幼者ノ尊屬親
ノ允諾ヲ不待俄然慢入シ傲然テ家政ヲ擅恣ニ辱屬隣里亦々郡長巨長等ノ理解ヲ

モ容レヌ剩サヘ幼者ノ所持スル山林ヲ擅伐シ或ハ貸附金穀等ヲ徵收シ或ハ動不動產上ニ
生スル實益ハ悉ク自己ノ有トナシ亦タハ戶長ノ公正ノ證ヲ請フテ不動產ヲ賣却セント欲
シ及ヒ擅伐セシ樹木ノ價金並ニ幼者ニ屬スル實益金モ亦タ自己ニ得テ不義ノ利益ヲ逞フ
ナル所爲タル畢竟幼者及ヒ其尊屬親ヲ輕蔑スルノ太甚シク幼者井尻準吉ハ家ノ破額炳乎
トシテ筆紙ノ尽ス可ナシ况ヤ亡五郎兵衛カ押用シテ遺シ置タル印影ヲ奪取シ擅ニ濫用シ
及ヒ遺言書ヲ偽作セシヤ(偽造セシ「ハ」同罪者廣瀬梶之助カ自首狀其他ノ書票ニテ詳ナリ)幼者ニ斯ク恐懼ク可キ災害
ノ釀生セシ場合ニ臨ミテ苟モ親屬及ヒ本末ノ情誼トシテ袖手傍觀スルノ理アラシヤ其害
ヲ排撃シテ幼者ヲ擁護シ財産ノ逸散ヲ防シハ自ラ義務ノ當然ニ付爲メニ當時親屬ノ會議
ヲ開ヒテ小川禪五郎カ不良ヲ詰責シ他日ニ災害ノ釀生センヲ未發ニ豫防セント第一五郎
兵衛ノ遺シ置キタル印影ノ實用ヲ壅キ仍ホ幼者ノ印影ハ集議ノ決ヲ以テ新調シ其旨戶長
へ届出テ然リ而シテ禪五郎カ告訴シテ其不良ヲ糾サント他親屬ヨリ上告者へ受任シタル
委任狀ニ幼者ノ姓名ヲ掲舉シ押用ナシタル委任狀即チ親屬會議ノ決ヨリ成立チタルモノ
ニシテ強テ擅ニ親屬會議ヲ開ヒテ委任狀ヲ詐爲セシモノニアラサルナリ
要スルニ侵奪者禪五郎ノ告訴シテ其不正ヲ責メント幼者姓名ヲ掲載シ及ヒ改印ノコト決
議スルモ是レ皆チ幼者ヲ擁護セシノ哀情ノ厚キヨリ出テタルモノニシテ幼者ノ利益ノ爲
メタルコト一目炳然ナリ故ニ前條ノ事實ニシテ上告者ハ毫モ犯罪ノ廉之レナケレハ私擅文
書詐爲ノ罪ヲ蒙チ不應爲輕贖罪刑ニ處斷セラル可キ謂レ之ナキナリ然ルニ區裁判所ハ何
等ノ點ヨリ論シテ斯ル不明ノ宣告ヲナシタルヤ是レ不服ニシテ破毀ヲ要ムル所以ナリ

辨明

上告ニ依リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ上告者カ井尻準吉ノ委任狀ヲ詐爲シ且官印ヲ造リタルモ其實印改正ノ旨ヲ戸長ニ届出テスヘテ隱匿ノ情アラサルハ單ヘニ小川禪五郎カ所爲ニ對シ準吉カ名義ヲ以告訴セント欲スルノミニシテ他ニ不良ノ意非サルヤ明ラカト
リト雖モ抑準吉ノ承諾ヲ得スシテ擅ニ實印ヲ新調改正シ且該文書ヲ詐爲スル等何ソ罪ナシトセンヤ然ハ則原裁判所カ之ヲ不應爲ノ輕ニ問ヒ從タルヲ以テ一等ヲ減シ聽贖ノ處斷ニ及ヒタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月二十九日京都裁判所管内園部區裁判所ニ於テ井尻陳平ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ
第千二百四拾八號

○判文(賭博ノ件)明治十四年六月二十八日上告
明治十四年十一月十五日判決

岡山縣岡山區桶屋町平民當時西

田町寄留

白 神 祐 治

明治十四年六月

三十年二月月

岡山縣備前國邑久郡豐原村平民

土 井 與 八

明治十四年六月
三十二年十二月

右祐治與八ニ對シ明治十四年六月廿日神戸裁判所岡山支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

白 神 祐 治

其方儀明治十三年十一月十日宇都宮勝方ニテ藤原久吉土井與八ト共ニ木村壽太郎ヨリ金貳百圓ヲ得タルハ詐僞ノ所爲タリ因テ其取還ヲ拒キタルハ不持兇器強盜ヲ以テ論スヘキ者トシ警察官之レヲ求刑シタレモ其方ハ共ニ賭博ヲ行フテ贏得タルナリト辨護シ壽太郎モ亦賭博トハ心得サレモ米價ノ高低ヲ以テ輸贏ヲ決スル者タルヲ知リナカラ其籤ヲ抽キ遣ハシ又ハ其金ヲ貸與ヘタリト陳述セル以上ハ共ニ賭博ヲ行フタル者ニシテ詐欺取財ニ就非ストス而シテ其方カ現場ヨリ贏金及ヒ賭具ヲ携帶シ去ルヲ壽太郎ニ追跡セラレ捕ニ就タルヲ以テ現行ニ準シテ論シ雜犯律賭博條ニ凡財物ヲ賭シ博戲ヲ爲ス者ハ皆杖八十賭場ノ財物ハ官ニ入ルトアルニ照シ杖八十申付ル
贏金及ヒ賭具ハ皆取上ル

土 井 與 八

其方儀明治十三年十一月十日宇都宮勝方ニテ藤原久吉白神祐治ト共ニ木村壽太郎ヨリ金貳百圓ヲ得タルハ詐僞ノ所爲タリ因テ其取還ヲ拒キタルハ不持兇器強盜ヲ以テ論スヘキ者トシ警察官之レヲ求刑シタレモ其方ハ共ニ賭博ヲ行フテ贏得タルナリト辨護シ壽太郎モ亦賭博トハ心得サレモ米價ノ高低ヲ以テ輸贏ヲ決スル者タルヲ知リナカラ其籤ヲ抽キ遣ハシ又其金ヲ貸與ヘタリト陳述セル以上ハ共ニ賭博ヲ行フタル者ニシテ詐欺取財ニ非

スナハルヲ以テ其罪ヲ論セシメ
岡山縣六等警部岸本依信於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月廿八日附送以テ司
法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ
白神祐治及ヒ土井與八ノ裁判文ニ曰ク賭博ヲ行フテ贏得タルナリト辨護シ壽太郎モ亦賭
博ト心得サレヒ米價ノ高低ヲ以テ輸贏ヲ決スルモノヲ知リナカラ其籤ヲ抽キ遣ハシ又ハ
其金ヲ貸與ヘタリト陳述セル上ハ共ニ賭博ヲ行フタルモノ云々トアレヒ右ハ第一法理ニ
悖リ甚ク事實ニ適セサルヲ覺フ奈トナレハ民事原告人木村壽太郎ヲシテ若シ明治十三年
十一月十日宇都宮「カツ」宅ニ於テ被告久吉祐治等ト博戯チナシ輸贏ヲ決シ尋常取引チ
ナシタルト見テ焉ヲ知ラン壽太郎ハ姑ク置キ苟モ人事ヲ辨スルモノ、所爲ニ於テ恐ラク
之レヲ怒リ官ニ訴出ツル情意果シテ發スル理アリトスルヤ凡百物トシテ皆ナ情ノ備ハラ
サルナシ宜シク此舉ニ就キ慎重其情ヲ察セサルヲ得ス蓋是レ原因ノナキヲ得サル理ハ他
ノ事狀ニ徴シテモ敢テ見ルニ難シトモサレハナリ然レモ或ハ賭博場ノ通態ヲ考フレハ往
々彼我ノ違約ヲ爭ヒ一時憤怒ノ餘暴發スル徒ナキニアラサレモ抑モ本件ノ事理ヲ推察シ
渾テノ行爲ヲ檢舉シ被告ト定メタル所以ハ虛擬ノ紙幣ヲ携帯スル而已ナラス已ニ各供ニ
見ユル如ク彼ノ偽札ヲ以テ七拾圓ハ石田一直ヨリ三百圓祐治ヨリ即チ拘定ノ砌出金ナ
シタル事アリテ故サラニ與八チ且那祐治チ番頭ニ稱セシメ而シテ其結局ニ至リ壽太郎
ヨリ正金貳百圓ヲ落手スルヤ鈔ニ祐治ノ逐電踪跡ヲ隱スニ乘シ尋テ久吉與八ノ名ヲ搜索
ニ托シ忽チ辭シ去ル舉動其他陳述ノ定マラサルハ事實ニ據ラサルハ弊就中「二辨護防匿

ノ術ニ富シハ曩ニ同謀通贓ノ然ラシムル處深ク怪シニ足ラサレモ夫レ如此終始一節局騙
ノ手段詐欺ノ事跡著々發見アツテ剩サヘ久吉ノ如キハ本案ノ推鞠ニ係ルニ事ニ及ヒ且前
科賭博罪アルハ稍ヤ方法ニ少差アリト雖モ詐術ニ至リ毫モ異ナル處ナリ仍ホ退テ現今ノ
時態ヲ觀察スルニ同一ノ惡習到處ニ蔓布シ實ニ痛歎ニ不堪畢所犯ニ對シ刑ノ適用ヲ得サ
ルヨリ茲ニ至ルト云フモ敢テ誣言ニアラスト信用セリ然リ而シテ今日之レヲ防カス法律
上ハ如斯時弊ヲ見テ矯正セシ措テ問ハサルハ徒爲ニ屬シ況ンヤ本件ノ如キ詐欺ノ事跡
歴々證據完備セルモノヲ審明セシ如此處斷ナスハ法ヲ濫リ事實ニ適セサル不當ノ甚シキ
モノト信認仕候間一件書類取纏メ致上告候也

辨明

凡事實ヲ認定スルハ原裁判所承審官ノ主權ナリ蓋其事實ト認定セシ資料ニ採リタル理由
ノ性質ヲ檢審スルハ又本院ノ權内ナルヲ以テ今上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ檢審スルニ
其事實ト認定セシ理由ノ性質上不法トナスヘキ嚴アルコトナシ

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月廿日神戸裁判所岡山支廳ニ於テ白神祐治土井與八ニ言
渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシトス

第千三百四拾九號

○判文(無罪ノ件)明治十四年七月七日上告
明治十四年十一月十五日判決

神奈川縣相模國足柄下郡小田原

十字町一丁目坂本元善方同居平民

井上市左衛門

明治十四年六月
四十一年八月

明治十四年六月二十九日横濱裁判所管内小田原區裁判所ニ於テ右市左衛門ニ左ノ裁判ヲ旨
渡シタリ

其方儀足柄下郡中曾根村木村繁次郎ヨリ領收スル新證書ヲ藏匿シ不實ノ訴訟ヲ爲シ同
人ヨリ金員ヲ詐取シタル罪證アリトノ公訴ニ付訊問ヲ遂ル處明治十年三月二十三日金貳
拾八圓四十五錢金一圓ニ付日歩六厘ツ、ノ約定ニテ右繁次郎へ貸與へ明治十年五月四日
元利殘金拾貳圓七拾八錢七厘貳毛出訴ノ末連署濟口書ヲ呈シ其後明治十一年二月二日再
ヒ該證書ヲ以テ元利金十三圓五拾錢八厘出訴ニ及ヒ猶又示談ノ上願下ケテ爲シタリ然ル
ニ繁次郎ニ於テハ其際無利息五圓ノ証書ヲ交付シ義務ヲ更改シタリト云フモ示談迄ニテ
其證書ニ加判人ナキ故受領セサリト申立授受シタル確證ナシト雖モ小形邦孝及敷田藤
兵衛等ノ伸供ニ據レハ先ツ該五圓證ハ受取リタル如シト雖モ其加判人ノ調印ナク登初ノ
約束ノ如ク整備セサルコト繁次郎等ノ供伸上ニ明ラカナレハ縱令該五圓證ヲ受取リタル
モノトスルモ前ノ證書現在スルヲ以テ觀ル時ハ未ダ義務ノ更改ハ遂成セサルモノニ付前
ノ證書ヲ反古紙ト言フヲ得ヘカラス且ツ加藤善次郎ニ於テ繁次郎ノ親ニ應ジ調印ノ爲メ
參リタル云々ノ申立ニ至テハ證左ナキ口實ニシテ信用スルニ由ナキモノトテ何トナレハ

當時僅カシ金員云々ノ旨申聞クアリシナラハ舊證書ヲ受取リ歸ルニキハ當然ナリ況ンヤ
新證書ヲ交付シタルノ明證ナキニ於テチヤ故ニ繁次郎ニ於テ其義務ヲ盡サ、ルニ依リ前
ノ證書ヲ以テ明治十二年十一月十七日元利金七拾八圓五拾壹錢五厘請求ノ訴訟ヲ爲シタ
ルモノニシテ入金違算ノ儘裁判ヲ受タルハ當時繁次郎カ舉證辨護ヲ忽カセニ付シタルヲ
以テ終イニ繁次郎ノ敗訴トナルモノナリ然ルニ繁次郎ハ其裁判ニ服セスシテ東京上等裁
判所へ控訴シタリ其要點ハ第一返濟金額ニ違算アリトノ第二請求スル證書ハ新證ト交
換シ反古紙ナリトノ而テ審理ヲ受クルニ當リ入金及ヒ勘定違ハ差引ク可キ旨申立タル
ヨリ第一項ニ異論ナク第二項ハ繁次郎ノ代官人ニ於テ取消シタルヲ以テ終ニ争点ナキニ
歸シタルモ願下ノ示談整ハサルヨリ原告申立ル如キ濟方ヲ受ク可シトノ裁判ヲ受タリ右
終審裁判確定ノ後ニ至リ執行ヲ願出テ上等裁判所ノ裁判ニ因リ精算ノ上明治十三年九月
二十六日金五拾九圓八拾七錢八厘壹毛ノ濟方ヲ受ケタルモノニシテ不當ノ所爲ニアラス
繁次郎代官人カ事情ヲ熟知セサルヨリ過テ第二項ヲ取消シタリト言フカ如キハ自ラ取ル
所ニシテ他ヲ責ムヘキ理由ナキニ付到底民事上ノ取引ニ過キサルヲ以テ其所爲刑律ニ觸
ル、廉ハ無之モノトス依テ無擄

神奈川縣九等警部嶋村文耕ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年七月七日付ヲ以テ
司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣ハ左ノ如シ
抑モ小田原區裁判所カ該訴ヲ認メテ民事處分ニ係ルニ過キス事刑律ニ不涉ト宣告スルハ
左ノ三点ヲ誤認シ左ノ三款ヲ拋棄スルニアリ

一井上市左衛門ハ盲目人ニシテ警隻ノ如クナラサル通常ノ發疾者ト認メ彼レカ言辭ヲ正當ナル供述ト認ムル是レ一点ノ誤認ナリ一加藤「イッ」ハ裁判所ニ於テ翻違シタル口供ヲ以テ正當トシテ猶ホ警察官ニ於テ殘嚴ナル取調ヲ爲シタリト云フテ正當ト認メ警察官ニ於テ丁寧ニモ又一層ノ丁寧ヲ加ヘ人情ハ迷ヒ易ク誤リ多キコトヲ演說シテ誤謬ヲ改メシメントスルニ際シ猶更ニ誤謬ナシト迄云ヒ一度處テ異ニスル裁判所ニ於テ掌ヲ翻スカ如ク自ラ夫ノ敗訴タル可キコトヲ知リ其要點ヲ掩蔽スルコトヲ至當ナリト誤謬スルコト是レ其二点也

一新規五圓證ヲ受ケ取り古證文ヲ不却サルハ被告人ノ不正ニ出テス却テ告訴人ノ失誤ニシテ自ラ取ル災ト爲シ其證古證存在スルヲ以テ新規證ハ無効ノ證トシ加判人善次郎ノ供述ヲモ取用セス證文新舊更改契約未定ノ者トシテ新規證文授受ノ後チ四圓金ヲ明カニ五圓金ノ内金ニ請取アル新證文ノ授受契約成立シタルノ證ヲ判官ノ眼中ヨリ擲棄スルヲ以テ第一款トス

一裁判官ハ新規證文ノ授受ノ約已定スレハ何故ニ舊證ヲ被告人ノ手裏ニ保存セシムルヤ已ニ其舊證カ被告人ノ手裏ニアルヲ以テ遂ニ金五拾圓余ヲ始審裁判併ニ控訴裁判所ニ於テ判決ヲ下サレタルヲ憤懣堪ヘストナレハ何故ニ手裏ニアルモ無効ノ證ナリト云證言ヲ始審應ニ於テ過テナサシムルモ控訴應ニ於テ十分ニ辨論ナサシムル也已ニ兩應ニ於テモ不爲シテ告訴スルモ自ラ過テ改メテ敗訴シタルヲ見レハ舊證ハ効用ヲ爲スノ證文ニシテ却テ新規證ハ不完全ノ證文ナリト極言シテ此公訴ヲ民事以テ争点判決ヨリ引據シテ告訴狀

ヲ拋棄セル第二款ナリ

一被告市左衛門カ平常他人ニ對シ金ヲ貸ストキハ盲目ナルヲ以テ口上ノ相談ハ調フモ金圓ノ出納證文ノ授受ハ專ラ同人妻加藤「イッ」カ出納授受スルコトナルヲ以テ警察官ハ加藤「イッ」ノ言語ヲ以テ尤モ緊要トナス所ナルニ裁判官ハ「イッ」ノ口述ヲ徒ラニ翻違セシメ盲目人市左衛門カ書記捺印スル不能ノ陳述書ニ裁判官ハ捺印スルヲ適當ノ證トシテ數田藤兵衛小形邦老等ノ證言ヲ法庭ヨリ投棄スルノ第二款ナリ

前陳ノ如ク小田原裁判所ハ刑法ニ觸レサル者タル證據トシテ宣告スルモ檢察官ニ於テハ左ノ證據アルヲ以テ刑法ニ觸ル者トス一井上市左衛門ハ示談願下チ爲スモ壹錢モ不受取新證文ヲモ手ニ取りシコトナシト云モ九圓切拾五圓ノ返辨高ニ取極メタルコト兩度ニテ最後ノ願下示談ノ節新規證文ヲ小形邦老カ書記シ市左衛門妻ニ渡シ續テ願下チ爲スコトノ代人トナリタルト云フヲ以テ見レハ佞令市左衛門ハ手ニ取りモセス不知ト云フモ必ス市左衛門ト妻トノ間ニ五圓證ヲ掌握シタルコトハ争フ可カラサルナリ況ンヤ妻並ニ加藤善次郎始末書數田藤兵衛口供アルニ於テチヤ是漸證ヲ入手シタル證據ノ第一也今一步チ市左衛門ニ讓リ新証ハ市左衛門ノ云フ如ク加判人ナキノ證文ト云フモ已ニ四圓金ヲ壹圓宛四度ノ無利息月賦ノ内即チ新證ヲ作りシ後木村繁次郎妻ヨリ市左衛門妻カ受取タルト云フ加藤「イッ」ノ口供是ハ裁判所ニ於テ翻違セサル口供ナリヲ以テ見レハ無利息五圓ノ月賦壹圓ツ、差入レルコトノ契約ハ完全シタル者ニテ已ニ其契約ヲ壹圓ヨリ四圓迄履行シタルニ非ラスヤ是レ新證ハ加判人ナキモ完全ニシテ其無利息月賦契約ヲ雙方ニ於テ結了シ實行シタル證據ナ

一加藤「イソ」ハ警察署ニ於テ拘留中家ヤ子ヲ思ヒ氣モ轉動シテ遂ニ拇印シタリト云フハ全ク不當ノ妄言ト云ハサルヲ得ス如何トナレハ初メ證告官ニ於テ取調中ハ互ニ事情ヲ通謀スルヲ忌ミ拘致スルモ二月一日口供甘結シタルヲ以テ歸宿セシメ其翌日再審シテ二月二日ニ相違ナキヲ甘結シ猶檢察官ニ於テ取調中モ婦女ナル故拘致セスシテ種々人ニ心得違アルヲ説キ示メシタル後相違ナシト云フヲ以テ甘結セシメナルヲ彼レハ裁判所ニ於テ云フ如ク拘留中ニ爲シタル口供ト云フヘカラス又裁判官ニ於テモ彼レカ言ヲ信用スヘキ者ニ非サルナリ

此第一證タルヤ市左衛門カ新證ヲ不知ト云ヲ得ス裁判官亦知ラサル者ト認ム可カラサル證ナリ

此第二證タルヤ無利息月賦契約ニ古證文ノ契約ヲ變改シタル證ニシテ市左衛門カ契約變改セスト云フモ裁判官ニ於テ其契約變改ノヲ示シ古証文ハ無効タルヲ宣告セサルヲ得サル者ナルニ却テ反對ノ宣告ヲ爲スハ不當ノ宣告ト稱スヘキ證也以上ノ三證ニ因テ加藤「イソ」ハ口供ヲ翻違スルモ斷然古證文ノ日賦利付金ハ變シテ無利息月賦五圓金トナルヲ知ルヘキナリ然レハ市左衛門ハ仮ニ五圓證ヲ入手セスト見ルモ變改シタル無利息金ヲ以テ訴訟ヲ起スヘク必ス日賦利付ノ金高ヲ以テ起訴スヘカラサルヤ明カナリ況ヤ新規定ヲ入手シタル證ハ加藤「イソ」其他數田藤兵衛ノ口供等ニテ判然タルコ於テチヤ一裁判所ハ古證文ヲ市左衛門カ持チ居ル以上ハ義務交換契約ノ更改ハ未定ノ者ナルト認

ムルモ已ニ前條々ノ如ク契約后金圓授受シタル證アルニ於テハ決シテ古證文ハ有用トナスヘカラス
前陳述ノ如クナルカ故ニ市左衛門ハ新規五圓證ト無利息ノ契約ヲ壹圓宛四ヶ月履行シタルヲ掩蔽シテ有利古證文ヲ以テ出訴シ其財ヲ得ルハ詐欺取財告上不以實ノ罪アル者タルヲ照平トシテ瞭々タリ
右之如ク證據充分ナル有罪者ヲ罪トナサス刑法ニ於テ無構者ト宣告スルハ不當ノ裁判ナリ

辨明

上告ノ主點ハ被告人市左衛門カ木村繁次郎ヨリ領置スル貸金ノ有利舊證書ハ無利ノ新證書ト更改シ其義務ヲモ履踐セシニ拘ハラス新證書ヲ受取シコナシトシ舊證書ヲ以テ多分ノ金圓ヲ訟求セシハ詐欺取財並ニ告上不以實ノ罪アリト云フニ在リ果シテ市左衛門妻「イソ」及ヒ小形邦孝數田藤兵衛等ノ陳述ニ據リ新證書ハ市左衛門カ落手シタルモノトスルモ該證不満足ノ廉アリテ其契約ヲ違變スルハ權利者ノ隨意ナリ況ンヤ新證ノ成立セサルハ舊證ノ市左衛門ノ手ニ存在スルヲ以テ爭フヘカラサル證アルニ於テチヤ抑上告者ハ事實ノ判定ニ關シ是非スト雖モ本件ノ如キハ純然タル民事ノ詞訟ニ止マルモノナレハ原裁判所カ市左衛門ニ對シ刑法ニ觸ル、廉無之ト宣告セシハ違法ト爲スヘキモノナシ

判決

右ノ如クナルニ因リ明治卅四年六月廿九日橫濱裁判所管內小田原區裁判所ニ於テ井上市左

備門ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシ
第千三百五拾號

○判文(費用受寄財産ノ件)明治十四年九月二日上告
明治十四年十一月十五日判決

嶋根縣出雲國島根郡新材木町平
民

木村新八郎

明治十四年八月三十一日松江裁判所ニ於テ右新八郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
三十二年三月月

其方儀福井虎之助ト田村「セン」カ貸借金ノ件ニ付「セン」ヨリ其周旋ノ依頼ヲ受ケ同人ヨ
リ虎之助ヘ差入ルヘキ金員度々ニ受領シタル合金八圓貳拾錢ノ内費用セシ金三圓ハ預リ
證書ヲ以テ虎之助ヘ差入共承諾ヲ得シニ依リ罪ノ問フヘキナシト雖モ其餘金三圓貳拾錢
今ニ交付セサリシハ虎之助ト利益等ノ談判纏マラサルカ故ナリト辨論スル所アレモ虎之
助ハ此ノ如キ談判ヲ爲シタル覺ヘナシト證言スル耳ナラス若シ爾ノ辨論ヲ眞實ナリト假
定スレハ未ダ談判ノ落着(原ノ)セサルニ先テ金貳圓又ハ預リ證ヲ差入ル、理由アラサル
也左スレハ該三圓貳拾錢ハ全ク汝カ費用シタルモノト認定ス
右罪雜犯律費用受寄財産條ニ依リ他人ヨリ財物ノ寄托ヲ受ケ輒ク費用スル者ト同ク坐贓
ヲ以テ論シ一等ヲ減シ贓金五圓以下減シ盡シテ罪ナシ
但費用セシ金三圓貳拾錢取揚ル

松江裁判所詰論事高野孟矩ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年九月二日付テ以テ司法卿
ヲ經由シ本院詰論事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

雜犯律費用受寄財産條ノ性質ヲ考フルニ凡ソ未タ使用ノ目的ヲ確定セサル財産ヲ他人ノ
手裏ニ安置スル物ヲ受寄ノ財産ト云フ而シテ此ノ財産タル賣買變換其他使用ノ目的元ヨ
リ一ツ所有者ノ意ニ任シ受寄者毫モ挿吻スヘキモノニ非ス然ルチ輒ク(即チ一時)其財
産ヲ費用シタル(乾没ノ)意ナシ)マテナルチ以テ坐贓ニ一等ヲ減シテ其罪ヲ科ス最モ斯クアルヘ
キト存ス之レニ反シテ詐欺取財ノ如キ其所爲欺騙百体狀舉テ盡スヘキニ非スト雖モ要
スルニ詐言欺謀ヲ以テ我身ヲ利スル者即チ是ナリ惟フニ木村新八郎カ犯狀ノ如キ貸借ノ
中間ニ入り得ルチ奇貨トシ債主(福井虎)ノ意ヲ左右シ數々詐言ヲ構ヘ工ミニ債主(村田
「セン」小)ヲ欺キ(告訴狀并告訴人)或ハ威シ(曰ク是々ノ金額ヲ出サ、レハ只今ヨリ破
山春伺)手續書ニ徵ス(手續書ニ徵ス)談スヘシ或ハ出訴トナリ迷惑ヲ受ケン
其裁判所喚起アルニ當リテ是ハ眞ノ喚起ニ非ス債主カ威シノ爲メニ發シタルナリ云々
告訴狀ニ陳述ノ如シ)其日其時皆期ヲ刻シテ債主ニ迫リ金員ヲ引出シタル者ナルチ即時(債主
カ陳述セシ八月廿二日及ヒ八月十)債主ニ渡サ、ルカ故債主ヨリ遂ニ出訴スルニ至リタルモ
八日ノ手續書ニ明ラカナリ)債主ニ直談ニ及フニ至リテ八圓貳拾錢ノ内貳圓ノ外ハ債
主ノ落手ナキヲ聞キ愕然トシテ新八郎ノ欺謀ニ陷リタルチ悔ヒ債主ニ對シテ(債主カ八
ノ手續書ニ)別段夫々ノ談判ヲ遂ケ出訴ニ付テテ結果ヲ約シ置キ而シテ債主ヨリ新八
郎ヘ對シ兼テ渡シ置キタル金八圓貳拾錢ノ内六圓貳拾錢ノ返戻ヲ促スモ新八郎ニ於テ言
五六七

伊左右ニ寄セ返戻ナ(檢事調書末段)承諾セサルノミナラス八圓貳拾錢ノ内五圓ノ外ハ受
 取書ナリ(貸主田村スイ)八月廿二日手續書ニ明カナリ渡スヨク拒到底不法ヲ申募リ不得止場合ニ至リ
 告訴ニ及ヒタル者ニテ中ニモ債主虎之助へ前約(八月廿二日債主ノ)モナキニ片便ナリ以テ
 預リ證ヲ授與シタルモノ、如キ不正ノ所爲最モ明ナリ如何トナレハ前ニ自書シテ負債主
 ニ渡シタル五圓金ノ請取書ニ符合セサレハ事ノ發覺センコト恐レ急迫ノ余リ三圓ノ預リ
 證ヲ授與シタルナリ(然レ虎之助ニ於テハ當時承諾セシコト)其授與ノ節八月十二日マ
 テニハ金員ヲ可渡旨虎之助へ宛テ書面ヲ添エタルモ其期日後告訴ヲ受クル時ニ至リ未ダ
 其金員ヲ不相渡以上ノ理由ナルヲ以テ全ク詐謀ヲ以テ時機切迫ヲ促カシ負債主ニ非常ノ
 手配ヲ以テ調達セシメタル金ハ皆我身ノ用ニ供シタルノミ金貳圓ヲ入レタルモ敢テ貸借
 問ノ益ヲ爲サ、ルノミナラス結局本訴ヲ起シタル後原被告對顔ノ上ニテ始メテ之ヲ發顯シ
 タル者コシテ剩へ發覺後其返戻ノ請求ニモ不應不得止刑事ノ處分ニ歸シタル者ナレハ詐
 謀モ亦顯然ナルヲ以テ詐僞取財條ニ據リ處斷スヘキモノナルヲ松井裁判所ニ於テハ費用
 受寄財產條ニ據リ論斷セシハ不當ノ裁判ナリト認ム依テ此段及上告候也

辨明

新八郎カ田村、ヤンレノ依頼ヲ受ケ福井虎之助ニ差入ルヘキ金八圓貳拾錢ノ内金貳圓ヲ虎
 之助ニ差入レ三圓ヲ自ラ預リ証トナシ同人ニ渡シ置殘金三圓貳拾錢ハ之ヲ交付セシ恰モ
 入金セシモノ、如ク詐リ私ニ自カラ使用セシ所爲ハ賊盜律詐欺取財條中冒認スルモノニ
 依リ處斷スルハ不當ノ裁判ナリトス

竊盜ニ準シテ論スヘキヲ相當ナリトス然ルチ原裁判所カ雜犯律費用受寄財產條ニ依リ處
 斷シタルハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年八月三十一日松江裁判所ニ於テ木村新八郎ニ言渡シタル裁
 判ヲ平翻スル左ノ如シ

木村新八郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ賊盜律詐欺取財條冒認スル者ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ
 贓金壹圓以上

懲役六十日

第千三百五拾壹號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年八月廿三日上告
 明治十四年十一月十五日判決

大分縣豊後國大分郡大分町平民

懲役人

是 永 喜 八

明治十四年八月 二十五年

右喜八カ所爲ニ對シ明治十四年八月十五日熊本裁判所大分支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタ
 リ

其方儀明治十三年八月三日同町平民山蔭靈山ヲ欺キ金四圓詐取スル科賊盜律詐欺取財條

ニ依リ窃盜ニ準シテ論シ懲役六十日ノ處罰キニ窃盜贓金七拾圓貳拾錢懲役二年半ノ斷決
 ヲ經タルヲ以テ改定律例第七十三條ニ依リ前贓ニ併スルモ罪ノ加フヘキナシ
 大分縣十等警部吉松安幹ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年八月二十三日附テ以
 テ大審院へ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ
 大分郡大分町山蔭靈山ヨリ告訴ニ付取調ル處右同郡津留村堤「ナチ」所有ノ人力車壹挺ヲ
 借受自分所有品ト偽リ右靈山ニ賣渡シタル旨申立ルニ付右科賊盜律詐欺取財條ニ依リ窃
 盜ニ準シテ論シ贓金壹圓以上懲役六十日然ルニ本犯ハ明治十四年五月二十四日窃盜準窃
 盜首從ノ贓金九拾七圓五拾九錢四厘ノ科懲役三年ノ處改定律例第七十二條ニ依リ一等ヲ
 減シ懲役二年半ノ處斷ヲ經タルモノナリ依テ改定律例第七十三條ニ依リ先ニ結審シテ盡
 サル贓金四圓ヲ前贓金九拾七圓五拾九錢四厘ニ併セ窃盜準窃盜首從ノ贓金壹百零壹圓
 五拾九錢四厘ノ科懲役五年ニ該ルノ處改定律例第七十二條ニ依リ一等ヲ減シ既ニ役過ス
 ル日數ヲ通算シ懲役三年ニ處斷スヘキ見込ヲ以テ熊本裁判所大分支廳ニ求刑及フ處該廳
 ニ於テハ明治十四年八月十五日別紙宣告書ノ通不盡ノ贓金四圓ヲ前發首贓七拾圓貳拾錢
 ニ併セ改定律例第七拾三條ニ依リ罪ノ加フ可キナシト處斷ヲナシタリ然ルニ明治十四
 年五月二十四日該廳ニ於テナシタル裁判宣告書ヲ反復熟視スルニ首贓金七拾圓貳拾錢懲
 役二年半ニ處斷シタルモノニ無之ヲ前陳ノ通ニテ首從ノ贓金九拾七圓五拾七錢四厘懲役
 三年ニ一等ヲ減シ懲役二年半ニ處斷シタルハ勿論ナリ然ルニ單ニ前發ノ首贓金ニ後發
 ノ首贓金四圓ヲ併セ處斷シタルハ法律ニ違不法ノ裁判ナリト考察ス依テ成規之通一件書

類相添へ及上告候也

辨明

被告是永喜八カ所爲ニ對シ賊盜律詐欺取財條詐欺シテ財ヲ得ル者窃盜ニ準シテ論シ贓金
 四圓貳ニ窃盜準窃盜首贓金七拾圓貳拾錢從贓金貳拾七圓三拾九錢四厘併發合計金九拾七
 圓五拾九錢四厘ニ依リ懲役三年改定律例第七十二條ニ照シ一等ヲ減シ懲役二年半ノ處斷
 經タル者ナルヲ以テ改定律例第七十三條後發ノ贓ヲ以テ前贓ニ併セ云々トアルニ依リ後
 發贓金四圓ヲ前發首從贓九十七圓三十九錢四厘ニ併セ首從贓通計金百零壹圓五拾九錢四
 厘ナルヲ以テ窃盜條ニ依リ懲役五年ノ處改定律例第七十二條首從ノ贓並發スル者ハ首從
 ノ贓ヲ併セテ罪一等ヲ減ストアルニ依リ本罪ニ一等ヲ減シ懲役三年既ニ役過スル日數ヲ
 役限内ニ算入スヘキモノナリ然ルニ原裁判所ノ裁判爰ニ出テスシテ改定律例第七十三條
 ニ依リ前首贓而已ニ併セテ罪ノ加フヘキナシト言渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年八月二十八日熊本裁判所大分支廳ニ於テ是永喜八ハ言渡シ
 タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

是 永 喜 八

右ハ前ニ辨明スル如シナルニ因リ改定律例第七十三條ニ依リ後發ノ贓ヲ以テ前贓ニ併セ
 贓金百圓以上賊盜律窃盜條及ヒ改定律例第七十二條ニ照シ懲役五年一等ヲ減シ

懲役三年

但既ニ役過スル日數ハ限内ニ算入ス

第千三百五拾貳號

○判文(竊盜三犯ノ件)明治十四年九月十六日上告
明治十四年十一月十五日判決

嶋根縣伯爵國會見郡米子尾高町
五百三拾六番地平民豐吉長男

仁 瀬 由 太 郎

明治十四年八月
二十一年五月

右山太郎ニ對シ明治十四年九月十日松江裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡ク
其方儀嶋根縣米子警察署ニ於テ岩田兼次郎宅へ忍入金錢簪ヲ盜取リシト甘結セシ口供ヲ
翻異シ右ハ同署ノ拷訊ニ堪ヘカテ止テ得ス不實ノ口供ニ捺印セシモノニテ竊盜再犯以來
又決シテ盜業ヲ働シ之レナク且加藤「サナ」ハ預ケ置キシ簪ハ國郡村民知ラサル爲三郎
ト賭博ヲ爲シ贏金ノ代リニ收受セシモノナリト辨護スル所アレハ其拷訊ヲ受シ證據ナキ
ノミナラス現ニ兼次郎ノ盜ミ取ラレタル簪ハ汝ヨリ「サナ」ニ預ケ置キ而シテ汝ノ之ヲ爲
三郎ヨリ收受セシトノ陳述曖昧ナルヲ以テ視ルモ汝カ辨論ハ到底一時ノ遁辭ニシテ則曩
ニナシタル口供ヲ眞實ナリト認定ス右罪賊盜律竊盜條ニ依リ竊盜三犯贓金五十圓以下懲
役十年申付ル
仁瀬由太郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年九月十六日附テ以テ本院ニ上告ノ
旨趣左ノ如シ

第一條

曩キニ嶋根縣米子警察署ノ警察官ニ自分カ犯罪アリト看認メラレタル原因ハ加藤「サナ」
ナルモノ、所持セル簪ヲ自分カ同人ニ渡シタルヲ以テ犯罪ノ證據トセシレタルモノト想
像セリ然ルニ右物品ハ職業ニ付汗入郡淀江驛ニ罷越シ途中同所煮賣店ニテ同郡ヒラギ村
梶谷爲三郎外二名(備中國壽三郎)ト供ニ酒宴ヲ催シ遂ニ同所海邊船小屋ニテ賭博ヲナ
シ當時爲三郎ヨリ贏金ノ代リニ收受セシ物品ニシテ右加藤「サナ」ニ賣却方依頼シ渡シタ
ル儀ニシテ決シテ自分カ岩田兼次郎方ニテ竊取シタル品ニ無之如斯右簪ノ自分ノ手ニ入
リタリト明瞭ニシテ米子警察署ニテ甘結シタル口供ハ不完全ニ有之候事

第二條

米子警察署ノ口供不完全ナル所以ノモノハ當日ハ自分方ニテ酒宴ヲ催セシ處圖ラス酩酊
シ遂ニイツ方トナク市街遊歩ノ折柄字小路裏ト申所ニテ巡查官ニ捕獲セラレ自分於テハ
曩キニ竊盜再犯以來盜業働キシトモ無之ニ捕獲セラレシヨリ狼狽一形ナラサル由警察
署へ護送セラレ僅カ一時ノ猶豫アリテ夜中御調ニ相成候得共自分ニ無覺之事柄ニ付其
由陳述及シ處強テ自分カ岩田兼次郎方ニテ金錢物品盜取シタリト責問アリ當時立會ノ巡
査官ニハ捕繩ヲ以テ自分カ身体ヲ毆打セラレ小手ハ縛セラレシ儘締メ上ケラレ此拷問ニ
堪エサルヨリ眞ニ精神錯雜シ遂ニ口供ニ捺印セシモノ會テ文字ヲ知ラサレハ文章ヲモ辨知
スル能ハス最モコノ不完全ノ證據ハアルアリ如何トナレハ口供中ニ國郡村民等知レサル
爲三郎トアレト全ク會テ知己ニテ素ヨリ名所等必得居次第ニテ之レカ當時狼狽精神錯雜

中ノ口供タルヲ推知セラレハ全ク不完全ニ有之候事

第三條

右警察署ニテ甘結相成タル口供ヲ以テ松江裁判所於テ實際ノ景況即チ加藤「サナ」ノ所持セル簪ハ伯耆國汗入郡ヒラギ村梶谷爲三郎ヨリ贏金ノ代リニ收受セシモノニシテ岩田兼次郎方ニテ窃取シタル品ニ無之勿論金錢等窃取セシヲ無之旨陳述及ヒタルニ當該官中村判事補ニモ自分カ申分通り口供甘結セシ旨申達セラレタルニ付自分ハ前條ニモ申述セシ如ク文字ヲ知ラサレハ文章ヲ辨知スル能ハス該當官ノ達ニヨリテ拇印致シタル儀ニ有之候事

第四條

以上陳述セシ如クニシテ自分カ窃盜再犯以來又チ盜業ヲナシタルヲ之レナク且加藤「サナ」カ所持セル簪ハ伯耆國汗入郡ヒラギ村梶谷爲三郎ヨリ收受セシヲ明瞭陳述セシチ米子警察署ノ口供眞實ト認定セラレハ全ク御審問ノ不充分ト謂サルヲ得サルナリ如何トナレハ米子警察署ノ口供成ルノ當時ノ景況ハ前條々々陳述セシ如クニナラス拘留セラレシ後右爲三郎ト對審セシヲモ無之及ヒ岩田兼次郎方ノ盜難ノ日ニ於ケル果シテ自分カ他ニ業事アリタルヲ明瞭セハ自分カ盜犯ニアラサルヲ亦チ明カナリ然ルニ其日時ヲ以テ事實ノ審問アリタルヲ無之將チ自分ヨリ證據ヲ供ントスルモ當時ノ自分ヲ推察下サレヨ自分ハ拘留下ナリ他ノ識者ヲ乞テ探知スルニ由ナシ然ハ則チ事實ハ審問ニアリテ先ツ爲三郎カ陳述ノ如何及ヒ岩田兼次郎方ノ盜難ノ當日自分ハ何業ニアリテ何レニ泊シテ外出セ

サルトカ此事實ヲ明認セラレサルヘカラス然ルニ單ニ自分カ陳述ヲ曖昧ニ附セラレ米子警察署ノ口供眞實トセラレ窃盜三犯ノ刑ニ處セラルヘキ理モ亦チ聞カス是レ全ク事實審問ノ不充分ニ起因スル儀ト心得不服ニ有之候事

第五條

米子警察署ノ口供眞實ナラサルヲ付前條々々ノ如ク申述スレトモ之レカ御採用ナキハ如何ニモ不當ノ判決ニシテ不服ニ堪ヘサルナリ何トナレハ法律上罪ヲ斷スルハ證ニ依ルトアリテ則チ自分カ眞實ノ白狀ヲ以テ罪ヲ斷セラルヘキノ處前陳ノ如ク己ニ簪ハ梶谷爲三郎ヨリ收受セシヲ明瞭陳述セシニヨリ米子警察署ノ口供不完全ナルヲ明カナレハ前載スル松江裁判所ノ判決ヲ破毀セラレノヲ伏テ奉仰候也

辨明

上告人由太郎ハ嚮ニ警察署ニ於テ爲タル口供ヲ翻異シ前供ハ警察官ノ拷訊ヲ受ケ爲ニ認服シタル口供ナリト申立ルト雖モ止タ口頭ノ述ノミニシテ果テ拷訊ヲ受ケタルノ證左ナク又窃盜ヲナサ、ルノ反證ナキニ因リ原裁判所カ前供ハ眞實ノ白狀ナリト判定シ窃盜三犯贓金五十圓以下ノ刑ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年九月十日松江裁判所ニ於テ仁瀬由太郎ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者ナリ

第一千三百五拾三號

○判文(喚出に參り不參り) 明治十四年九月廿二日上告
明治十四年十一月十五日判決

五七六

福岡縣豊前國京都郡矢山村平民

中村忠市

右忠市カ所爲ニ對シ明治十四年九月二十二日長崎裁判所管内小倉區裁判所ニ於テ左ノ裁判
ヲ言渡シタリ

其方儀同村中村郷三郎ヨリ相係リ勸解願出明治十四年九月七日召喚及ヒタル處他出中其
呼出狀ハ存セスト申立レヒ中村郷三郎ニ於テ右差紙ヲ拒ミタル旨申立ルノミナラス保長
金澤卯吉ニ於テ差拒ミタルヲモ證明スルニヨリ當廳ノ呼出ヲ受ケ故サラニ不參スル者
ト認定ス因テ明治十年第五號布告ニ擬シ罰金三圓申付ル

中村忠市ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十月一日附キ以テ大審院ニ上告爲シ
タル要旨左ノ如シ

第一條

御判文中明治十年第五號公布ニ擬シ云々ト有之依テ第五號公布ノ御趣意ヲ思考スルニ訴
訟人ニシテ召喚ヲ受ケ故サラニ不參運參スルモノ、爲メニ御決定相成タルモノト確知仕
候依之御申渡ノ趣キ不法ナリト思考仕候

第二條

自分ハ兼々筑前國宗像郡宮地嶽神社ニ心願仕候モノニテ明治十四年九月二日居宅ヲ出

立シテ豊前國企救郡小倉紺屋町佐々木雄助方へ止宿仕翌三日四日午前第八時迄滞在仕同
刻ヨリ筑前國遠賀郡黒崎迄罷越此黒崎ニハ自分實父母罷在候ニ付久方振ノ面會ニテ四日
午前第十一時三十分頃到着シテ四日五日此兩度宿泊仕翌六日早朝ヨリ該親元ヲ出立シテ
右ニ記載スル宮地嶽神社へ參詣仕凡^(里程十里)而シテ其夜該所近傍ノ宿屋渡世方ニ泊
仕翌七日午前第七時該所ヲ出立シテ同日午後七時頃筑前國黒崎表へ到着シ亦候實家元
止宿致候翌八日九日十日都合三泊仕而シテ翌十一日午前第六時右實家元ヲ出立シテ同日
午前九時頃企救郡小倉紺屋町佐々木雄助方ニ又候止宿仕候尙翌十二日モ止宿仕翌十三日
矢張同家ニ止宿仕居候處自分ニ於テ京都郡矢山村中村郷三郎ヲ被告ニシテ小倉警察署へ
告訴可致存意ニテ該署へ罷出告訴仕候處御尋問有之候テ其日ハ引取レトノ御沙汰ニ付右
佐々木雄助ニ歸宿仕ヘシ際ニ該署ヨリ十二日出頭可致様ノ御達信ヲ筑前國遠賀郡黒崎表
ヨリ使ノ者持參リ來リ候ニ付如何ノ次第柄ヤノ段篤ト承リ候ニハ貴殿不在中ニ京都郡矢
山村貴殿宅へ右警察署ノ御差紙到着セシモ何分不在ノ處ヨリ妻ニシテヨリ黒崎表へ送り
參リ候得共其節ハ最早貴殿小倉表ニ罷越居リ候趣ニテ直ニ貴殿居所迄持參候トノ使ノ者
ヨリ傳承アリ而シテ翌十四日午前第八時該署へ差紙持參出頭仕候處同日該署ヨリ小倉區裁
判所ニ御廻シニ相成候處同日時間遅クシテ其翌日則十五日午前第八時出頭仕候處御係リ
官ヨリ自分ニ御尋問ニハ其方ハ不參致シ居リ候段御尋問ヲ受ケタルモ自分ニ於テ前ニ記
明スル如ク舊里へ實父母ハ久方振ノ面會且ツハ宮地嶽神社へ參詣ノ處ヨリ夫々自分居
住所ノ不在ニテ更ニ小倉區裁判所ヨリ御召喚ノ儀ハ曾テ存シ不申何ツヤ商事カ或ハ職業

五七七

等ノ事ニテ他管轄へ他出スレハ御官廳へ其由ヲ申告シテ他出スルハ云フテ埃ス然ルニ本
件ノ如キハ我管轄内ニ在リテ殊更長ク兩親ニモ面會セス且ツハ神社へ參詣ノヲメ終ニ不
在仕候儀ニテ決シテ故サラニ他出仕候儀ニハ無御座候

第三條

明治十四年九月十六日該廳へ出頭仕候處前隙ノ通り御尋問ニ相成候得共御判文ニ記載ス
ル如ク決シテ自分ニ於テ御召喚狀ヲ拜受仕ラス尙又差拒事ハ毫モ無之段申上候

第四條

一明治十四年九月十七日尙前第三條ノ通り御尋問ニ相成候得共御差紙拒タル儀ハ曾テ無
御坐候段奉申上候而ルニ十七日ハ土曜日ニテ正午十二時ヨリ退廳仕リ直ニ佐々木雄助方
迄歸宿仕夫ヨリ豊前國京都郡矢山村自分居宅迄立歸リ妻「シチ」ヨリ自分ニ申分ニハ該
村金澤卯吉ノ使トシテ大下次郎ナルモノカ御差紙ヲ九月三日ニ持參候段自分ニ相語リ
タリ自分ニ於テ其御差紙ハ如何致シ候哉ノ段妻へ相尋候處妻「シチ」曰ク何分夫ハ本月
二日我家ヲ出立シ不在ニ付何分共金澤卯吉殿へ宜敷様取計ヒ吳候段使半次郎へ妻ヨリ依
頼ニ及ヨル處使半次郎ナルモノハ其隨御差紙ヲ手ニ握リナカラ直ニ持歸候而シテ翌十八日
日曜日ニテ豊前國企救郡小倉紺屋町佐々木雄助方迄亦候罷越候翌十九日刑事課へ出頭仕
候處御官吏ヨリ矢張御差紙ヲ差拒ミタル段御審問ニ相成候ニ付自分ハ十七日正午后ヨリ
京都郡居住所ニ立歸候處妻ヨリ前記ノ云々通テ奉申上候得共御開届ケニ不相成候日
一 第五條 豊前國小倉郡紺屋町佐々木雄助方一山前山三丁目四番地八番地番地番地

一明治十四年九月廿日午前第八時出頭仕居候得共同日ハ御尋問無之處ヨリ同月廿一日出
頭御受書ヲ可差出段御沙汰ニ付速ニ差上候翌廿一日尙又御刑事課へ午前第八時出頭仕候
處其日ヨリ御係リ官相替ルニ付翌廿二日出頭候様御沙汰ニ付御受書差上申候翌廿二日出
頭仕候處小國殿ヨリ亦御差紙ヲ差拒ミタルニ相違無之段被仰渡候得共前日ヨリ明瞭申
上候通り更ニ御差紙ハ拜受モ不仕且ツ差拒ミタル段毫モ無之候ト上申仕候處ヨリ右ノ如
ク御裁判御申渡ニ相成候

第六條

一豊前國京都郡矢山村外三ヶ村戸長相勤メ居ル中村郷三郎此戸長タルヤ我村外三ヶ村々
民ヨリ兼テ御成規ノ通り撰擧ノ上投票シテ我村外三ヶ村ノ戸長ト相成其我村内用掛リ金
澤卯吉トハ役務ノ上下殊更從來ヨリ睦間敷モノニシテ尙方今ハ殊ノ外親族同様ノ交際相
結ヒ居候程ノ間々柄故斷然兩名ニテ自分ノ不在中更ニ不存候モノヲ無形不實ノ書面ヲ取
拵ヘ小倉區裁判所ニ差出候儀ニテ已ニ御判文ニモ金澤卯吉ニ於テ差拒タルトテ證明スル
ニ依リト云々アレトモ自分ニ於テ實際御審問ヲ尽シ不盡不實ノ御裁判ト思考ス何トナレ
ハ爰ニ言上スル如ク御判文ニ掲載セシハ〔中村郷三郎ヨリ相係リ勸解願出〕云々トアル此
レヲ使シテ相渡サシムルモ自分ハ不在使則半次郎ハ空敷歸宿仕候事ハ已ニ使半次郎カ
確タル証據人タルハ玆テ實際判然タリ且又御係リ官ニ於テモ勸解出願ノ則原告郷三郎
ニ於テ御召喚狀被告則自分ノ手渡シニ致シ候哉ノ段モ御審理等無之一体勸解新願仕候得
ハ被告御召喚狀ヲ御下渡相成リ原告ヨリ直チニ被告者相渡スハ至當ノ儀ト奉存然ルニ本